

# 「戸田市における子育て支援活動」調査

共同研究報告書

---

2014年3月

目白大学社会学部地域社会学科／戸田市政策研究所



# 目次

序章 戸田市および本調査の概要.....	2
1. 埼玉県戸田市の概要	
2. 本調査の概要	
2.1. 調査の目的	
2.2. 調査対象と分析枠組み	
2.3. 調査の方法と有効回答数	
2.4. 調査データの分析とその手順	
3. 次章以降へ向けて	
第1章 本調査データの基礎的特徴 (1) .....	8
1. 対象者の年齢と家族構成	
1.1. 対象者の性別・年代	
1.2. 配偶者の有無、子どもの数、年齢	
1.3. 世帯年収	
1.4. 現在の住まい	
1.5. 現在の住まいの居住年数	
1.6. 最終学歴	
2. まとめ	
第2章 本調査データの基礎的特徴 (2) .....	14
1. 戸田市での生活	
1.1. 戸田市に住むようになった理由	
1.2. 戸田市から引っ越しをする場合の理由	
1.3. 地域の情報を得る手段	
1.4. 地域の情報を得る手段 (インターネット情報)	
1.5. 戸田市で生活することの不安	
2. 子育て支援サービス	
2.1. 望ましい助成	
2.2. 助成金を受ける望ましい年齢	
2.3. 通わせている施設	
2.4. 助成金の手続きについて	
2.5. 助成金の金額への満足度	
2.6. 子育て支援サービスの利用状況	
3. 子どものしつけ	
3.1. しつけの悩み	

- 3.2. どのようなときに悩むか
- 3.3. はじめて「しつけ」で悩んだのは子どもが何歳のときか
- 3.4. 「しつけ」に対する考え方

第3章 戸田市における子育て支援サービスの認知度と課題..... 30

- 1. はじめに
- 2. 分析のねらいと仮説
- 3. 使用する変数と基礎集計
  - 3.1. 独立変数の基礎集計
  - 3.2. 従属変数の基礎集計
- 4. 戸田市の子育て支援サービスと保育サービスとの関連性
  - 4.1. とだファミリーサポートセンター
  - 4.2. とだ子育てサロン
  - 4.3. 親子ふれあい広場
  - 4.4. 産前産後支援ヘルプサービス
  - 4.5. 病児・病後児保育
  - 4.6. まとめ
- 5. まとめと今後の課題

第4章 戸田市における子育て支援サービスの認知度と不安..... 40

- 1.問題意識
- 2.分析のねらいと仮説
- 3. 使用する変数と基礎集計
  - 3.1.独立変数の基礎集計
  - 3.2.従属変数の基礎集計
- 4.仮説Ⅰの検証
  - 4.1.子育てで親・兄弟・親戚に相談したい人数と子どもの年齢
  - 4.2.子育てで知人・友人に相談したい人数と子どもの年齢
  - 4.3.子育てでこども家庭相談センターに相談したい人数と子どもの年齢
- 5.仮説Ⅱの検証
  - 5.1.とだファミリーサポートセンターの認知度と子どもの年齢
  - 5.2.パパ・ママ応援ショップ事業の認知度と子どもの年齢
  - 5.3.子育て支援サービスについて一つでも知っている人と子どもの年齢
- 6. 考察

第5章 子育ての悩みをどこに相談したいか..... 48

- 1. 問題意識
- 2. 分析のねらいと仮説

3. 使用する変数と基礎集計
  - 3.1. 独立変数の基礎集計
  - 3.2. 従属変数の基礎集計
4. 分析
  - 4.1. 子どもの数と相談したい相手の関係
  - 4.2. 子どもの数と相談箇所の関連の強さ
5. まとめ

## 第6章 幼稚園・保育園に対する満足度とサービスの認知度①

—子どもの年齢に着目して—..... 56

1. 問題意識
2. 分析のねらいと仮説
3. 使用する変数と基礎集計
  - 3.1. 独立変数の基礎集計
  - 3.2. 従属変数の基礎集計
4. 仮説Ⅰの検証
5. 仮説Ⅱ、Ⅲの検証
6. 考察

## 第7章 幼稚園・保育園に対する満足度とサービスの認知度②

—子どもの数に着目して—..... 66

1. 問題意識
2. 分析のねらいと仮説
3. 使用する変数と基礎集計
  - 3.1. 独立変数の基礎集計
  - 3.2. 従属変数の基礎集計
4. 仮説Ⅰの検証
5. 仮説Ⅱ・Ⅲの検証 (①12歳以下の子供を持つ219人を対象とする分析)
6. 仮説Ⅱ・Ⅲの検証 ②子どもの数が1人、2人以上の場合
7. 考察

## 第8章 戸田市の子育て世代と福祉..... 78

1. 問題意識と仮説
  - 1.1. 問題意識
  - 1.2. 仮説
2. 使用した変数と基礎集計
  - 2.1. 使用した変数
  - 2.2. 独立変数の基礎集計

- 2.3.従属変数の基礎集計
- 3.分析
  - 3.1.仮説Ⅰの検証
  - 3.2.仮説Ⅱの検証
  - 3.3.仮説Ⅲの検証
- 4.考察と課題

第9章 戸田市における子育て世代の環境意識について..... 88

- 1. 問題意識と仮説
- 2. 使用した変数と基礎集計
  - 2.1. 独立変数の基礎集計
  - 2.2. 従属変数の基礎集計
- 3. クロス集計表による分析
  - 3.1. 緑化・美化活動への興味と子どもの人数
  - 3.2. 緑化・美化活動への興味と12歳以下の子どもの有無
  - 3.3. 花苗交換サービスの利用と子どもの有無
  - 3.4. 花苗交換サービスの利用と子どもの人数
  - 3.5. 花苗交換サービスと12歳以下の子どもの有無
  - 3.6. 「530運動」への参加と子どもの有無
  - 3.7. 「530運動」への参加と子どもの人数
  - 3.8. 「530運動」への参加と12歳以下の子どもの有無
- 4. 考察

第10章 子育て支援サービス認知度の規定要因..... 100

- 1. 本調査のまとめと問題の所在
- 2. 分析モデル
  - 2.1. 子育て支援サービスの認知度
  - 2.2. 統制変数：現在の状態
  - 2.3. 独立変数の基礎統計（1）
  - 2.4. 独立変数の基礎統計（2）
  - 2.5. 独立変数の基礎統計（3）
- 3. 子育て支援サービス認知度と独立変数の関連の強さ
- 4. 子育て支援サービス認知度の規定要因
- 5. 終わりに

【資料】

調査票.....	114
単純集計表.....	124

# 研究報告

## 序章 戸田市および本調査の概要

本報告書は、戸田市の市政運営に関する調査研究を行うことを目的に設置されている戸田市政策研究所と目白大学社会学部地域社会学科との共同で実施した「戸田市における子育て支援活動」調査の結果を取りまとめたものである。はじめに、戸田市の概要を記し、その上で本調査の実施方法等について説明する。

### 1. 埼玉県戸田市の概要



図1 戸田市の位置（出典：戸田市ホームページ）

図1に示したように戸田市は、埼玉県の南部に位置づいている総面積18.1km<sup>2</sup>の都市である。1985年の埼京線開通以降、戸田市は、東京へのアクセスが容易なことから、1985年には約76,000人だった人口が、1997年には100,000人を突破し、2012年には126,000人まで増加している（図2）。このような人口が増加する戸田市であるが、「統計からみた戸田市の暮らし（平成25年版）」では、2012年度では転入人口が一日あたり27.9人であるのに対して、転出人口は一日あたり24.4人となっており、人口数の維持はこの転入／転出のバランスの上で成り立っているのも事実である。そのことが、人口を年齢別にみても若年層が多い傾向にあること、人口の平均年齢は、38.9歳となっていることに現れている（図3）。これらは、東京へのアクセスがよいという職業上の便利さが若年層を誘引する要因になっている一方で、逆に他の都市への流動性も高めてしまう要因になりうることを示している。



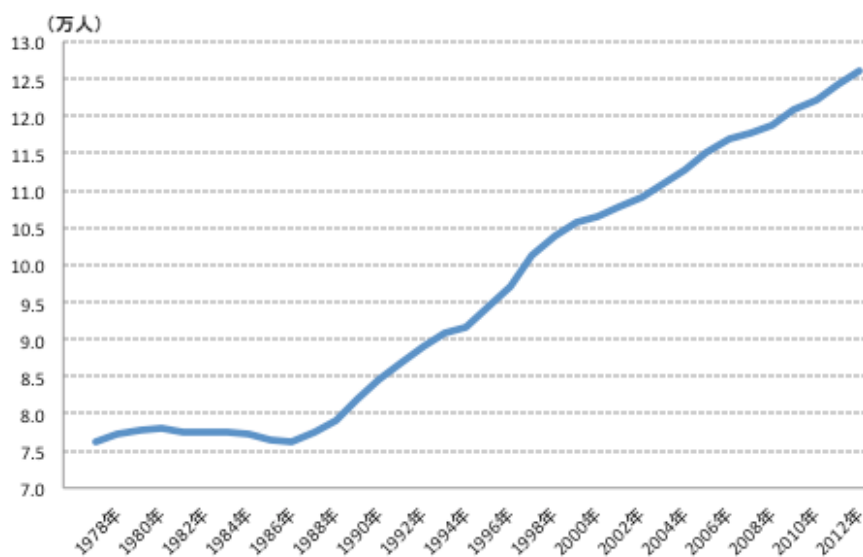


図2 戸田市の人口推移（「戸田市市民課 住民基本台帳人口」より作成）

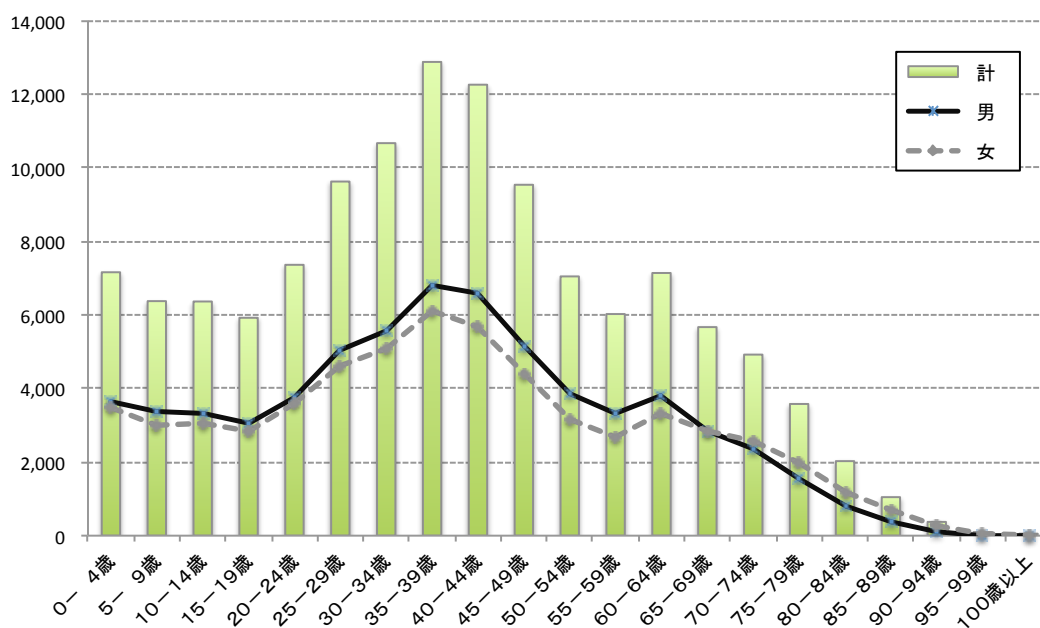


図3 戸田市の年齢別人口（「戸田市市民課 住民基本台帳人口」より作成）

## 2. 本調査の概要

本調査では、戸田市における若年層に目を向け、子育てする環境としての戸田市の政策はどのように人びとに受け止められているのか、人びとのニーズはどこにあるのか、行政は人びとのニーズに応えられているのかといった諸点を分析し、若年層の定住問題とも結

びつくであろう、「子育て支援サービス」に関する実態と意識を把握し、今後の市政運営に有益となる知見を描出することを目的とし実施された。

## 2.1 調査の目的：継続的な共同研究と本調査の位置

本調査は、戸田市の全人口の 1/3 を占める 20 代後半から 40 代前半に焦点を置き、その年代に多い「子育て世代」と「子育て世代」を応援する市民活動などの取り組みに目を向け、相互のニーズを調査し、戸田市の実情に即した子育て支援を検討するとともに、市民や行政が協働し、「子育て」世代を支える仕組みを考えていく。

この調査の背景には、これまで目白大学社会学部地域社会学科と戸田市の協働で実施してきた、人口移動や若年世帯意識、高齢者意識に関する調査結果において、市民活動の重要性が読み取れたことが関係している。このように、本調査は、これまでの継続的な目白大学と戸田市政策研究所の共同研究の結果を踏まえて見出された課題に対する調査として実施された。それゆえに、今後の市政運営として、市民と行政の協働はあらゆる領域で展開されるはずであると考えられる。

ともすれば、「子育て」は家庭内の問題であり、家族で解決すべき事柄のように思われるかもしれない。だが、ライフスタイルが多様化し、核家族、共働き世帯も増加している昨今において、さらに若年世帯の割合が高い戸田市においては、「子育て」を家庭の問題として捉えていくことは非現実的である。あるいは、転入人口と転出人口の双方の数が目立つ戸田市において、そのような若年層にとって住みやすい、安心して子育てができるまちづくりを目指して行くことが重要な課題であろう。それは、「子育て世代」にとって住みやすいまちづくりを進めることは、地域への愛着や絆を強める可能性があるためである。

したがって本調査の目的は、「子育て支援サービス」の認知、ニーズ、利用を探り、今後の「子育て支援サービス」の方向性を模索することにある。同時に、流入人口も多いが流出人口も多い要因が「子育て」に関する環境とも関連するのではないかという仮説を立てている。だが、ここで環境というと、建物や制度を整備すれば済む問題と思われるかもしれない。それに対して、本調査では、物理的問題、制度的問題もさることながら、「人とのつながり」に焦点を置き、行政と市民の協働の可能性を探る点に特徴がある。

## 2.2. 調査対象と分析枠組み

戸田市の 2013 年 1 月 1 日現在の人口は、128,171 人である。本調査では、「子育て」に焦点を置くため、調査の対象となる母集団は、は戸田市に居住する人全体ではなく、20 歳代から 50 歳代 76,752 人（男性 40,657 人、女性 36,095 人）となった。本調査では、サンプル数を 1500 人とし、年齢ごとの人口比率、推定回収率（平均想定回収率を 36%と設定）などを考慮し、住民基本台帳から無作為抽出した（表 1）。

さて、ここで「子育て」を問題とする本調査において、20 歳代から 50 歳代までの幅広い対象を設定した理由について触れよう。

第一に、ここまで無定義に用いてきた「子育て世代」という言葉とかかわってくる。本調査では、「子育て世代」を 0～5 歳までの未就学児童を育てる人たちと定義する。それら

を「現役」の「子育て世代」とするならば、「小学校に通う子どもを育てている人」や「中学校に通う子どもを育てる人」、「高校や大学」、それよりも年長の子どもを有する人の「子育て支援サービス」の認知やニーズを理解することで、時間軸を射程に入れた比較が可能となり、現在の問題が浮き彫りになると考えたためである。

第二に、本調査が「子育て支援サービス」の物理的問題や制度的問題だけでなく、「人とのつながり」に焦点を置いていることとかかわってくる。それは、戸田市で生活する多様な人たちが、生涯学習や市民活動、地域での活動に参加しているかを理解する中で、「子育て世代」の特徴を把握すると同時に、「人とのつながり」と「子育て」との関係が明らかになると考えたためである。

第三に、幅広い世代を対象とすることで、「子育て支援サービス」が現役の「子育て世代」のニーズに対応しているのかが測定出来るためである。同時に、将来世代に対してどのようなアプローチを行えば、定住人口の増加につながるのかといった足がかりが見えてくると考えられるためである。本調査の大枠となる分析枠組みを図示すると以下ようになる。

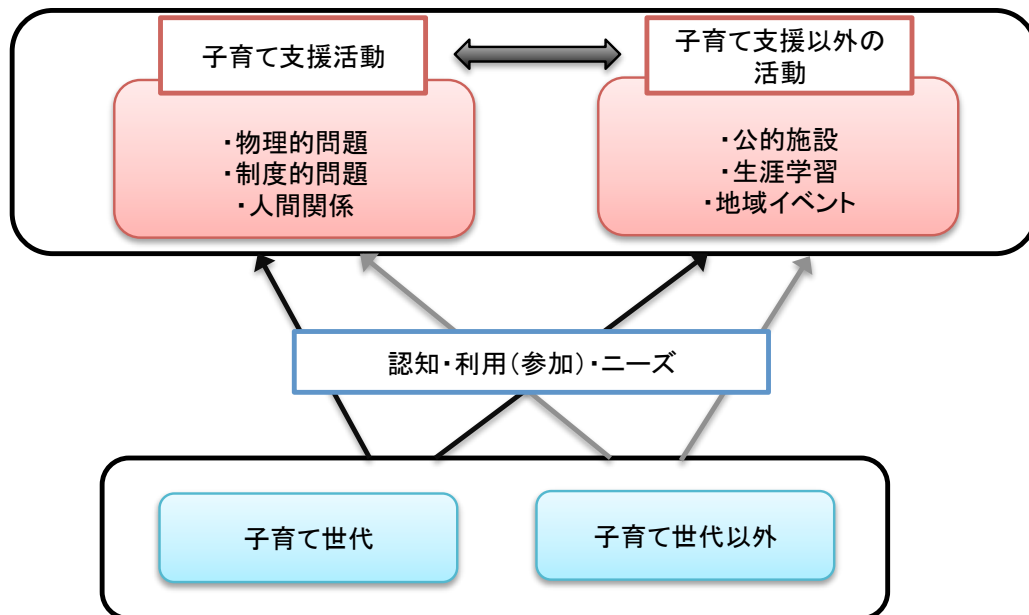


図4 本調査の分析枠組み

### 2.3. 調査の方法と有効回答数

調査は郵送法（郵送配布・郵送回収）で実施した。回答は無記名とし、返送先は戸田市政策研究所とした。調査実施スケジュールは、以下の通りである。調査票は2014年7月25日に発送し、8月22日までの返送を依頼した。その後、8月9日に、対象者全員に調査への協力に対する礼状を兼ねた督促ハガキを発送した。最終的な〆切を8月25日とした。

回収された調査票は577通で、その内、2通が対象外となる人物の回答であったり、白票であったりしたため、これら無回答とした。結果、有効票は575通であり、有効回収率は38.5%であった。サンプルと回答票の年齢の偏りは以下の通りであった。予測と重ね

ると、多少のズレはあるものの、人口の年齢構成バランスは押さえられていると考えられる。

表 1 母集団とサンプルの選定

	男	女	合計	比率	推定 層化抽出数	①計画 サンプル数*	②計画 サンプル数**	配布数 ***	依頼配布数 ****	回収数 予測	回収率想 定
55-59歳	3,259	2,665	5,924	7.72%	116	44.0	43	87	83	43	0.4950
50-54歳	4,267	3,448	7,715	10.05%	151	57.3	57	128	124	57	0.4450
45-49歳	5,505	4,732	10,237	13.34%	200	76.0	76	183	178	76	0.4150
40-44歳	6,774	5,966	12,740	16.60%	249	94.6	94	241	234	94	0.3900
35-39歳	6,438	5,797	12,235	15.94%	239	90.9	90	247	239	90	0.3650
30-34歳	5,708	5,117	10,825	14.10%	212	80.4	80	239	232	80	0.3350
25-29歳	4,903	4,674	9,577	12.48%	187	71.1	71	237	230	71	0.3000
20-24歳	3,803	3,696	7,499	9.77%	147	55.7	55	186	181	55	0.2950
	40,657	36,095	76,752		1500	570.0	566	1548	1500	566	

\* (推定層化抽出数×平均想定回収率)から算出

\*\* ①計画サンプル数のうち、小数点以下を切り捨てた数

\*\*\* 想定回収率をもとに算出した配布数

\*\*\*\* 配布数を1500へ傾斜配当した配布数

表 2 回収票の年齢構成

	度数	パーセント
55-59歳	31	5.4
50-54歳	60	10.5
45-49歳	77	13.5
40-44歳	103	18.0
35-39歳	107	18.7
30-34歳	86	15.0
25-29歳	66	11.5
20-24歳	42	7.3
合計	572	100.0

\* 無回答3票を除く

#### 2.4. 調査データの分析とその手順

8月25日をメ切として回収された調査票は、事前に戸田市政策研究所へ送付していたデータ入力マニュアルをもとに、戸田市で575通の内、208通の入力を9月中に終了させた。目白大学へ調査票一式が届いたのが10月3日であったため、10月7日に入力担当を決定し、10月14日までに履修者は各自、入力を行った。その後、エラーチェック、自由記述のコーディング作業を行い、報告書執筆へ向けての準備を進めた。

### 3. 次章以降へ向けて

以上が、本調査の概要である。1章では、調査データの基礎的特徴、2章では3章以降の各論で詳述できなかった質問項目について概観する。そして、3章以降の各論では、「子育て支援サービス」に対する認知、ニーズ、課題についてさまざまな論点から考察を行う。

尚、本調査では、問38以降で、法政大学大学院地域研究センターと分担調査を行った。そのため本報告書では、問38以降については巻末の単純集計表のみを掲載することとした。



## 第1章 本調査データの基礎的特徴 (1)

本章では、調査対象者の属性について概観する。

### 1. 対象者の年齢と家族構成

#### 1.1. 対象者の性別・年代

表1、2は、それぞれ対象者の性別、年代を示したものである。表1より、男性が217(37.7%)、女性が358(62.3%)であることが理解できる。また、表2からは、20代、30代で約50%、40代まで含めると全体の約80%を占めており、本調査における「子育て支援」の現状と課題を把握する目的に照らせば、多様な層をもとにした分析が可能になっていると思われる。

表1 回答者の性別

	度数	%
男性	217	37.7
女性	358	62.3
合計	575	100.0

表2 回答者の年代

	度数	%
20代	108	18.8
30代	193	33.6
40代	180	31.3
50代	91	15.8
無回答	3	0.5
合計	575	100.0

#### 1.2. 配偶者の有無、子どもの数、年齢

表3、表4は、配偶者の有無、子どもの有無を示したものである。表3より、対象者の内、約70%が配偶者がいること、表4より、全体の約60%が子どもをもつ人であることが理解できる。

表3 配偶者の有無

	度数	%
いる	413	71.8
いない	158	27.5
無回答	4	0.7
合計	575	100.0

表4 子どもの有無

	度数	%
いない	221	38.4
いる	349	60.7
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

表5、6は、子どもの数と年齢を示したものである。尚、子どもの年齢については、一人っ子的場合は、その年齢、2人以上の兄弟がいる場合は、一番下の子ども(年少の子ども)の年齢をもとにして集計したものである。

表5より、子どもが1人の人は、全体の21%、2人以上の子どもがいる人は全体の約40%ということがわかる。ここからは、子どもがいる人の中では約2/3が2人以上の兄弟がいることを読み取ることができる。表6より、子どもの年齢は、本調査で「子育て世代」と定義した「0-5歳」の子どもを持つ人が最も多いことが理解できる。

表5 子どもの数

	度数	%
0人	221	38.4
1人	121	21.0
2人以上	228	39.7
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

表6 子どもの年齢（年少の子ども）

	度数	%
子どもはいない	221	38.4
0-5歳	146	25.4
6-12歳	73	12.7
13歳以上	126	21.9
無回答	9	1.6
合計	575	100.0

表7 子どもの有無と対象者の年代

	年代				合計
	20代	30代	40代	50代	
子どもいない	81	70	54	15	220
%	36.8%	31.8%	24.5%	6.8%	100.0%
子どもいる	24	122	126	75	347
%	6.9%	35.2%	36.3%	21.6%	100.0%
合計	105	192	180	90	567
%	18.5%	33.9%	31.7%	15.9%	100.0%

表7は、子どもの有無と対象者の年代のクロス表である。子どもがいない人の内、20代、30代で約70%を占めていることがわかる。「子どもがいないこと」の解釈は難しいところであるが、若年層に「子どもがいない」人が多いということの解釈の1つとして、これから子どもを持つ可能性がある将来世代として捉えることもできるだろう。

### 1.3. 世帯年収

表8、9は、子どもの数、子どもの年齢別の世帯年収である。子どもの数でみた場合に、900万円以上の世帯の割合をみると、子どもの数の多い方が、900万円以上の世帯が多いことが理解できる。また、子どもの年齢が高い方が900万円以上の世帯が多いことと重ねるならば、ここからは、子どもの数や年齢と親の年代とが関係していることを示唆するだろう。

表 8 子どもの数と世帯年収

	100万円未満	100～300万円 未満	300～500万円 未満	500～700万円 未満	700～900万円 未満	900万円 以上	合計
0人	7	27	59	36	36	26	191
%	3.7%	14.1%	30.9%	18.8%	18.8%	13.6%	100.0%
1人	1	8	30	37	16	23	115
%	0.9%	7.0%	26.1%	32.2%	13.9%	20.0%	100.0%
2人以上	0	13	41	48	52	45	199
%	0.0%	6.5%	20.6%	24.1%	26.1%	22.6%	100.0%
合計	8	48	130	121	104	94	505
%	1.6%	9.5%	25.7%	24.0%	20.6%	18.6%	100.0%

表 9 子どもの年齢と世帯年収

	100万円未満	100～300万円 未満	300～500万円 未満	500～700万円 未満	700～900万円 未満	900万円以上	合計
0-5歳	0	8	39	45	33	16	141
%	0.0%	5.7%	27.7%	31.9%	23.4%	11.3%	100.0%
6-12歳	0	2	17	18	12	14	63
%	0.0%	3.2%	27.0%	28.6%	19.0%	22.2%	100.0%
13歳以上	1	10	13	22	23	38	107
%	0.9%	9.3%	12.1%	20.6%	21.5%	35.5%	100.0%
度数	1	20	69	85	68	68	311
%	0.3%	6.4%	22.2%	27.3%	21.9%	21.9%	100.0%

#### 1.4. 現在の住まい

表 10、11 は、子どもの数、年齢と現在の住まいのクロス表である。ここからは対象者の多くが分譲マンションに居住していること、子どもがいない人や子どもが幼い人が賃貸マンションに居住していることが理解できる。ここからは、東京都心へのアクセスがよいため、子どもを機に転入してくることや、子どもを機に転出することを考えている人びとの様子が理解できる。

表 10 子どもの数と現在の住まい

	一戸建て 持ち家	一戸建て 賃貸	分譲 マンショ ン	民間の 賃貸マン ション	民間の アパート	公営住宅	社宅・官舎 ・寮	合計
0人	50	4	68	62	29	1	7	221
%	22.6%	1.8%	30.8%	28.1%	13.1%	0.5%	3.2%	100.0%
1人	18	2	52	25	17	2	4	120
%	15.0%	1.7%	43.3%	20.8%	14.2%	1.7%	3.3%	100.0%
2人以上	86	1	96	22	10	2	10	227
%	37.9%	0.4%	42.3%	9.7%	4.4%	0.9%	4.4%	100.0%
合計	154	7	216	109	56	5	21	568
%	27.1%	1.2%	38.0%	19.2%	9.9%	0.9%	3.7%	100.0%



表 11 子どもの年齢と現在の住まい

	一戸建て 持ち家	一戸建て 賃貸	分譲 マンション	民間の 賃貸マン ション	民間の アパート	公営住宅	社宅・官舎 ・寮	合計
0-5歳	26	1	62	28	18	2	8	145
%	17.9%	0.7%	42.8%	19.3%	12.4%	1.4%	5.5%	100.0%
6-12歳	25	2	34	5	1	0	5	72
%	34.7%	2.8%	47.2%	6.9%	1.4%	0.0%	6.9%	100.0%
13歳以上	53	0	50	12	8	2	1	126
%	42.1%	0.0%	39.7%	9.5%	6.3%	1.6%	0.8%	100.0%
度数	104	3	146	45	27	4	14	343
%	30.3%	0.9%	42.6%	13.1%	7.9%	1.2%	4.1%	100.0%

1.5. 現在の住まいの居住年数

表 12、13 は、子どもの数、年齢と現在の住まいの居住年数のクロス表である。表 12 より、子どもがいない、もしくは子どもが一人の場合は、比較的最近戸田市で生活を始めたこと、表 13 より子どもが若いほど、居住年数が少ないことが読み取れる。ここからも戸田市の特徴が理解できる。

表 12 子どもの数と居住年数

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 9年未満	9年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
0人	16	46	29	23	12	30	30	34	220
%	7.3%	20.9%	13.2%	10.5%	5.5%	13.6%	13.6%	15.5%	100.0%
1人	9	43	22	13	8	10	10	6	121
%	7.4%	35.5%	18.2%	10.7%	6.6%	8.3%	8.3%	5.0%	100.0%
2人以上	4	29	32	21	22	58	33	28	227
%	1.8%	12.8%	14.1%	9.3%	9.7%	25.6%	14.5%	12.3%	100.0%
合計	29	118	83	57	42	98	73	68	568
%	5.1%	20.8%	14.6%	10.0%	7.4%	17.3%	12.9%	12.0%	100.0%

表 13 子どもの年齢と居住年数

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 9年未満	9年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	合計
0-5歳	10	49	38	18	15	11	1	3	145
%	6.9%	33.8%	26.2%	12.4%	10.3%	7.6%	0.7%	2.1%	100.0%
6-12歳	2	9	4	9	7	28	13	1	73
%	2.7%	12.3%	5.5%	12.3%	9.6%	38.4%	17.8%	1.4%	100.0%
13歳以上	1	13	12	5	8	29	29	29	126
%	0.8%	10.3%	9.5%	4.0%	6.3%	23.0%	23.0%	23.0%	100.0%
度数	13	71	54	32	30	68	43	33	344
%	3.8%	20.6%	15.7%	9.3%	8.7%	19.8%	12.5%	9.6%	100.0%

## 1.6. 最終学歴

表 14、15 は、子どもの数、年齢と回答者の最終学歴のクロス表である。表 14 より、子どもが 0 人、1 人の場合は大学・大学院卒が半数程度いることが読み取れる。また、表 15 からは、子どもの年齢が若いほど、大学・大学院卒が多いことが理解できる。ここからもまた、戸田市が、若年層が多く転入している特徴が理解できる。

表 14 子どもの数と最終学歴

	大学・大学院	短大・高専	専門・各種学校	高校	中学	その他	合計
0人	117	14	49	38	3	0	221
%	52.9%	6.3%	22.2%	17.2%	1.4%	0.0%	100.0%
1人	59	18	26	17	0	0	120
%	49.2%	15.0%	21.7%	14.2%	0.0%	0.0%	100.0%
2人以上	71	34	45	75	1	1	227
%	31.3%	15.0%	19.8%	33.0%	0.4%	0.4%	100.0%
合計	247	66	120	130	4	1	568
%	43.5%	11.6%	21.1%	22.9%	0.7%	0.2%	100.0%

表 15 子どもの年齢と最終学歴

	大学・大学院	短大・高専	専門・各種学校	高校	中学	その他	合計
0-5歳	69	17	36	23	0	1	146
%	47.3%	11.6%	24.7%	15.8%	0.0%	0.7%	100.0%
6-12歳	27	12	12	20	1	0	72
%	37.5%	16.7%	16.7%	27.8%	1.4%	0.0%	100.0%
13歳以上	34	22	21	48	0	0	125
%	27.2%	17.6%	16.8%	38.4%	0.0%	0.0%	100.0%
度数	130	51	69	91	1	1	343
%	37.9%	14.9%	20.1%	26.5%	0.3%	0.3%	100.0%

## 2. まとめ

以上、調査対象者の基礎的特徴を理解した。序章でも指摘したが、戸田市は、年齢構成でみれば平均年齢が低い傾向にあり、また転入、転出の数も多いという特徴がある。本調査の基礎的特徴からも、若い世代の居住者が多く、また子どもを機に転入したり、転出したりする様子が理解できた。これらを踏まえて、次章では、3 章以降で詳述出来なかった質問項目について簡単にみていくことにする。



## 第2章 本調査データの基礎的特徴 (2)

本章では、3章以降の各章では詳述できていない質問項目の基礎的特徴を示す。

### 1. 戸田市での生活

#### 1.1. 戸田市に住むようになった理由

表1、2は、子どもの数、年齢と戸田市に住むようになった理由のクロス表である。表1より子どものいない人は生まれて以来住んでいる人が多く、子どもの人数が1人、2人以上は結婚・離婚多いことが読み取れる。また、表2からは、子どもの年齢が幼いほど結婚・離婚が戸田市に住むようになった理由として多いと読み取れる。

表1 子どもの数と戸田市に住むようになった理由

	子どもの入学	親との同居・近居	職業上の理由	結婚・離婚	住宅の事情	生活環境上の理由	通勤通学の便	生まれて以来住んでいる	合計
0人	2	42	46	45	30	17	47	58	221
%	0.9%	19.0%	20.8%	20.4%	13.6%	7.7%	21.3%	26.2%	100.0%
1人	0	17	24	50	25	17	32	5	121
%	0.0%	14.0%	19.8%	41.3%	20.7%	14.0%	26.4%	4.1%	100.0%
2人以上	10	40	50	77	48	24	54	24	228
%	4.4%	17.5%	21.9%	33.8%	21.1%	10.5%	23.7%	10.5%	100.0%
合計	12	99	120	172	103	58	133	87	570
%	2.1%	17.4%	21.1%	30.2%	18.1%	10.2%	23.3%	15.3%	100.0%

\*パーセンテージはそれぞれ合計に対する「当てはまる」に○をつけた割合。

表2 子どもの年齢と戸田市に住むようになった理由

	子どもの入学	親との同居・近居	職業上の理由	結婚・離婚	住宅の事情	生活環境上の理由	通勤通学の便	生まれて以来住んでいる	合計
0-5歳	2	29	29	59	29	21	38	7	221
%	1.4%	19.9%	19.9%	40.4%	19.9%	14.4%	26.0%	4.8%	100.0%
6-12歳	4	8	16	25	17	10	20	4	121
%	5.5%	11.0%	21.9%	34.2%	23.3%	13.7%	27.4%	5.5%	100.0%
13歳以上	4	19	29	42	26	10	28	17	228
%	3.2%	15.1%	23.0%	33.3%	20.6%	7.9%	22.2%	13.5%	100.0%
度数	10	56	74	126	72	41	86	28	570
%	2.9%	16.2%	21.4%	36.5%	20.9%	11.9%	24.9%	8.1%	100.0%

\*パーセンテージはそれぞれ合計に対する「当てはまる」に○をつけた割合。

#### 1.2. 戸田市から引っ越しをする場合の理由

表3、4は、子どもの人数、年齢と戸田市から引っ越しする場合の理由のクロス表である。表3より子どもの人数が少ないほど仕事上の理由が多く、子どもの人数が多いほど引っ越す予定がないが多くなっていることが読み取れる。また表4からは、子どもの年齢が幼いほど生活環境上の理由が多くなっていると読み取れる。

表3 子どもの数と戸田市から引っ越しをする場合の理由

	子どもの 入学	親との同居・ 近居	職業上の 理由	結婚・離婚	住宅の事情	生活環境上の 理由	通勤通学 の便	引っ越し予定 はない	合計
0人	4	26	83	52	49	21	39	55	221
%	1.8%	11.8%	37.6%	23.5%	22.2%	9.5%	17.6%	24.9%	100.0%
1人	9	18	29	4	38	17	14	39	121
%	7.4%	14.9%	24.0%	3.3%	31.4%	14.0%	11.6%	32.2%	100.0%
2人以上	8	31	46	7	42	22	11	116	228
%	3.5%	13.6%	20.2%	3.1%	18.4%	9.6%	4.8%	50.9%	100.0%
合計	21	75	158	63	129	60	64	210	570
%	3.7%	13.2%	27.7%	11.1%	22.6%	10.5%	11.2%	36.8%	100.0%

\*パーセンテージはそれぞれ合計に対する「当てはまる」に○をつけた割合。

表4 子どもの年齢と戸田市から引っ越しをする場合の理由

	子どもの 入学	親との同居・ 近居	職業上の 理由	結婚・離婚	住宅の事情	生活環境上の 理由	通勤通学 の便	引っ越し予定 はない	合計
0-5歳	8	15	41	5	45	20	10	51	221
%	5.5%	10.3%	28.1%	3.4%	30.8%	13.7%	6.8%	34.9%	100.0%
6-12歳	5	13	21	1	12	8	6	32	121
%	6.8%	17.8%	28.8%	1.4%	16.4%	11.0%	8.2%	43.8%	100.0%
13歳以上	3	20	13	5	21	11	8	70	228
%	2.4%	15.9%	10.3%	4.0%	16.7%	8.7%	6.3%	55.6%	100.0%
度数	16	48	75	11	78	39	24	153	570
%	4.6%	13.9%	21.7%	3.2%	22.6%	11.3%	7.0%	44.3%	100.0%

\*パーセンテージはそれぞれ合計に対する「当てはまる」に○をつけた割合。

### 1.3. 地域の情報を得る手段

表5は、回答者の年代と情報入手手段（テレビ・ラジオ・新聞）のクロス表である。テレビ・ラジオ・新聞をとときどき利用する人が20代で35.8%、30代で31.5%、40代で36.4%、50代で41.6%と最も高くなっており、全体でも約60%が利用すると答えている。また、全く利用しない人は20代で9.5%、30代で18.8%、40代で12.1%、50代で6.5%と、利用していない人が比較的少ない情報入手手段ということがわかる。

表5 回答者の年代と情報入手手段（テレビ・ラジオ・新聞）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	9	29	34	23	95
%	9.5%	30.5%	35.8%	24.2%	100.0%
30代	31	49	52	33	165
%	18.8%	29.7%	31.5%	20.0%	100.0%
40代	20	39	60	46	165
%	12.1%	23.6%	36.4%	27.9%	100.0%
50代	5	18	32	22	77
%	6.5%	23.4%	41.6%	28.6%	100.0%
合計	65	135	178	124	502
%	12.9%	26.9%	35.5%	24.7%	100.0%

表6は、の回答者の年代と情報入手手段（広報誌）のクロス表である。全体的に見ると

ときどき利用すると答えた人が44.6%と一番高く、次いでほとんど利用しない人が24.9%、まったく利用しない人が18.1%、最後によく利用する人が12.4%となっており、30代、40代が似たような数値を示している。しかし、20代はほとんど利用しないと答えた人が32.3%と一番高く、次いでときどき利用すると答えた人が31.2%、まったく利用しないと答えた人が26.9%、よく利用すると答えた人が9.7%と、利用しないと答えている人が約60%を占めていることがわかる。これに対して50代の人とはときどき利用すると答えた人が51.3%と非常に多く、次いでほとんど利用しないが27.6%、よく利用するが13.2%、まったく利用しないが7.9%と、利用すると答えた人が約60%を占めている。

表6 回答者の年代と情報入手手段（広報紙）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	25	30	29	9	93
%	26.9%	32.3%	31.2%	9.7%	100.0%
30代	28	36	78	22	164
%	17.1%	22.0%	47.6%	13.4%	100.0%
40代	32	38	78	21	169
%	18.9%	22.5%	46.2%	12.4%	100.0%
50代	6	21	39	10	76
%	7.9%	27.6%	51.3%	13.2%	100.0%
合計	91	125	224	62	502
%	18.1%	24.9%	44.6%	12.4%	100.0%

表7は、回答者の年代と情報入手手段（フリーペーパー）のクロス表である。フリーペーパーをよく利用する人は20代が7.5%、30代が48%、40代が4.9%、50代が9.3%と年代に関係なく、よく利用するという人は少ないことがわかる。

表7 回答者の年代と情報入手手段（フリーペーパー）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	25	30	31	7	93
%	26.9%	32.3%	33.3%	7.5%	100.0%
30代	28	58	73	8	167
%	16.8%	34.7%	43.7%	4.8%	100.0%
40代	33	59	64	8	164
%	20.1%	36.0%	39.0%	4.9%	100.0%
50代	9	23	36	7	75
%	12.0%	30.7%	48.0%	9.3%	100.0%
合計	95	170	204	30	499
%	19.0%	34.1%	40.9%	6.0%	100.0%

表8は、回答者の年代と情報入手手段（掲示板・回覧板）のクロス表である。よく利用する人は20代で1.1%、30代で1.8%、40代で6.0%、50代で5.3%、全体で見ても3.6%と非常に少ないことがわかる。また、まったく利用しないと答えた人は全体で32.1%、ほとんど利用しないと答えた人が36.1%と、利用しないと答えた人が約70%も占めており、あまり

利用されていないと考えられる。

表 8 回答者の年代と情報入手手段（掲示板・回覧板）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	44	29	19	1	93
%	47.3%	31.2%	20.4%	1.1%	100.0%
30代	47	62	52	3	164
%	28.7%	37.8%	31.7%	1.8%	100.0%
40代	50	60	46	10	166
%	30.1%	36.1%	27.7%	6.0%	100.0%
50代	19	29	23	4	75
%	25.3%	38.7%	30.7%	5.3%	100.0%
合計	160	180	140	18	498
%	32.1%	36.1%	28.1%	3.6%	100.0%

表 9 は、回答者の年代と情報入手手段（インターネット）のクロス表である。全体で見るとよく利用する人が 46.2%、ときどき利用する人が 34.5%と約 80%が利用すると答えている。20代でよく利用する人が 52.5%、ときどき利用する人が 27.3%、30代でよく利用する人が 57.1%、ときどき利用する人が 31.6%となっており、どちらも利用する人が約 80%を占めている。しかし、30代以上は利用する割合が減っており、40代でよく利用する人が 40.8%、ときどき利用する人が 40.2%、50代でよく利用する人が 26.5%、ときどき利用する人が 37.3%と低くなっていることがわかる。

表 9 回答者の年代と情報入手手段（インターネット）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	8	12	27	52	99
%	8.1%	12.1%	27.3%	52.5%	100.0%
30代	9	11	56	101	177
%	5.1%	6.2%	31.6%	57.1%	100.0%
40代	13	20	70	71	174
%	7.5%	11.5%	40.2%	40.8%	100.0%
50代	12	18	31	22	83
%	14.5%	21.7%	37.3%	26.5%	100.0%
合計	42	61	184	246	533
%	7.9%	11.4%	34.5%	46.2%	100.0%

#### 1.4. 地域の情報を得る手段（インターネット情報）

表 10 は回答者の年代と情報入手手段(パソコン)のクロス表である。全体で見るとよく利用すると答えた人が 59.1%、ときどき利用すると答えた人が 31.9%と約 90%を占めている。このことから、パソコンを情報入手手段として利用している人が比較的多いと考えられる。

表 10 回答者の年代と情報入手手段（パソコン）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	7	3	26	39	75
%	9.3%	4.0%	34.7%	52.0%	100.0%
30代	4	9	54	76	143
%	2.8%	6.3%	37.8%	53.1%	100.0%
40代	7	5	31	89	132
%	5.3%	3.8%	23.5%	67.4%	100.0%
50代	0	1	17	33	51
%	0.0%	2.0%	33.3%	64.7%	100.0%
合計	18	18	128	237	401
%	4.5%	4.5%	31.9%	59.1%	100.0%

表 11 は回答者の年代と情報入手手段(携帯電話)のクロス表である。まったく利用しないと答えた人がどの年代も一番高く 20代は 58.2%、30代は 69.9%、40代は 59.1%、50代は 36.8%となっている。

表 11 回答者の年代と情報入手手段（携帯電話）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	39	7	10	11	67
%	58.2%	10.4%	14.9%	16.4%	100.0%
30代	93	11	12	17	133
%	69.9%	8.3%	9.0%	12.8%	100.0%
40代	65	16	17	12	110
%	59.1%	14.5%	15.5%	10.9%	100.0%
50代	14	12	10	2	38
%	36.8%	31.6%	26.3%	5.3%	100.0%
合計	211	46	49	42	348
%	60.6%	13.2%	14.1%	12.1%	100.0%

表 12 は回答者の年代と情報入手手段(スマートフォン)のクロス表である。20代、30代、40代はよく利用する人がそれぞれ 75.7%、67.8%、47.1%と一番高いのに対し、50代はまったく利用しないと答えた人の 38.6%が一番高くなっている。このことから、20代、30代などの若い世代はスマートフォンを情報入手手段として使用しているのに対し、50代などの比較的歳をとっている世代はスマートフォンを情報入手手段として使用していないと考えられる。



表 12 回答者の年代と情報入手手段（スマートフォン）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	6	2	10	56	74
%	8.1%	2.7%	13.5%	75.7%	100.0%
30代	22	2	24	101	149
%	14.8%	1.3%	16.1%	67.8%	100.0%
40代	35	3	25	56	119
%	29.4%	2.5%	21.0%	47.1%	100.0%
50代	17	6	8	13	44
%	38.6%	13.6%	18.2%	29.5%	100.0%
合計	80	13	67	226	386
%	20.7%	3.4%	17.4%	58.5%	100.0%

表 13 は回答者の年代と情報入手手段(タブレット PC)のクロス表である。まず全体で見ると、まったく利用しない人が 75.4%、ほとんど利用しない人が 4.3%、ときどき利用する人が 7.8%、よく利用する人が 12.5%となっており、利用しない人が約 80%を占めていることがわかる。年齢別に見ても 20 代で全く利用しない人 73.1%、30 代は 79.4%、40 代は 72.2%、50 代は 74.4%とタブレット PC を情報入手手段として利用していない人がほとんどだと言ええる。

表 13 回答者の年代と情報入手手段（タブレット PC）

	まったく利用 しない	ほとんど 利用しない	ときどき 利用する	よく利用する	合計
20代	49	2	8	8	67
%	73.1%	3.0%	11.9%	11.9%	100.0%
30代	104	7	6	14	131
%	79.4%	5.3%	4.6%	10.7%	100.0%
40代	78	4	11	15	108
%	72.2%	3.7%	10.2%	13.9%	100.0%
50代	29	2	2	6	39
%	74.4%	5.1%	5.1%	15.4%	100.0%
合計	260	15	27	43	345
%	75.4%	4.3%	7.8%	12.5%	100.0%

#### 1.5. 戸田市で生活することの不安

表 14 と表 15 は、子どもの数、子どもの年齢と生活上の不安のクロス表である。子どもの人数が多いほど犯罪に対して不安を持つ人が多いと読み取れる。また表 15 からは、子どもの年齢は関係なく犯罪に対して不安を持っていることが読み取れる。

表 14 子どもの数と生活上の不安

	街灯が 少ない	警察署が ない	犯罪	近隣との関わり がない	不安はない	その他	合計
0人	37	19	62	18	62	6	204
%	18.1%	9.3%	30.4%	8.8%	30.4%	2.9%	100.0%
1人	18	17	38	9	23	3	108
%	16.7%	15.7%	35.2%	8.3%	21.3%	2.8%	100.0%
2人以上	28	27	112	9	33	5	214
%	13.1%	12.6%	52.3%	4.2%	15.4%	2.3%	100.0%
合計	83	63	212	36	118	14	526
%	15.8%	12.0%	40.3%	6.8%	22.4%	2.7%	100.0%

表 15 子どもの年齢と生活上の不安

	街灯が 少ない	警察署が ない	犯罪	近隣との関わり がない	不安はない	その他	合計
0-5歳	19	15	53	13	28	6	134
%	14.2%	11.2%	39.6%	9.7%	20.9%	4.5%	100.0%
6-12歳	4	18	40	1	7	1	71
%	5.6%	25.4%	56.3%	1.4%	9.9%	1.4%	100.0%
13歳以上	23	11	55	4	20	1	114
%	20.2%	9.6%	48.2%	3.5%	17.5%	0.9%	100.0%
度数	46	44	148	18	55	8	319
%	14.4%	13.8%	46.4%	5.6%	17.2%	2.5%	100.0%

## 2. 子育て支援サービス

### 2.1. 望ましい助成

表 16、17 は、子どもの数、子どもの年齢別の望ましい助成対象のクロス表である。子どもの数でみた場合に、保育園・幼稚園へ通わせている子どもの割合をみると、子どものいない家庭の方が、助成対象と考える割合が多いことが理解できる。また、子どもの年齢をみると、子どもの年齢が幼いほど、助成を必要としている結果がわかる。

表 16 子どもの数と望ましい助成対象

	保育園へ通わせて いる子ども	幼稚園へ通わせて いる子ども	家庭保育室へ 通わせて いる子ども	幼稚園・保育園 へ通わせて いない子ども	小学生への 進学の際	合計
0人	157	138	65	73	80	221
%	71.0%	62.4%	29.4%	33.0%	36.2%	100.0%
1人	64	57	36	26	50	121
%	52.9%	47.1%	29.8%	21.5%	41.3%	100.0%
2人以上	96	127	49	30	97	228
%	42.1%	55.7%	21.5%	13.2%	42.5%	100.0%
合計	317	322	150	129	227	570
%	55.6%	56.5%	26.3%	22.6%	39.8%	100.0%

表 17 子どもの年齢と望ましい助成対象

	保育園へ通わせて いる子ども	幼稚園へ通わせて いる子ども	家庭保育室へ 通わせて いる子ども	幼稚園・保育園 へ通わせて いない子ども	小学生への 進学の際	合計
0-5歳	79	88	46	25	70	146
%	54.1%	60.3%	31.5%	17.1%	47.9%	100.0%
6-12歳	25	32	15	9	35	73
%	34.2%	43.8%	20.5%	12.3%	47.9%	100.0%
13歳以上	54	62	22	21	39	126
%	42.9%	49.2%	17.5%	16.7%	31.0%	100.0%
度数	158	182	83	55	144	345
%	45.8%	52.8%	24.1%	15.9%	41.7%	100.0%

## 2.2. 助成金を受ける望ましい年齢

表 18、19 は、子どもの数、子どもの年齢別の助成を受けるに望ましい年齢のクロス表である。子どもの数でみた場合に、0～6歳の割合をみると、子どもの数が少ない方が、助成金を受けるに望ましい年齢であることが理解できる。また、子どもの年齢が低い方が助成金を受けるに望ましい年齢と答えていることと重ねると、現状で必要としている人が多いことが読み取れる。

表 18 子どもの数と助成を受けるに望ましい年齢

	0～6歳	小学生	中学生	高校生	大学生	合計
0人	103	44	19	28	12	206
%	50.0%	21.4%	9.2%	13.6%	5.8%	100.0%
1人	52	19	17	18	10	116
%	44.8%	16.4%	14.7%	15.5%	8.6%	100.0%
2人以上	69	28	41	59	20	217
%	31.8%	12.9%	18.9%	27.2%	9.2%	100.0%
合計	224	91	77	105	42	539
%	41.6%	16.9%	14.3%	19.5%	7.8%	100.0%

表 19 子どもの年齢と助成を受けるに望ましい年齢

	0～6歳	小学生	中学生	高校生	大学生	合計
0-5歳	69	25	17	25	5	141
%	48.9%	17.7%	12.1%	17.7%	3.5%	100.0%
6-12歳	15	8	24	19	4	70
%	21.4%	11.4%	34.3%	27.1%	5.7%	100.0%
13歳以上	36	13	17	32	20	118
%	30.5%	11.0%	14.4%	27.1%	16.9%	100.0%
度数	120	46	58	76	29	329
%	36.5%	14.0%	17.6%	23.1%	8.8%	100.0%

## 2.3. 通わせている施設

表 20、21 は、子どもの数、子どもの年齢別の通わせている施設のクロス表である。子どもの数が多い方が私立幼稚園に通わせている割合が多く、逆に、子どもの数が少ない方が公

立保育園に通わせていることがわかる。また、子どもの年齢でみると年齢が高いほど、公立保育園へ通わせている割合が多く、また私立幼稚園の割合も高い。ここからは、子育て世代のライフスタイルの多様化が理解できる。

表 20 子どもの数と通わせている施設

	公立保育園	私立保育園	家庭保育室	公立幼稚園	私立幼稚園	通わせていない	合計
0人	79	11	1	72	41	5	209
%	37.8%	5.3%	0.5%	34.4%	19.6%	2.4%	100.0%
1人	27	16	7	15	38	15	118
%	22.9%	13.6%	5.9%	12.7%	32.2%	12.7%	100.0%
2人以上	41	27	3	11	137	9	228
%	18.0%	11.8%	1.3%	4.8%	60.1%	3.9%	100.0%
合計	147	54	11	98	216	29	555
%	26.5%	9.7%	2.0%	17.7%	38.9%	5.2%	100.0%

表 21 子どもの年齢と通わせている施設

	公立保育園	私立保育園	家庭保育室	公立幼稚園	私立幼稚園	通わせていない	合計
0-5歳	25	24	9	14	49	24	145
%	17.2%	16.6%	6.2%	9.7%	33.8%	16.6%	100.0%
6-12歳	17	9	0	5	42	0	73
%	23.3%	12.3%	0.0%	6.8%	57.5%	0.0%	100.0%
13歳以上	25	9	0	6	84	0	124
%	20.2%	7.3%	0.0%	4.8%	67.7%	0.0%	100.0%
度数	67	42	9	25	175	24	342
%	19.6%	12.3%	2.6%	7.3%	51.2%	7.0%	100.0%

#### 2.4. 助成金の手続きについて

表 22、23 は、子どもの数、年齢と助成制度の手続き難易度のクロス表である。表 22 より、全体的には、子どもが1人の場合も2人以上の場合も難易度に対して「どちらでもない」と感じている割合が高い。「どちらでもない」を除いて、難しい、簡単のみで見ると、子どもの数が1人の場合の方が、2人以上に比べて助成制度の手続きが難しいとされていることが読み取れる。また、表 23 からも「どちらでもない」と回答した割合が高いことが理解できるが、「どちらでもない」を除いて見ると、子どもの年齢が幼い方が、助成制度の手続きが難しいとされている割合が高いことが分かる。これらのことから、子どもが1人や幼い子どもがいる人の方が、助成制度を難しいと感じていることが理解できる。

表 22 子どもの数と助成制度の手続き難易度

	難しい	やや難しい	どちらでもない	やや簡単	簡単	合計
1人	6	21	47	2	5	81
%	7.4%	25.9%	58.0%	2.5%	6.2%	100.0%
2人以上	3	17	74	8	11	113
%	2.7%	15.0%	65.5%	7.1%	9.7%	100.0%
合計	9	38	121	10	16	194
%	4.6%	19.6%	62.4%	5.2%	8.2%	100.0%

表 23 子どもの数と助成制度の手続き難易度

	難しい	やや難しい	どちらでもない	やや簡単	簡単	合計
0-5歳	6	30	84	5	7	132
%	4.5%	22.7%	63.6%	3.8%	5.3%	100.0%
6-12歳	3	8	37	5	9	62
%	4.8%	12.9%	59.7%	8.1%	14.5%	100.0%
合計	9	38	121	10	16	194
%	4.6%	19.6%	62.4%	5.2%	8.2%	100.0%

## 2.5. 助成金の金額への満足度

表 24、25 は、子どもの数、年齢と助成金の金額への満足度のクロス表である。表 24 より、子どもが 1 人の場合は、助成金を利用していない割合が高いことが分かる。2 人以上になってくると、満足している人より不満に感じている人の割合が高いことが分かる。また、表 25 からは、子どもの年齢が若い人よりも高い人の方が助成金の金額に対して不満に感じている割合が高いことが理解できる。これらのことから、子どもが幼い時は、まだ義務教育であったりするため、あまりお金がかからないので不満に思う割合が低く、年齢が上がるにつれて子どもにかかるお金が増えるので、不満の割合が高くなるのだろう。

表 24 子どもの数と助成金の金額への満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用していない	合計
1人	3	15	13	17	36	84
%	3.6%	17.9%	15.5%	20.2%	42.9%	100.0%
2人以上	8	25	31	22	30	116
%	6.9%	21.6%	26.7%	19.0%	25.9%	100.0%
合計	11	40	44	39	66	200
%	5.5%	20.0%	22.0%	19.5%	33.0%	100.0%

表 25 子どもの年齢と助成金の金額への満足度

	満足	やや満足	やや不満	不満	利用していない	合計
0-5歳	4	26	25	31	51	137
%	2.9%	19.0%	18.2%	22.6%	37.2%	100.0%
6-12歳	7	14	19	8	15	63
%	11.1%	22.2%	30.2%	12.7%	23.8%	100.0%
合計	11	40	44	39	66	200
%	5.5%	20.0%	22.0%	19.5%	33.0%	100.0%

## 2.6. 子育て支援サービスの利用状況

表 26 は、子どもの数と子育て支援サービスの利用状況のクロス表である。表 26 より、子どもが 2 人以上である場合の方が、利用人数が多いことが読み取れる。ここで、最も利用が多いのが、「親子ふれあい広場」と「パパ・ママ応援ショップ事業」である。子ども一人の場合の方が若干多いが、どちらにしても親は子どもとふれあう機会を多くとろうとす

る傾向にある。また、子どもの人数が2人以上となると経済的負担を少なくするためにも、割引などのサービスが受けられる子育て家庭への優待制度を実施している施設を有効活用していることも推察される。

表 26 子どもの数と子育て支援サービスの利用状況

	とだファミリーサポートセンター	とだ子育てサロン	親子ふれあい広場	産前産後支援ヘルプサービス	病児・病後児保育	一時保育	パパ・ママ応援ショップ事業	利用していない	合計
1人	6	12	16	4	4	12	16	4	88
%	6.8%	13.6%	18.2%	4.5%	4.5%	13.6%	18.2%	4.5%	100.0%
2人以上	5	10	18	2	3	10	18	2	118
%	4.2%	8.5%	15.3%	1.7%	2.5%	8.5%	15.3%	1.7%	100.0%
合計	11	22	34	6	7	22	34	6	206
%	5.3%	10.7%	16.5%	2.9%	3.4%	10.7%	16.5%	2.9%	100.0%

表 27 は、子どもの年齢と子育て支援サービスの利用状況のクロス表である。表 27 より、全体的に、子どもの年齢が0～5歳の場合が、子ども6～12歳に比べて半数以上となり、子どもの年齢が幼いほど利用人数が高いことが読み取れる。また、サービスを利用していない人数も表 26 に比べて多いという結果となり、認知度が低いことが理解できる。

表 27 子どもの年齢と子育て支援サービスの利用状況

	とだファミリーサポートセンター	とだ子育てサロン	親子ふれあい広場	産前産後支援ヘルプサービス	病児・病後児保育	一時保育	パパ・ママ応援ショップ事業	利用していない	合計
0-5歳	8	21	31	6	5	15	90	35	142
%	5.6%	14.8%	21.8%	4.2%	3.5%	10.6%	63.4%	24.6%	100.0%
6-12歳	3	1	3	0	2	8	42	21	64
%	4.7%	1.6%	4.7%	0.0%	3.1%	12.5%	65.6%	32.8%	100.0%
合計	11	22	34	6	7	23	132	56	206
%	5.3%	10.7%	16.5%	2.9%	3.4%	11.2%	64.1%	27.2%	100.0%

表 28 は、子どもの数でみた、子育て支援サービスの利用と認知度の差を示した表である。基本的に認知はされているが、利用人数は低い傾向にある。その中で、最も差が見られたのは、「パパ・ママ応援ショップ事業」である。知っていても実際には利用するまでは至っていないことが理解できる。また、子ども1人の場合では、保育に関するサービスの差が高い傾向にあり、子ども2人以上の場合では、子育てに関するサービスの差が高い傾向にある。子どもの数によって、認知はされているにもかかわらず利用していないサービスで違いがあることが理解できる。

表 29 は子どもの年齢でみた、子育て支援サービスの利用と認知度の差を示した表である。こちらも基本的に認知はされているが、利用人数は低い傾向にある。全体的に大きな差は見られないが、最も差が見られたのは「とだファミリーサポートセンター」である。そして、子どもの年齢が高い方が若干認知度の差が大きい傾向にある。子どもが大きくなっていくと日々の子育てについて話し合う場を重要視していく傾向にあることが要因として考えられる。その他は年齢であまり差はなく、どちらかといえば子どもが0～5歳の方が、知

っていても利用はしていない傾向にある。

表 28 子育て支援サービスの利用と認知度（問 9）の差（子どもの数）

	とだファミリー サポート センター	とだ子育て サロン	親子ふれあい 広場	産前産後 支援ヘルプ サービス	病児・病後児 保育	一時保育	パパ・ママ 応援 ショップ事業
1人	-35.6%	-31.0%	-23.1%	-25.9%	-29.2%	-42.9%	-69.8%
2人以上	-57.4%	-38.7%	-27.1%	-19.9%	-28.7%	-41.9%	-72.7%
合計	-48.2%	-35.4%	-25.4%	-22.4%	-28.9%	-42.3%	-71.5%

表 29 子育て支援サービスの利用と認知度（問 9）の差（子どもの年齢）

	とだファミリー サポート センター	とだ子育て サロン	親子ふれあい 広場	産前産後 支援ヘルプ サービス	病児・病後児 保育	一時保育	パパ・ママ 応援 ショップ事業
0-5歳	-43.0%	-33.1%	-25.5%	-28.7%	-30.7%	-46.9%	-24.3%
6-12歳	-58.7%	-40.7%	-26.3%	-9.9%	-25.1%	-31.2%	-23.1%
合計	-48.2%	-35.4%	-25.4%	-22.4%	-28.9%	-41.8%	-23.9%

### 3. 子どものしつけ

#### 3.1. しつけの悩み

表 30 は子どもの数と「しつけ」の悩みのクロス表である。1人、2人、全体のそれぞれで「ある」「まったくない」よりも「時々ある」が 50%を越えて多いことが読み取れる。ここから、子どもの数と「しつけ」の悩みは子どもの人数が違ってもあまり差がない傾向にあると言える。

表 30 子どもの数と「しつけ」の悩み

	ある	時々ある	まったくない	合計
1人	26	52	11	89
%	29.2%	58.4%	12.4%	100.0%
2人以上	47	67	4	118
%	39.8%	56.8%	3.4%	100.0%
合計	73	119	15	207
%	35.3%	57.5%	7.2%	100.0%

表 31 は子どもの年齢と「しつけ」の悩みのクロス表である。0-5歳の場合、「時々ある」が 57.7%。6-12歳の場合、が 56.9%とほかの「ある」「まったくない」よりも高い結果になった。このことから年齢には関係なく「しつけ」についての悩みはいつまでもあると考えられる。

表 31 子どもの年齢と「しつけ」の悩み

	ある	時々ある	まったくない	合計
0-5歳	49	82	11	142
%	34.5%	57.7%	7.7%	100.0%
6-12歳	24	37	4	65
%	36.9%	56.9%	6.2%	100.0%
合計	73	119	15	207
%	35.3%	57.5%	7.2%	100.0%

3.2. どのようなときに悩むか

表 32, 33 は子どもの数と子育て中どのようなことで悩むのかのクロス表である。2 つまで選択してもらった。一番多かった理由として「ついイライラしてしまったとき」が、子ども 1 人の場合が 52.2%、2 人以上が 49.5%。ここから親自身の感情と子どもとの関わり方に悩む人が多いとわかる。2 つ目に多かった悩みは「危ないことをしたとき」で、子ども 1 人の場合、31.0%、2 人以上の 29.5%だった。ここからは子どもの身を心配しているからの悩みだと考えられる。

表 32 子どもの数と子育ての悩み（1 つ目）

	ついイライラ してしまったとき	人に迷惑を かけたとき	他の子どもに 乱暴したとき	食事の好き嫌いや 食べ散らかしが あったとき	親に口答え したとき	危ないことを したとき	片付けや着替えを 自分でやらなかった とき	その他	合計
1人	36	5	4	10	5	4	2	3	69
%	52.2%	7.2%	5.8%	14.5%	7.2%	5.8%	2.9%	4.3%	100.0%
2人以上	55	27	0	7	8	0	6	8	111
%	49.5%	24.3%	0.0%	6.3%	7.2%	0.0%	5.4%	7.2%	100.0%
合計	93	32	4	19	13	4	8	12	180
%	50.3%	17.3%	2.2%	10.3%	7.0%	2.2%	4.3%	6.5%	100.0%

表 33 子どもの数と子育ての悩み（2 つ目）

	人に迷惑を かけたとき	他の子どもに 乱暴したとき	食事の好き嫌いや 食べ散らかしが あったとき	親に口答え したとき	危ないことを したとき	片付けや着替えを 自分でやらなかった とき	その他	合計
1人	3	5	3	3	9	5	1	29
%	10.3%	17.2%	10.3%	10.3%	31.0%	17.2%	3.4%	100.0%
2人以上	9	4	9	11	23	18	4	78
%	11.5%	5.1%	11.5%	14.1%	29.5%	23.1%	5.1%	100.0%
合計	12	9	12	14	32	23	5	107
%	11.2%	8.4%	11.2%	13.1%	29.9%	21.5%	4.7%	100.0%

表 34, 35 は子どもの年齢と子育ての悩みについてのクロス表である。表 34, 35 「人に迷惑をかけたとき」では 1 つ目の 0~5 歳で 16.2%、6~12 歳で 22.4%であり、2 つ目の 0~5 歳 5.8%、6 歳~12 歳 21.1%となった。「親に口答えしたとき」で悩んでいる人は表 34 から、0~5 歳で 6.8%、6~12 歳で 8.6%であり、表 35 の 0~5 歳では 10.1%。6 歳~12 歳では 18.4%だった。ここから、6~12 歳の子どもがいるほうがより悩んでいると考えられる。「食事の好き嫌いや食べ散らかしがあった時」は表 34 で、0~5 歳で 11.1%、6~12 歳



で6.9%。表35で、0～5歳は17.4%、6～12歳が0.0%だった。ここからは子どもがご飯を食べるようになって成長していくことからくる悩みだと考えられるから0～5歳の子供を持つ親が悩んでいるのだろう。

表34 子どもの年齢と子育ての悩み（1つ目）

	ついイライラしてしまっ たとき	人に迷惑を かけたとき	他の子どもに 乱暴したとき	食事の好き嫌いや 食べ散らかしが あったとき	親に口答え したとき	危ないことを したとき	片付けや着替えを 自分でやらなかった とき	その他	合計
0-5歳	59	19	4	13	8	4	3	7	117
%	50.4%	16.2%	3.4%	11.1%	6.8%	3.4%	2.6%	6.0%	100.0%
6-12歳	30	13	0	4	5	0	4	2	58
%	51.7%	22.4%	0.0%	6.9%	8.6%	0.0%	6.9%	3.4%	100.0%
合計	89	32	4	17	13	4	7	9	175
%	50.9%	18.3%	2.3%	9.7%	7.4%	2.3%	4.0%	5.1%	100.0%

表35 子どもの年齢と子育ての悩み（2つ目）

	人に迷惑を かけたとき	他の子どもに 乱暴したとき	食事の好き嫌いや 食べ散らかしが あったとき	親に口答え したとき	危ないことを したとき	片付けや着替えを 自分でやらなかった とき	その他	合計
0-5歳	4	7	12	7	20	15	4	69
%	5.8%	10.1%	17.4%	10.1%	29.0%	21.7%	5.8%	100.0%
6-12歳	8	2	0	7	12	8	1	38
%	21.1%	5.3%	0.0%	18.4%	31.6%	21.1%	2.6%	100.0%
合計	12	9	12	14	32	23	5	107
%	11.2%	8.4%	11.2%	13.1%	29.9%	21.5%	4.7%	100.0%

### 3.3. はじめて「しつけ」で悩んだのは子どもが何歳のときか

表36、37は、子どもの数、年齢とはじめて「しつけ」で悩んだときのクロス集計である。表36より、子どもが1人の場合は、子どもが0～2歳のときに、「しつけ」で悩む割合が大きい。子どもが2人以上の場合は、2～3歳で悩む割合がとても多い。表37からは、子どもの年齢に関係なく、子どもが2歳のときに子育てで悩んでいたということが読み取れる。

表36 子どもの数とはじめて「しつけ」で悩んだとき

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳～	合計
1人	18	23	22	5	2	4	4	78
%	23.1%	29.5%	28.2%	6.4%	2.6%	5.1%	5.1%	100.0%
2人以上	8	14	40	21	9	12	12	116
%	6.9%	12.1%	34.5%	18.1%	7.8%	10.3%	10.3%	100.0%
合計	26	37	62	26	11	16	16	194
%	13.4%	19.1%	32.0%	13.4%	5.7%	8.2%	8.2%	100.0%

表 37 子どもの年齢とはじめて「しつけ」で悩んだとき

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳～	合計
0-5歳	23	31	42	15	6	8	6	131
%	17.6%	23.7%	32.1%	11.5%	4.6%	6.1%	4.6%	100.0%
6-12歳	3	6	20	11	5	8	10	63
%	4.8%	9.5%	31.7%	17.5%	7.9%	12.7%	15.9%	100.0%
合計	26	37	62	26	11	16	16	194
%	13.4%	19.1%	32.0%	13.4%	5.7%	8.2%	8.2%	100.0%

### 3.4. 「しつけ」に対する考え方

表 38、39 は、子どもの数、年齢と「しつけ」に対する考え方のクロス集計である。ここからは子どもの数や年齢に関わらず、「しつけ」に対する考え方は、母親と父親がともに行うべきであるということが理解できる。ここからは、昔と違い、現代社会では母親のみが育児に参加するのではなく、父親と協力し育児をしていくと考えている人びとの様子が理解できる。

表 38 子どもの数と「しつけ」態度

	主に母親が行うべき	主に父親が行うべき	母親と父親がともに行うべき	その他	合計
1人	7	3	75	4	89
%	7.9%	3.4%	84.3%	4.5%	100.0%
2人以上	4	1	110	2	117
%	3.4%	0.9%	94.0%	1.7%	100.0%
合計	11	4	185	6	206
%	5.3%	1.9%	89.8%	2.9%	100.0%

表 39 子どもの年齢と「しつけ」態度

	主に母親が行うべき	主に父親が行うべき	母親と父親がともに行うべき	その他	合計
0-5歳	4	4	130	4	142
%	2.8%	2.8%	91.5%	2.8%	100.0%
6-12歳	7	0	55	2	64
%	10.9%	0.0%	85.9%	3.1%	100.0%
合計	11	4	185	6	206
%	5.3%	1.9%	89.8%	2.9%	100.0%



## 第3章 戸田市における子育て支援サービスの認知度と課題

### 1. はじめに

本稿では、2013年7月から8月にかけて20歳以上から60歳未満に行った「戸田市における子育て支援活動」調査のデータをもとに戸田市の子育て環境の改善点を分析する。

戸田市は、埼玉県南部にある人口約13万人の都市である。市内には東京の中心部へと繋がる埼京線が走っている。埼京線を利用することにより首都圏への通勤の利便性が高いため、宅地化への開発が進行している。それは、昭和60年の埼京線開通以前に存在した農地が住宅地へと開発され、工場の移転とともにマンションの建設が進み、現在ではベッドタウンの傾向が強い町に変化したことから理解できる。市の人口も、国内の総人口が減少傾向にある中、毎年増加を続けており、平成25年1月1日現在で12万8千人を超えている。また、平均年齢が39.6歳（平成25年1月1日現在）と県内で一番若く、活気にあふれかえっている。

戸田市では、現在、市民や地域、行政等が連携して、子育て世代を地域で支える仕組みを研究している。その施策は、県内で最初に子育て施策が充実した街「埼玉県地域子育て応援タウン」に認定されるほどである。さらに子育て支援の充実した環境づくりに与するため、本章では、実際に行っている「子育て支援サービス」が市民に認知されているか、子育て世代のニーズに行政の施策が応えているかを考察する。

### 2. 分析のねらいと仮説

今回、戸田市をより住みやすい街にするために「子育て」という枠から調査を行った。本章の目的は、戸田市の行う子育て支援サービスの認知度が子育て支援サービスの改善要求にどのような影響を与えているかを検証することにある。したがって、仮説は「子育て支援サービスの認知度が低いため、保育の改善を求められている」とする。

### 3. 使用する変数と基礎集計

#### 3.1. 独立変数の基礎集計

本章では、独立変数としてサービスの認知度を用いる。サービスの認知度は、

【問9】戸田市の子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。

という項目を独立変数とした。その項目においては、「とだファミリーサポートセンター」、

「とだ子育てサロン」、「親子ふれあい広場」、「産前産後支援ヘルプサービス」、「病児・病後児保育」、「一時保育」、「パパ・ママ応援ショップ事業」、「知らない」、「その他」を質問している。内容から見れば、戸田市の行う主要な子育て支援サービスを設定している。

本章の分析の目的は、戸田市の行う子育て支援サービスの認知度と保育の改善要求との関連を検討することである。そのため、戸田市の行う子育て支援サービスの認知度を把握することはのちの分析に必要である。「主要な子育て支援サービスの認知度」を集計した結果が表1である。

表1を見ると「パパ・ママ応援ショップ事業」の知名度が54.2%と高い水準であるが、その他の事業が軒並み低い状態であった。「とだファミリーサポートセンター」と「一時保育」が30%にとどまり、「とだ子育てサロン」と「親子ふれあい広場」は20%後半であった。さらに下がり、「病児・病後児保育」と「産前産後支援ヘルプサービス」が10%半ばという結果であった。

表1 戸田市の主要な子育て支援サービスの認知度

		認知度		合計
		知らない	知っている	
主要な 子育て サー ビス	とだファミリーサポートセンター	379	191	570
	%	66.5	33.5	100.0
	とだ子育てサロン	414	156	570
	%	72.6	27.4	100.0
	親子ふれあい広場	404	166	570
	%	70.9	29.1	100.0
	産前産後支援ヘルプサービス	497	73	570
	%	87.2	12.8	100.0
	病児・病後児保育	475	95	570
	%	83.3	16.7	100.0
	一時保育	398	172	570
	%	69.8	30.2	100.0
	パパ・ママ応援ショップ事業	261	309	570
	%	45.8	54.2	100.0
その他	568	2	570	
%	99.6	0.4	100.0	

### 3.2. 従属変数の基礎集計

本稿で明らかにしたいことは、戸田市の子育て支援サービスに対する認知度が、保育サービスへの改善要求に影響を与えているのである。したがって、

【問8】幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。最大2つまで○をつけてください。当てはまるものが1つもない場合は、『10. 特になし』に○をつけてください。

という項目を従属変数とした。その項目においては、「早期保育」、「病児保育」、「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」、「日曜・祝祭日の保育」、「夜間保育」、「放課後児童の受け入れ」、「育児相談」、「育児講座」、「その他」、「特になし」を質問している。内容から見れば、保育園・幼稚園で実施されるサービスを設定している。

表 2 は「主要な保育サービスと改善欲求」を集計した結果である。「放課後児童の受け入れ」が 31.7%で一番高く、次点で「病児保育」の 28.8%が高い数値であった。そこから大きく下がり、「夜間保育」が 20.0%、「日曜・祝祭日の保育」が 18.3%、「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」が 15.6%、「早期保育」が 12.0%であった。そして、「育児相談」、「育児講座」、「その他」が 10%を切る結果となった。また、力を入れてほしいサービスが「特になし」と答えた人が 14.8%という結果であった。

表 2 主要な保育サービスと改善欲求

		特に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
サービス内容	早期保育	501	68	569
	%	88.0	12.0	100.0
	病児保育	405	164	569
	%	71.2	28.8	100.0
	地域の子ども・お年寄りとの交流事業	480	89	569
	%	84.4	15.6	100.0
	日曜・祝祭日の保育	465	104	569
	%	81.7	18.3	100.0
	夜間保育	455	114	569
	%	80.0	20.0	100.0
	放課後児童の受け入れ	391	178	569
	%	68.7	31.3	100.0
	育児相談	516	53	569
	%	90.7	9.3	100.0
	育児講座	530	39	569
	%	93.1	6.9	100.0
その他	561	8	569	
%	98.6	1.4	100.0	
特になし	478	78	556	
%	86.0	14.0	100.0	

#### 4. 戸田市の子育て支援サービスと保育サービスとの関連性

子育て支援サービスと保育サービスの関連性を分析する際に、子育て支援サービスがどういった内容であるか理解する必要がある。そのため、戸田市の行う子育て支援サービスについて説明を交えつつ分析していく。

#### 4.1. とだファミリーサポートセンター

「とだファミリーサポートセンター」であるが、子育てのお手伝いをしたい方（協力会員）と子育ての手助けがほしい方（依頼会員）が会員となって、お互いに信頼して助け合いながら子育ての相互援助活動を行う会員制の組織である。活動として、子どもの一時的な預かりや送迎といった軽易かつ補助的なお手伝いを行う。具体的なものでいうと、保育施設の保育開始時間まで子どもを預かる、保育施設の保育終了後に子どもを預かる、保育施設までの送迎を行う、学校の放課後または学童保育終了後に子どもを預かる、学習塾または習い事の終了後に子どもを預かること（送迎を含む）、その他依頼会員が外出したいときなどに子どもを預かる、等である。このサービスは、【問 8】今後力を入れてほしい保育サービスの項目「夜間保育」「放課後児童の受け入れ」に当てはまる。

まず、「とだファミリーサポートセンター」と「夜間保育」との関連を示したのが表 3 である。全体として「夜間保育」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 19.9%。「知らない人」のなかで、「夜間保育」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 21.9%であった。また「知っている人」で「夜間保育」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 15.7%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「夜間保育」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが 6.2%高いことがわかった。また、カイ二乗検定の結果から、10%水準で「知らない人」がより力を入れてほしいという傾向にあることがわかる。

表 3 「とだファミリーサポート」の認知度と「夜間保育」の改善要求の程度

		特に夜間保育に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
とだファミリー サポート センター	知らない	299	84	383
	%	78.1	21.9	100.0
	知っている	161	30	191
	%	84.3	15.7	100.0
合計		460	114	574
%		80.1	19.9	100.0
p<0.10	V=0.074			

次に、「とだファミリーサポートセンター」と「放課後児童の受け入れ」との関連を示したのが表 4 である。全体として「放課後児童の受け入れ」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 31.2%、「知らない人」のなかで、「放課後児童の受け入れ」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 28.2%であった。また、「知っている人」で「放課後児童の受け入れ」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 37.2%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「放課後児童の受け入れ」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが 9%低いことがわかった。そして、カイ二乗検定の結果から、5%水準で「知っている人」がより力を入れてほしいという傾向にあることがわかる。

表4 「とだファミリーサポート」の認知度と「放課後児童の受け入れ」の改善要求の程度

		特に放課後児童の受け入れに力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
とだファミリーサポートセンター	知らない	275	108	383
	%	71.8	28.2	100.0
	知っている	120	71	191
	%	62.8	37.2	100.0
合計		395	179	574
%		68.8	31.2	100.0
p<0.05	V=0.091			

#### 4.2. とだ子育てサロン

「子育てサロン」であるが、乳幼児の保護者が5人程度のグループに分かれ、コーディネーターを中心に日々の子育てについて話をする場である。子供は、託児ボランティアがいるため、一緒の来室が可能である。開催日時は、月に1度開催していて、開催10日程度前から電話で受け付けている。このサービスは、【問8】今後力を入れてほしい保育サービスの項目「育児相談」「育児講座」に当てはまる。

まず「とだ子育てサロン」と「育児相談」との関連を示したのが表5である。全体として「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が9.2%、「知らない人」のなかで、「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が10.5%であった。また「知っている人」で「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が5.8%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「育児相談」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが4.7%高いことがわかった。そして、カイ二乗検定の結果から、10%水準で「知らない人」がより力をいれてほしいという傾向がわかる。

表5 「とだ子育てサロン」の認知度と「育児相談」の改善欲求の程度

		特に育児相談に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
とだ子育てサロン	知らない	374	44	418
	%	89.5	10.5	100.0
	知っている	147	9	156
	%	94.2	5.8	100.0
合計		521	53	574
%		90.8	9.2	100.0
p<0.10	V=0.073			

次に「とだ子育てサロン」と「育児講座」との関連を示したのが表6である。全体とし



て「育児講座」に「特に力を入れてほしい」と答えた人 6.8%、「知らない人」のなかで、「育児講座」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 7.2%であった。また「知っている人」で「育児講座」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 5.8%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「育児相談」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが 1.4%高いことがわかった。しかし、カイ二乗検定の結果、認知度と改善欲求の関連性はみられなかった。

表 6 「とだ子育てサロン」の認知度と「育児講座」の改善欲求の程度

		特に育児講座に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
とだ子育て サロン	知らない	388	30	418
	%	92.8	7.2	100.0
	知っている	147	9	156
	%	94.2	5.8	100.0
合計		535	39	574
%		93.2	6.8	100.0
p>0.10	V=0.025			

#### 4.3. 親子ふれあい広場

「親子ふれあい広場」であるが、おおむね 3 歳未満の子供とその保護者が自由に遊ぶことができる交流スペースである。月曜日から金曜日の 9:30~12:30 まで開室していて、開室中は予約なしに自由に入退室ができる。ママ友達や子供の友達、雨の日の遊び場を提供している。また、アドバイザーが常時しているため、初めての利用もしやすくなっている。このサービスは、【問 8】今後力を入れてほしい保育サービスの項目「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」「育児相談」に当てはまる。

まず「親子ふれあい広場」と「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」との関連を示したのが表 7 である。全体として「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 15.7%、「知らない人」のなかで、「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 15.2%であった。また「知っている人」で「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が 16.8%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが 1.6%低いことがわかった。しかし、カイ二乗検定の結果、認知度と改善欲求の関連性はみられなかった。

表7 「親子ふれあい広場」の認知度と「地域の子ども・お年寄りとの交流事業」の改善欲求の程度

		特に地域の子ども・お年寄りとの交流事業に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
親子ふれあい広場	知らない	345	62	407
	%	84.8	15.2	100.0
	知っている	139	28	167
	%	83.2	16.8	100.0
合計		484	90	574
%		84.3	15.7	100.0
p>0.10	V=0.019			

表8 「親子ふれあい広場」の認知度と「育児相談」の改善欲求の程度

		特に育児相談に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
親子ふれあい広場	知らない	374	33	407
	%	91.9	8.1	100.0
	知っている	147	20	167
	%	88.0	12.0	100.0
合計		521	53	574
%		90.8	9.2	100.0
p>0.10	V=0.061			

次に「親子ふれあい広場」と「育児相談」との関連を示したのが表8である。全体として「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が9.2%、「知らない人」のなかで、「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が8.1%であった。また「知っている人」で「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が12.0%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「育児相談」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが4.1%低いことがわかった。しかし、カイ二乗検定の結果、認知度と改善欲求の関連性はみられなかった。

#### 4.4. 産前産後支援ヘルプサービス

「産前産後ヘルプサービス」であるが、妊娠中から出産後1年未満の方に対して、家事・育児のヘルパーを派遣し、育児による精神的負担の軽減を図るサービスである。利用には、市役所こども家庭科に申請書を提出する必要がある。また、利用限度日数定められており、ひと月に12日間（多胎児は15日間）、1日4時間以内となっている。サービス内容としては、家事援助（掃除、洗濯、食事の準備、買い物等）と育児援助（授乳、おむつ交換、沐浴、上の子どもの遊び相手等）である。このサービスは、【問8】今後力を入れてほし

い保育サービスの項目「育児相談」に当てはまる。

「産前産後支援ヘルプサービス」と「育児相談」との関連を示したのが表9である。全体として「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が9.2%であった。「知らない人」のなかで、「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が9.2%であった。また「知っている人」で「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が7.0%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「育児相談」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが2.2%高いことがわかった。しかし、カイ二乗検定の結果、認知度と改善欲求の関連性はみられなかった。

表9 「産前産後支援ヘルプサービス」の認知度と「育児相談」の改善欲求の程度

		特に育児相談に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
産前産後 支援ヘルプ サービス	知らない	455	46	501
	%	90.8	9.2	100.0
	知っている	66	7	73
	%	66.0	7.0	73.0
合計		521	53	574
%		90.8	9.2	100.0
p>0.10	V=0.005			

#### 4.5. 病児・病後児保育

「病児・病後児保育」であるが、市内に居住する生後57日から小学校3年生までの子供が、病気、又は病気回復期のため集団生活が困難で、保護者の勤務の都合等により家庭で保育できないときに、施設にて看護師・保育士により一時的にお子さんをお預かりする事業である。実施している施設が2つあり、利用方法は、その各施設に事前に子供の病状を伝えながら電話予約をおこなうこと、主治医の先生に、この制度を利用する旨を伝え「病児・病後児保育利用連絡書」の記入をお願いすること、当日に提示した持ち物を施設に持参することである。利用日及び時間は、月曜日から金曜日、午前8時から午後6時までである。また、1日の利用定員が原則4人までとなっている。このサービスは、【問8】今後力を入れてほしい保育サービスの項目「病児保育」に当てはまる。

「病児・病後児保育」と「病児保育」との関連を示したのが表10である。全体として「病児保育」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が28.9%であった。「知らない人」のなかで、「病児保育」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が24.9%であった。また「知っている人」で「育児相談」に「特に力を入れてほしい」と答えた人が48.5%であった。そして、「知らない人」と「知っている人」の「育児相談」の改善を求めている割合を比べると、「知らない人」のほうが23.6%低いことがわかった。そして、カイ二乗検定の結果から、1%水準で知っている人がより力をいれてほしいという傾向がわかる。

表 10 「病児・病後児保育」の認知度と「病児保育」の改善欲求の程度

		特に病児保育に力を入れてほしい		合計
		いいえ	はい	
病児・病後児 保育	知らない	358	119	477
	%	75.1	24.9	100.0
	知っている	50	47	97
	%	51.5	48.5	100.0
合計		408	166	574
%		71.1	28.9	100.0
p<0.01	V=0.194			

#### 4.6. まとめ

本章の検証をまとめると、8つの検証の中で「子育て支援サービスの認知度」と「保育サービスの改善要求」との間で有意な関連を示したのは4つであった。また、その4つの検証のうち、仮説「子育て支援サービスの認知度が低いと、保育の改善を求められている」に当てはまるものは『「とだファミリーサポートセンター」の認知度と「夜間保育」の改善欲求の程度』、『「とだ子育てサロン」の認知度と「育児相談」の改善欲求の程度』の2つであった。「とだファミリーサポートセンター」は、協会会員（預かる側）が依頼会員（預ける側）とやり取りを行う子育て支援サービスである。そのため、保育園・幼稚園に通わせているだけでは「夜間保育」のサービスが行われているとは知りづらく、要求先も保育園・幼稚園になってしまっている。それゆえに、「知らない人」の方が高い改善欲求を示す結果となったと考えられる。また、「とだ子育てサロン」であるが、開催日時が月1回で電話での受付となっている。そのため、この支援サービスを知る手段が、インターネットのページのみであるため、「知らない人」の方が高い改善欲求を示す結果となったと考えられる。

逆に反対の内容である「子育て支援サービスが知られているから、保育の改善を求められている」に当てはまるものは『「とだファミリーサポートセンター」の認知度と「放課後児童の受け入れ」の改善欲求の程度』と『「病児・病後児保育」の認知度と「病児保育」の改善欲求の程度』であった。「とだファミリーサポートセンター」は、子育ての仕事を生業とした人ではなく、子育ての手伝いをしたい人がサービスを提供するものである。そのため、子どもを預ける側の求めるサービスの質と子どもを預かる側の提供するサービスの質が一致していないため、「知っている人」の方が高い改善欲求を示したと考えられる。また、「病児・病後児保育」であるが、実施施設が2か所と限られていて、かつ、利用定員が4人までという点から、「知っている人」の方が高い改善欲求を示したと考えられる。

## 5. まとめと今後の課題

今回、戸田市の「子育て支援サービス」の認知度をと検証したが、サービス自体を知ら

ないという人が多く目立っていた。子育て支援サービス自体は、子育て応援タウンと呼ばれるぐらい充実しているのだが、市民には伝わり切っていない。サービスは利用されることで、初めて意味をなすものである。利用してもらうことにより、新たな発見も見つかるだろう。そのため、まずは広報活動に力を入れて、サービスの存在を多くの人に知ってもらうことが課題となるだろう。

**【参考資料】**

戸田市 子育てページ (<https://www.city.toda.saitama.jp/461/460940.html> 最終アクセス日 2014.2.26)

## 第4章 戸田市における子育て支援サービスの認知度と不安

### 1. 問題意識

近年では、不景気により夫婦共働きの家族が増えているため、子育てサービスの需要が高まってきていることは、子育てに関する意識調査などによって示されている。たとえば、尼崎市の「子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査（平成25年11月調査）」によると、自分の住んでいる市内で子育てサービスを利用したいと思っている人は9割を超えているが、子育て支援事業の利用状況が1割しかないことが報告されている。

また、幼稚園や保育園のニーズがとても高く、子育てでは子供が未就学児の時が一番子育て支援を必要としていることがうかがえる。たとえば、2014年1月31日の福井新聞における「短時間勤務利用の母親は1割 県調査、背景に認知度不足」によると、利用しない理由は「制度を知らなかった」が約4割を占め、制度の認知度不足が背景にあると示されている。

したがって、支援サービスの認知度は高いが認知度不足により利用率が低いという課題が考えられる。そこで本章では、以下のような仮説を立てた。

### 2. 分析のねらいと仮説

- I 子どもの年齢が低くなるにつれて、こども家庭相談センターを利用したいと思っている。
- II 子どもの年齢が低くなるにつれて子育て支援サービスについて認知度が高い。

### 3. 使用する変数と基礎集計

本章で使用する変数は、問9「子育て支援サービスについて」、問10「お子さんを預けることについて」、問11「子育てに関する相談」、問35「子どもの人数と年齢」である。

以下、独立変数として設定する変数と従属変数として設定するそれぞれについての説明と基礎集計を提示する。

#### 3.1. 独立変数の基礎集計

独立変数は、問35の「子どもの人数と年齢」とする。本章では、子どもの年齢に焦点を置くため、対象者を「子どもを持つ人」に限定する必要がある。

その対象者とは、問 35c-1「お子さんが何人いますか、その年齢は」に回答があった人であり、その結果、全体の 577 人中で「子どもがいる人は 342 人に絞られた。

ここで、子どもの人数 0 人は除かれる。また、子どもが 2 人以上いる場合は、最少年齢を対象とした。子どもの年齢が 5 歳以下は「1」、6～12 歳は「2」、13 歳以上は「3」と変数を加工した。この年齢変数の分布を示したのが表 1 である。

表 1 子どもの年齢とその数

子供の年齢	人数	総計 (%)
5歳以下	144	42.1%
6～12歳	73	21.3%
13歳以上	125	36.5%
総計	342	100.0%

5 歳以下の割合が全体で 42.1%と少し多い割合となった。6～12 歳は 21.3%と一番少ない割合となっている。13 歳以上は 36.5%となった。続けて、従属変数の基礎集計を見ていこう。

### 3.2. 従属変数の基礎集計

従属変数は問 9「子育て支援サービスで知っているものについて」、問 11「子育てに関する悩みをどこに相談したいか」である。それぞれについて基礎集計を提示していく。

表 2 子育て支援サービスで知っているものについて

	N=575)	
	当てはまる	%
1. とだファミリーサポートセンター	191	33.20%
2. とだ子育てサロン	156	27.10%
3. 親子ふれあい広場	167	29.00%
4. 産前産後支援ヘルプサービス	73	12.70%
5. 病児・病後児保育	97	16.90%
6. 一時保育	172	29.90%
7. パパ・ママ応援ショップ事業	309	53.70%
8. 知らない	171	29.70%
9. その他	2	0.30%

表 2 は問 9「子育て支援サービスで知っているものについて」の基礎集計である。最も認知度が高かったものは、「パパ・ママ応援ショップ事業」で全体の 53.7%であった。次に認知度が高いのが、「とだファミリーサポートセンター」で 33.2%であった。「1 つも知らない」と答えた人は、全体で 29.7%であり、まだまだ全体的な認知度は高くないということがわかった。

表3 子育てに関する悩みをどこに相談したいか

(N=575)		
	当てはまる	%
1. 親・兄弟・親戚	351	61.0%
2. 知人・友人	269	46.8%
3. こども家庭相談センター	68	11.8%
4. その他	12	2.1%

表3は問11「子育てに関する悩みをどこに相談したいか」の基礎集計である。「親・兄弟・親戚」と答えた人が61%、「知人・友人」と答えた人が46.8%、「こども家庭相談センター」と答えた人が11.8%であった。「こども家庭相談センター」というサービスは、全体的にみるとあまり利用されていないということが分かった。以上を踏まえて、仮説を検証しよう。

#### 4. 仮説 I の検証

本節では、仮説 I 「子どもの年齢が低くなるにつれて、こども家庭相談センターを利用したいと思っている」を検証する。

##### 4.1. 子育てで親・兄弟・親戚に相談したい人数と子どもの年齢

表4は、子育てで「親・兄弟・親戚」に相談したい人数を子どもの年齢別について調べた結果である。

表4 子育てで親・兄弟・親戚に相談したい人数と子どもの年齢

(N=342)			
	当てはまらない	当てはまる	総計
5歳以下	50	94	144
%	34.72%	65.28%	100.00%
6～12歳	37	36	73
%	50.68%	49.32%	100.00%
13歳以上	69	56	125
%	55.20%	44.80%	100.00%
総計	156	186	342
%	45.61%	54.39%	100.00%

カイ二乗検定の p値0.002  
 $P < 0.01$  (1%水準)  
 CramerのV = 0.189



表4は子育てで親・兄弟・親戚に相談したい人数と子どもの年齢に関して「当てはまる」と答えた人で子どもの年齢が5歳以下では65.28%、6～12歳以下では49.32%、13歳以上では44.8%という結果となり、子どもの年齢が5歳以下の場合、親・兄弟・親戚に相談したい人がやや多いという結果になった。カイ二乗検定の結果1%水準で有意となり、クラメールのVは、0.189であった。

#### 4.2. 子育てで知人・友人に相談したい人数と子どもの年齢

表5は、子育てで知人・友人に相談したい人数を子どもの年齢のクロス集計表である。

表5 子育てで知人・友人に相談したい人数と子どもの年齢

		N=342		
		当てはまらない	当てはまる	総計
5歳以下		70	74	144
%		48.61%	51.39%	100.00%
6～12歳		31	42	73
%		42.47%	57.53%	100.00%
13歳以上		54	71	125
%		43.20%	56.80%	100.00%
総計		155	187	342
%		45.32%	54.68%	100.00%

カイ二乗検定のp値0.578

P>0.10

CramerのV=0.056

表5は子育てで知人・友人に相談したい人数と子どもの年齢に関して「当てはまると」答えた人で子どもの年齢が5歳以下では51.4%、6～12歳以下では57.5%、13歳以上では56.8%という結果となりあまり大きな差は見られなかった。このことから、知人・友人に相談したい人と子どもの年齢はあまり関わりがないということが分かった。

#### 4.3. 子育てでこども家庭相談センターに相談したい人数と子どもの年齢

表6は、子育てでこども家庭相談センターに相談したい人数を子どもの年齢別について調べた結果である。

表6 子育てでこども家庭相談センターに相談したい人数と子どもの年齢

		N=342		
		当てはまらない	当てはまる	総計
5歳以下		123	21	144
%		85.42%	14.58%	100.00%
6～12歳		67	6	73
%		91.78%	8.22%	100.00%
13歳以上		111	14	125
%		88.80%	11.20%	100.00%
総計		301	41	342
%		88.01%	11.99%	100.00%

カイ二乗検定のp値0.372

P>0.10

CramerのV=0.076

表6は、子育てで知人・友人に相談したい人数と子どもの年齢に関して「当てはまると」答えた人で、子どもの年齢が5歳以下では14.58%、6～12歳以下では8.22%、13歳以上では11.2%という結果となりあまり大きな差は見られなかった。このことから、知人・友人子ども家庭相談センターに相談したい人と子どもの年齢はあまり関わりがないということが分かった。

以上のことから、仮説Ⅰの「子どもの年齢が低くなるにつれて、子ども家庭相談センターを利用したいと思っている」に関しては、子どもの年齢が5歳以下で相談したい人の割合が一番高く、次に子どもの年齢が13歳以上、子どもの年齢が6～12歳が一番低かったため、仮説は棄却された。しかし、「親・兄弟・親戚」といった血縁関係であると、子どもの年齢が低くなるにつれて相談したいということがわかった。

## 5. 仮説Ⅱの検証

本節では、仮説Ⅱ「子どもの年齢が低くなるにつれて子育て支援サービスについて認知度が高い」を検証する。

### 5.1. とだファミリーサポートセンターの認知度と子どもの年齢

表7は、「とだファミリーサポートセンター」の認知度と子どもの年齢のクロス集計である。

表7 とだファミリーサポートセンターの認知度と子どもの年齢

	N=342)		
	知らない	知ってる	総計
5歳以下	74	70	144
%	51.39%	48.61%	100.00%
6～12歳	28	45	73
%	38.36%	61.64%	100.00%
13歳以上	72	53	125
%	57.60%	42.40%	100.00%
総計	174	168	342
%	50.88%	49.12%	100.00%

カイ二乗検定のp値0.032

P>0.05 (5%水準)

CramerのV=0.141

表7の「とだファミリーサポートセンター」の認知度と子どもの年齢のクロス集計表において、「知ってる」と答えた人で、子どもの年齢が5歳以下では48.6%、6～12歳では61.6%、13歳以上は42.4%という結果になった。カイ二乗検定の結果、5%水準で有意となり、クラメールのVは、0.141となった。

以上のことから、「とだファミリーサポートセンター」の認知度は子供が幼稚園や保育園に通うような年齢や中学生以上の場合、認知度はあまり高くないが、小学生の子どもがいる場合は認知度が高いことが理解できた。

## 5.2. パパ・ママ応援ショップ事業の認知度と子どもの年齢

表8は、パパ・ママ応援ショップ事業の認知度について、子どもの年齢別にみた結果である。

表8 パパ・ママ応援ショップ事業の認知度と子どもの年齢

N=342)			
	知らない	知ってる	総計
5歳以下	18	126	144
%	12.50%	87.50%	100.00%
6～12歳	10	63	73
%	13.70%	86.30%	100.00%
13歳以上	61	64	125
%	48.80%	51.20%	100.00%
総計	89	253	342
%	26.02%	73.98%	100.00%

カイ二乗検定の  $p$ 値0.000

$P < 0.01$  (1%水準)

Cramerの  $V = 0.394$

表8はパパ・ママ応援ショップ事業の認知度と子どもの年齢である。「知ってる」と答えた人で、子どもの年齢が5歳以下では87.5%、6～12歳では86.3%、13歳以上は51.2%という結果になった。カイ二乗検定の結果1%水準の有意性となり、クラメールの  $V$  は、0.394と「とだファミリーサポートセンター」よりも強い関連を示すことが理解できた。

以上のことから、パパ・ママ応援ショップ事業の認知度は子どもの年齢が低くなるにつれて認知度が高くなる傾向があるといえる。

## 5.3. 子育て支援サービスについて一つでも知っている人と子どもの年齢

表9は、子育て支援サービスについて一つでも知っている人と、子どもの年齢別について調べた結果である。

表9 子育て支援サービスについて一つでも知っている人と子どもの年齢

			(N=342)
	知らない	知ってる	
5歳以下 %	6 4.17%	138 95.83%	144 100.00%
6～12歳 %	5 6.85%	68 93.15%	73 100.00%
13歳以上 %	24 19.20%	101 80.80%	125 100.00%
総計 %	35 10.23%	307 89.77%	342 100.00%

カイ二乗検定の  $p$ 値0.000

$P < 0.01$  (1%水準)

Cramerの  $V = 0.226$

表9は支援サービスを「一つでも知っている人」と子どもの年齢のクロス表である。「一つも知らない」と答えた人で子供の年齢が5歳以下では4.17%、6～12歳では6.85%、13歳以上では19.2%という結果になった。カイ二乗検定の結果1%水準の有意性となり、クラメールの  $V$  では0.226となった。以上のことから、子どもの年齢が低くなるにつれて子育て支援サービスについての認知度は高くなるということが分かった。

以上のことから、仮説Ⅱの「子どもの年齢が低くなるにつれて子育て支援サービスについて認知度が高い」に関しては、「一つでも知っている」と「パパ・ママ応援ショップ事業」は、子どもの年齢が低くなるにつれて認知度が高くなったが、「とだファミリーサポートセンター」は、6～12歳が一番認知度が高かったため、「子どもの年齢が低くなるにつれて子育て支援サービスについて認知度が高い」であると断定するには、今回のこれらの分析結果だけでは十分とは言えず、仮説は完全には検証することができなかった。

## 6. 考察

子育て支援サービスに対する、興味・関心・信頼というものは、子どもの年齢といった要因にあまり影響されないという結果になった。しかし、親・兄弟・親戚といった、血縁関係がある人に対しては、子どもの年齢と何らかの影響を及ぼしていることが確認できた。

今回の分析では、子どもの年齢だけを限定したため仮説を断定できるとまではいかなかったが、子どもの性別や親の職業などの条件を加えていったら、また違う結果を得られる可能性があると考えられる。また、この結果が戸田市だけに限られたものなのかといった点もさらに調べていく必要があると思われる。

### 【参考文献】

尼崎市（平成25年11月調査）「子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査」（<http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/index.html>）

福井新聞（2014年1月31日）「短時間勤務利用の母親は1割 県調査、背景に認知度不足」  
(<http://www.fukuishimbun.co.jp/localnews/politics/48304.html>)

## 第5章 子育ての悩みをどこに相談したいか

### 1. 問題意識

筆者は、戸田市における子育て世代の意識について興味を持った。近年では保育園、幼稚園に預ける事が出来ない待機児童の問題や子育て支援についてよく耳にする。それは、朝日新聞の新聞記事検索データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」を用いて、「子育て」「支援」「相談」をキーワードに収集した過去5年間の記事数からも理解できる(図1)。だが、過去5年間の記事数の推移には大きな変化は見られない。ここからも、待機児童の問題や子育て支援や相談は、近年だけではなく長年、社会的問題となっている話題だと言える。

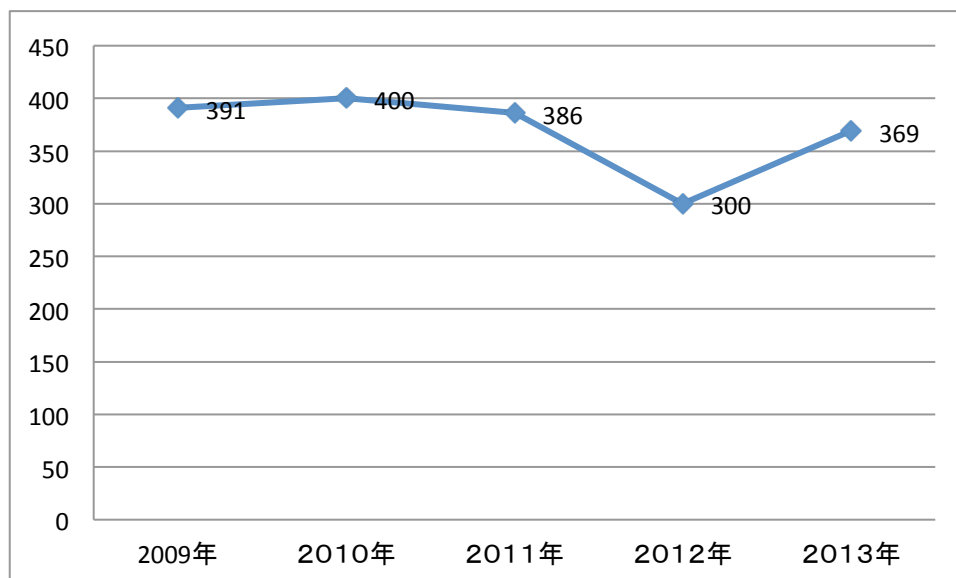


図1 「子育て」「支援」「相談」新聞件数

このように「子育て」「支援」「相談」が問題となっている中で、考えるべきことは、子育て世代が、子育ての最中に何か不安を持った時どこに相談するのかである。実家や親戚、または近所など選択肢は多数でてくるであろう。さらに、現代社会では共働きの家庭が多く悩みも様々であるため、身近な他者ばかりか一般化されたものにも頼らなければ子育てはやっていけない可能性もある。たとえば、義理の親に預けるとしても、夫の母に干渉されるのが一番嫌なのは「育児や子育ての方針」といわれるように、義理の母と適度な距離感をもつ子育て世代が増えているという(2013年11月22日発行『週刊朝日』)。また、実の母であっても支配されたくないという女性が増えているともいわれる(2013年12月13日発行『週刊朝日』)。このように、子育ての悩みに対して頼る相手が親や兄弟、親戚だ

けという社会ではなくなってきたことと関連してか、行政は、子育て支援の相談所なども多く開設するようになってきている。たとえば、滋賀県では膳所児童館に「中南部つどいの広場」をオープンしている。ここでは就学前の子どもと親同士が触れ合うことが出来るため、情報を共有できる場となっている（2014年1月22日『一朝日新聞』）。

そこで本章では、戸田市に住んでいる子育て世代の意識を調査するとともに、子育ての悩みをどこに相談するのかを考察する。以下、本章の仮説を提示し（2節）、3節以下で仮説の検証を行っていく。

## 2. 分析のねらいと仮説

長年、「子育て」「支援」「相談」が問題となっている。その背景には共働きや親との適度な距離感を持ちたいという気持ちがあるだろう。本章ではそのような中で実際に子どもを持つ親は誰を頼りにしているのか分析していく。そこで以下のように仮説を設定する。

- I. 子どもの数によって情報を得る機会が異なるため子どもの数がすきないと身近な親や親戚に相談する割合が増える。
- II. 戸田市が行っているこども家庭相談センターなどのような支援活動の知名度は低いため、子どもの数が少ない場合は情報が少ないため親や親戚など身近な人に相談することが多い。

以下、上記 I～II の仮説について、調査結果をもとに分析を行う。

## 3. 使用する変数と基礎集計

本章で使用するのは、問35「あなたにはお子さんは何人いらっしゃいますか」、問11「あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか」<sup>1</sup>である。以下、独立変数として設定する変数と従属変数として設定する変数のそれぞれについての説明と基礎集計を提示する。

### 3.1. 独立変数の基礎集計

独立変数として用いるのは、問35「あなたにはお子さんは何人いらっしゃいますか」である。本調査から得られた回答分布は表1、2に示した。それぞれについて詳述していこう。

表1 問35「あなたにはお子さんが何人いらっしゃいますか」

---

<sup>1</sup> 「あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいですか？」は限定をかけていなかったため、複数回答が多数生じてしまった。そこでアフターコードをして複数回答の設問として扱うことにした。

子ども0人	226人	39.3%
子ども1人	121人	21.0%
子ども2人以上	228人	39.7%
合計	575人	100.0%

全体の回答数は575人。そのうち「子ども0人」が226人、「子ども1人」が121人、「子ども2人以上」が228人という結果であった。全体では「子ども0人」と「子ども2人以上」が同じくらいの人数だった（表1）。その中で、本章の対象となる「子どもがいる人」に限定をかけるとパーセンテージは以下の通りとなった。「子どもがいる」と答えた人は349人で、そのうち「子ども1人」が121人で34.7%、「子ども2人以上」が228人で65.3%だった（表2）。

表2 問35「あなたにはお子さんは何人いらっしゃいますか」限定

子ども1人	121人	34.7%
子ども2人以上	228人	65.3%
合計	349人	100.0%

### 3.2. 従属変数の基礎集計

従属変数として用いるのは、問11「あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。」である。本調査から得られた回答は表3、4に示した。それぞれについて詳述していこう。

表3 問11「あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか」全体

	親・兄弟・親戚	知人・友人	子ども家庭相談センター	その他
当てはまらない	224	306	507	563
%	39.0%	53.2%	88.2%	97.9%
当てはまる	351	269	68	12
%	61.0%	46.8%	11.8%	2.1%
合計	575	575	575	575
%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

回答欄には「親・兄弟・親戚」「知人・友人」「子ども家庭相談センター」「その他」の4つを設定した。その結果「親・兄弟・親戚」と答えた人は351人で61.9%。「知人・友人」と答えた人は269人で46.8%。「子ども家庭相談センター」と答えた人は68人で11.8%。「その他」は12人で、2.1%という結果だった。一番回答数が多かったのは「親・兄弟・親戚」である（表3）。



表4 問11 の回答の内、子どもがいる人に限定（349人）

	親・兄弟・親戚	知人・友人	子ども家庭相談センター	その他
当てはまらない	160	159	306	340
%	45.8%	45.6%	87.7%	97.4%
当てはまる	189	190	43	9
%	54.2%	54.4%	12.3%	2.6%
合計	349	349	349	349
%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

「子どもがいる人」に限定すると「親・兄弟・親戚」に相談する人は189人、54.2%。「知人・友人」は190人、54.4%。「子ども家庭相談センター」43人、12.3%。「その他」9人、2.6%となった。ここから子供がいると「親・兄弟・親戚」に相談する人と「知人・友人」に相談する人の数に差があまりなかった（表4）。

以下では、子どもの人数とどこに相談したいのかとの関係について詳細な分析を行う。

#### 4. 分析

本節では、子どもの数とどこに相談したいのかとの関連を明らかにしていく。4.1では、子どもの数によって相談相手が異なるのかをクロス表をもとにカイ二乗検定から検討する（仮説Ⅰ、Ⅱ）。つづく4.2では、子どもの数と相談箇所の関連が見られたものについて、クラメールのV係数をもとにして、その関連の強さの違いを検討する。

##### 4.1. 子どもの数と相談したい相手の関係

問11「あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいですか？」の選択肢「親・兄弟・親戚」「知人・友人」「子ども家庭相談センター」のそれぞれについて、「該当する／しない」と「子どもの数」との関連を示したのが表5～8である。

表5 親・兄弟・親戚

	該当しない	該当する	総計
1人	51	70	121
%	42.15%	57.85%	100.00%
2人以上	109	119	228
%	47.81%	52.19%	100.00%
総計	160	189	349
%	45.85%	54.15%	100.00%

p = 0.313

表5より、「親・兄弟・親戚」に相談する人は、「子ども1人」の場合、「該当しない」と回答した人は42.15%、「該当する」と回答した人は57.85%、「子どもが2人以上」の場合、「該当しない」と回答した人は47.81%、「該当する」と回答した人は52.19%だったことが

理解できる。ここから、「子どもが1人の方が「親・親戚・兄弟」に相談したいと感じている人が多いと考えられる。しかし、「親・兄弟・親戚への相談」と「子どもの人数」とのクロス表は、カイ二乗検定においては有意な関連はみられなかった。

表6 知人・友人

	該当しない	該当する	総計
1人	64	57	121
%	52.89%	47.11%	100.00%
2人以上	95	133	228
%	41.67%	58.33%	100.00%
総計	159	190	349
%	45.56%	54.44%	100.00%

p=0.045 (5%水準で有意)

表6より、「知人・友人」に相談するに「該当しない人」は、「子ども1人」の場合、64人で52.9%、「該当する」と回答した人は57人で47.11%、「子ども2人以上」の場合、「該当しない」と回答した人は、95人で41.67%、「該当する」と回答した人は、133人で58.33%であることが示された。「知人・友人に相談する」の結果は、「子ども2人以上」の人で「該当する人」が多く、カイ二乗検定の結果5%水準で有意であり、子どもの数が増えるほど、「知人・友人」に相談する傾向があることが分かった。

表7 こども家庭相談センター

	該当しない	該当する	総計
1人	98	23	121
%	80.99%	19.01%	100.00%
2人以上	208	20	228
%	91.23%	8.77%	100.00%
総計	306	43	349
%	87.68%	12.32%	100.00%

p=0.006 (1%水準で有意)

「子ども家庭相談センター」に相談するについて、「子どもが1人」の場合、「該当しない」と回答した人は98人で80.99%、「該当する」と回答した人は、23人で19.01%、「子ども2人以上」の場合、「該当しない」と回答した人が208人で91.23%、「該当する」と回答した人が20人で8.77%となった(表7)。他の選択肢である「親・兄弟・親戚」「知人・友人」に比べると回答数が少ないがカイ二乗検定の結果、1%水準で有意であり、子どもの数が少ないほど「子ども家庭相談センター」に相談する傾向がある事が分かった。

表 8 その他

	該当しない	該当する	総計
1人	116	5	121
%	95.87%	4.13%	100.00%
2人以上	224	4	228
%	98.25%	1.75%	100.00%
総計	340	9	349
%	97.42%	2.58%	100.00%

p = 0.182

「その他」に「該当しない」と回答したのは、「子ども1人」の場合、116人で95.87%、「該当する」と回答した人は5人で4.13%、「子どもが2人以上」の場合、「該当しない」と回答した人は224人で98.25%、「該当する」と回答した人は、4人で1.75%であった。カイ二乗検定の結果では子どもの数による有意な差はみられなかった（表9）。

以上を要約すると「親・兄弟・親戚」には、「子どもが1人」の場合57.85%、「子どもが2人以上」の人は52.19%が相談する。「知人・友人」には、「子ども1人」の場合47.11%、「子どもが2人以上」の場合は58.33%が相談するため、子どもの人数が増えるにつれて、「該当する」選択肢が増える傾向にある事がわかった。だが、上記2つの中で、子どもの数と「相談」との間に有意な関連がみられたのはカイ二乗検定が5%水準で有意となった「知人・友人」だけであった。

これらと反対に、「こども家庭相談センター」は、カイ二乗検定の結果、1%水準で有意で、かつ子どもの数が少ないほど、「該当する」傾向にあった。ここから、子どもの人数によって相談する相手が異なるという仮説Ⅰおよび、子どもの数が少ないほど「こども家庭相談センター」に相談するはずであるとする仮説Ⅱは支持されたと考えられる。

#### 4.2. 子どもの数と相談相手の関連の強さ

先の分析で有意な関連が見られた「知人・友人」「こども家庭相談センター」は、どちらの方がより関連が強いのだろうか。以下、クラメールのV係数を用いて、検討する。

表 9 知人・友人

	該当しない	該当する	総計
1人	64	57	121
%	52.89%	47.11%	100.00%
2人以上	95	133	228
%	41.67%	58.33%	100.00%
総計	201	148	349
%	57.59%	42.41%	100.00%

P=0.045 (5%水準で有意), Cramer の V=0.107

表 10 こども家庭相談センター

	該当しない	該当する	総計
1人	98	23	121
%	80.99%	19.01%	100.00%
2人以上	208	20	228
%	91.23%	8.77%	100.00%
総計	306	43	349
%	87.68%	12.32%	100.00%

$p = 0.006$  (1%水準で有意), Cramer の  $V = 0.148$

表 9 と表 10 のクラメールの  $V$  係数を比較すると、「知人・友人」に相談する場合、 $V = 0.107$  であるのに対して、「こども家庭相談センター」への相談は、 $V = 0.148$  である。「知人・友人」に相談する場合は、子どもの数が多いほど相談する傾向にあり、「こども家庭相談センター」は、子どもの数が少ないほど相談する傾向にある、という点では関連の向きは異なる。だが、この 2 つの関連の強さを比較すると、「知人・友人」よりも「こども家庭相談センター」のほうがより関連が強いことが理解できる。それゆえ、「子どもが 1 人」の場合は、「こども家庭相談センター」のような公的機関が相談窓口として機能していることが理解できる。

## 5. まとめ

仮説では「子どもの人数」によって相談したい相手が変わると立てた。結果的には、子どもの数が多いと相談する相手の選択肢も増えたため、子どもの数による違いが見えただけだと考えるかもしれない。つまり、子どもの数が多いと、4 つの選択肢に「該当する」と答える人も増える可能性があるため、相手が変わるように解釈できたとと言えるだろう。

また、調査実査前は、「こども家庭相談センター」よりも「親や親戚」に相談することが多いと考えていたが、今回のアンケート調査の結果、「こども家庭相談センター」の数値としての関連性は強かった。このことは、核家族の増加、ダブルインカム家庭の増加が目立つ現代社会において、「子育て」は家庭で行うべきという旧来の規範の崩壊と家事機能の外部化の進展、「1. 問題意識」で触れたように「親」に相談したくないというこれまでとは異なる人間関係の兆しを示唆しているのかもしれない。したがって、行政の機関であることからなのか相談相手として信頼されている「こども家庭相談センター」の存在をもっとひろめていくことに意義があると感じる。そのためには市自体が宣伝の仕方を工夫し、力を入れていく必要があるだろう。

### 【文献】

厚生労働省, 2008, 「就学前の子供がいる世帯に関する調査アンケート (東京都)」『厚生労働白書』(2008 年版) .

「子育て世代を支援、つどいの広場新設大津市、膳所児童館に/滋賀県」『朝日新聞』（2014年1月22日）

「お母さん、私を支配しないで 50代以上の母と20～40代の娘1000人アンケート」『週刊朝日』（2013年12月13日号）

「夫の母は弱体化？ 今どきの嫁姑事情 既婚女性1000人にアンケート」『週刊朝日』（2013年11月22日号）

## 第6章 幼稚園・保育園に対する満足度とサービスの認知度①

### —子どもの年齢に着目して—

#### 1. 問題意識

2013年4月現在、認可保育所を希望しながら入所できない「待機児童」の数が2万2741人となっている。待機児童の数は、2011年以降3年連続減少しているものの、未だに高水準であり、社会問題化しつつある。待機児童が増え続ける現状として考えられる要因は、①核家族の増加、②共働き世帯の増加、③離婚件数の増加があげられる。そして、全国の待機児童の数を都道府県ごとに見ていくと、埼玉県は全国で8番目に多い現状がある。とはいえ、待機児童の多い埼玉県であっても、その数は年々減少しつつある。埼玉県において、待機児童が減少している背景には、保育サービスの拡充があげられる。

だが、埼玉県内の待機児童数が減少傾向にある一方で、今回の調査対象とした戸田市では、2013年は待機児童が34人で前年よりも15人増加している。その理由は、戸田市が、都内への交通という点できわめて便利な立地条件にあるため、若い世代の人口が多いこと、言い換えれば、子育て世代が人口に対する高い割合を占めていることによると考えられる。それは、戸田市が、流入人口が多いものの、流出人口も多いという課題を抱えていることから理解できる。このような現状を踏まえて、戸田市長は2014年4月には待機児童ゼロを目指し、3保育所開設する計画を打ち出した。

これら計画も含め、今回の社会調査実習にあたり、戸田市の子育て支援サービスを調べてみると、戸田市の子育て支援サービスは充実していることが理解できた。だが、現状の課題を踏まえるならば、戸田市の子育て支援サービスは充実しているものの、実際にはどのくらい利用されているのか、つまり、行政によるサービスの充実度と実際の市民による認知度・利用度にはギャップがあるのではないかと筆者は感じるようになった。

そこで、「戸田市における子育て支援活動」を調査した本調査の中で、本章では、戸田市の幼稚園・保育園に対する満足度や子育てサービスに対する認知度を把握し、(1) 子育て支援サービスに対する満足度と認知度に関連があるのか、(2) その関連が子どもの年齢によってどのように変化するのかを明らかにすることを目的とする。以下、節をあらため、上記の問題意識を明らかにするための仮説を提示し、3節以下で、仮説を検証していく。

#### 2. 分析のねらいと仮説

戸田市の幼稚園・保育園に対する満足度や子育てサービスに対する認知度を把握し、(1) 子育て支援サービスに対する満足度と認知度に関連があるのか、(2) その関連が子どもの年齢によってどのように変化するのかを明らかにする。そこで本章では、以下のような仮

説を設定する。

### 〈仮説〉

- I 子どもの年齢が若い方が子育て支援サービスに対する認知度が高いはずである。
- II 幼稚園・保育園に対して不満に思っている人は子育て支援サービスにもっと力を入れてほしいと考えているはずである。
- III 幼稚園・保育園に対して満足に思っている人は、不満に思っている人に比べて子育て支援サービスを知っているはずである。

以下、上記 I～III の仮説について、調査結果をもとに分析を行う。

## 3. 使用する変数と基礎集計

本章で使用する変数は、問 8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問 14「幼稚園・保育園に対する満足度」、問 35「子どもの数と年齢」とする。以下、独立変数として設定する変数と従属変数として設定する変数のそれぞれについての説明と基礎集計を提示する。

### 3.1. 独立変数の基礎集計

独立変数は、問 35 の「子どもの年齢と数」とする。本章では、子育て世代に焦点を置くため、対象者を「12歳以下の子どもを持つ人」とする必要がある。

すなわち、問 35c-1 の「子どもの有無」で「1：子ども有り」と答えた人が「子どもを持つ人」であり、その結果、全体の 577 人中で、「子どもの人数 0 人」と回答した人を除いた 349 人に絞られた。そして、349 人に絞った対象者を問 35C-3「12歳以下の子どもの有無」で「1：子ども有り」と答えた人に限定をかけると本章における対象者は、219 人になる。

さらに、「12歳以下の子どもがいる人」を、問 35④「子どもの年齢」を「1：5歳以下」と「2：6歳以上」に分けた。その結果、「5歳以下の子どもがいる人」が 146 人で 66.9%、「6歳以上」が 73 人で 33.1%となった（表 1）。

表 1 問 35④子どもの年齢

子どもの年齢	人数(人)	総計(%)
5歳以下	146	66.7
6歳以上	73	33.3
総計	219	100.0

### 3.2. 従属変数の基礎集計

次いで、従属変数について説明する。従属変数は、問 14「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」とする。無回答は除く。「満足」と回答した人は、201 人中 34 人で 16.9%、

「やや満足」と回答した人は73人で36.3%、「やや不満」と回答した人は33人で16.4%、「不満」と回答した人は20人で10.0%、「利用していない人」は41人で20.4%になった(表2)。

表2 問14 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	人数(人)	総計(%)
満足	34	16.9
やや満足	73	36.3
やや不満	33	16.4
不満	20	10.0
利用していない	41	20.4
総計	201	100.0

以降の分析のために、問14「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」を、「利用していない人」を除き、「1 満足：満足、やや満足」、「2 不満：やや不満、不満」の2つのカテゴリーに分けた満足度の分布を示したのが表3である。その結果、「満足」と回答した人は160人中107人で66.9%、「不満」と回答した人は53人で33.1%となった。4節以降で、以上の独立変数、従属変数の基礎集計を踏まえて分析を行う。

表3 問14 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	人数(人)	総計(%)
満足	107	66.9
不満	53	33.1
総計	160	100.0

#### 4. 仮説 I の検証

本節では、仮説 I 「子どもの年齢が若い方が子育て支援サービスに対する認知度が高いはずである」を検証する。

問35④「子どもの年齢」と問8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問9「子育て支援サービス」の各選択肢を用いてクロス表分析を行い、カイ二乗検定にかけた結果、有意な関連が見られたのは、問9-1「とだファミリーサポートセンター」(表4)と問9-4「産前産後支援ヘルプサービス」(表5)と問9-6「一時保育」(表6)であった。しかし、全体的にみると、どのサービスも認知度が低かった点には注意が必要である。



表 4 問 35④子どもの年齢×問 9-1「とだファミリーサポートセンター」

子どもの年齢	とだファミリーサポートセンター		総計
	知らない	知っている	
5歳以下	75	71	146
%	51.4	48.6	100.0
6歳以上	28	45	73
%	38.4	61.6	100.0
総計	103	116	219
%	47.0	53.0	100.0

カイ二乗検定のp値 0.06892、 $p < 0.10$  (10%水準)、CramerのV = 0.143798072

問 9-1「とだファミリーサポートセンター」と「子どもの年齢」のクロス表である表 4 から、219 人全体で見ると、「知らない人」は 103 人で 47.0%、「知っている人」は 116 人で 53.0%となり、サービスの認知度にあまり差がないことが分かる。「5 歳以下の子どもがいる人」と「6 歳以上の子どもがいる人」とを分けて見てみると、「5 歳以下の子どもがいる人」は 71 人で 48.6%、「6 歳以上の子どもがいる人」は 45 人で 61.6%となり、「6 歳以上の子どもがいる人」の方がサービスの認知度が少し高いことが分かった。そして、カイ二乗検定の結果、10%水準で有意な関連が見られたように、子どもの年齢が高いほど、「とだファミリーサポートセンター」の認知度が高い傾向にあることが分かった。

表 5 問 35④子どもの年齢×問 9-4「産前産後支援ヘルプサービス」

子どもの年齢	産前産後支援ヘルプサービス		総計
	知らない	知っている	
5歳以下	98	48	146
%	67.1	32.9	100.0
6歳以上	66	7	73
%	90.4	9.6	100.0
総計	164	55	219
%	74.9	25.1	100.0

カイ二乗検定のp値 0.00018、 $p < 0.01$  (1%水準)、CramerのV = 0.296157487

続いて表 5 を見てみよう。問 9-4「産前産後支援ヘルプサービス」の認知度は 219 人中、55 人 (25.1%) が「知っている」と回答した程度で全体的には低い傾向にある。その内、「5 歳以下の子どもがいる人」は 48 人で 32.9%、「6 歳以上の子どもがいる人」は 7 人で 9.6%となり、「5 歳以下の子どもがいる人」の方が「6 歳以上の子どもがいる人」よりも「産前産後支援ヘルプセンター」の認知度が高いことが分かる。このように、5 歳以下の子どもがいる人の方が、より認知度の高い傾向にあるのは、5 歳以下の子ども (小さい子ども) がいる人の方が不安に思うことなどがあるのかもしれない。あるいは、サービス自体が比

較的新しいのかもしれない。カイ二乗検定の結果、1%水準で有意な差が見られ、子どもの年齢が低いほど、「産前産後支援ヘルプセンター」の認知度が高い傾向にあることがわかった。

表6 問35④子どもの年齢×問9-6「一時保育」

子どもの年齢	一時保育		総計
	知らない	知っている	
5歳以下	62	84	146
%	42.5	57.5	100.0
6歳以上	42	31	73
%	57.5	42.5	100.0
総計	104	115	219
%	47.5	52.5	100.0

カイ二乗検定のp値 0.03529、 $p < 0.05$  (5%水準)、CramerのV = 0.166419479

最後に表6である。全体的に見ると問9-6「一時保育」の認知度は、「知らない人」が219人中、104人の47.5%、「知っている人」が115人の52.5%であり差はあまりない。「5歳以下の子どもがいる人」と「6歳以上の子どもがいる人」で見ると、「5歳以下の子どもがいる人」は84人で57.5%、「6歳以上の子どもがいる人」が31人で42.5%となり、「5歳以下の子どもがいる人」の方が若干、認知度の高い傾向にあることが分かった。これは、幼い子どもに対して不安を感じたり、手がかかったりするので認知度が若干高いのではないかと考えられる。カイ二乗検定の結果、5%水準で有意な差が見られた。

以上の結果から、「5歳以下の子どもがいる人（幼い子ども）」がいる人の方が、子育て支援サービスに対する認知度が高いはずであるという仮説は部分的にはあるが認められると考えられる。

## 5. 仮説Ⅱ、Ⅲの検証

本節では、仮説Ⅱ「幼稚園・保育園に対して不満に思っている人は子育て支援サービスにもっと力を入れてほしい」、仮説Ⅲ「幼稚園・保育園に対して満足に思っている人は子育て支援サービスを知っている」を検証する。

### 5.1. 幼稚園・保育園へのサービス満足度と力を入れて欲しいサービス

219人全体で見たとき、問14⑦「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と問8「幼稚園・保育園に力を入れほしいサービス」／問9「子育て支援サービス」の各選択肢を用いてクロス表を作成した。それぞれのクロス表をカイ二乗検定にかけた結果、有意な関連がみられたのは、問8-4「日曜・祝祭日の保育」（表7）と問9-4「産前産後支援ヘルプセンター」（表8）であった。

表7 問14①「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」

×問8-4「日曜・祝祭日の保育」

幼稚園・保育園のサービス に対する満足度	力を入れてほしいサービス (日曜・祝祭日の保育)		総計
	当てはまらない	当てはまる	
満足	89	18	107
%	83.2	16.8	100.0
不満	37	16	53
%	69.8	30.2	100.0
総計	126	34	160
%	78.8	21.3	100.0

カイ二乗検定のp値 0.00096、 $p < 0.01$  (1%水準)、CramerのV = 0.260987506

最初に表7を見ていこう。「満足」に思っている人と「不満」に思っている人の全体で「力を入れてほしい」と回答した人の割合を見ると、160人中34人の21.3%となり、「日曜・祝祭日の保育サービス」には「力を入れて欲しい」と回答する割合は低い傾向にあることがわかる。幼稚園・保育園に対する満足度で比較すると、「満足」に思っている人は18人で16.8%、「不満」に思っている人は16人で30.2%、「不満」に思っている人の方が力を入れて欲しい割合が高い。これは、現状で働く女性が増えているのが原因なのではないかと考えられる。カイ二乗検定の結果、1%水準で有意な差が見られた。

表8 問14①「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」

×問9-4「産前産後支援ヘルプサービス」

幼稚園・保育園のサービス に対する満足度	産前産後支援ヘルプサービス		総計
	知らない	知っている	
満足	85	22	107
%	79.4	20.6	100.0
不満	35	18	53
%	66.0	34.0	100.0
総計	120	40	160
%	75.0	25.0	100.0

カイ二乗検定のp値 0.06539、 $p < 0.1$  (10%水準)、CramerのV = 0.145667662

続いて、表8を見ていこう。全体的に見ると「産前産後支援ヘルプサービス」の認知度は、160人中40人の25.0%となり、認知度は低い傾向にある。幼稚園・保育園に対する満足度で比較すると、「満足」に思っている人は107人中22人で20.6%、「不満」に思っている人が53人中18人で34.0%、「満足」に思っている人より、「不満」に思っている人の方が知っている割合が高い。カイ二乗検定の結果、10%水準で有意な差が見られた。

## 5.2. 「子どもの年齢」による分析

以上を踏まえて、問35④「子どもの年齢」を用いて、「5歳以下の子どもがいる人」と

「6歳以上の子どもがいる人」にグループを分けて、問8「幼稚園・保育園に力を入れほしいサービス」と問9「子育て支援サービス」で検定をかけた。その結果、有意な関連が見られたのは、「6歳以上の子どもがいる人」の問8-4「日曜・祝祭日の保育」（表9）と「6歳以上の子どもがいる人」の問9-2「とだ子育てサロン」（表10）であった。

表9 問14①「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」  
×問8-4「日曜・祝祭日の保育」【6歳以上】

幼稚園・保育園のサービス に対する満足度	力を入れてほしいサービス 日曜・祝祭日の保育)		総計
	当てはまらない	当てはまる	
満足	38	4	42
%	90.5	9.5	100.0
不満	7	7	14
%	50.0	50.0	100.0
総計	45	11	56
%	80.4	19.6	100.0

カイ二乗検定のp値、0.00096 p<0.01 (1%水準)、CramerのV=0.260987506

表9からは、「6歳以上の子ども」がいる人のなかで、幼稚園・保育園に対して「満足」と回答した42人中4人の9.5%が、「日曜・祝祭日の保育」に力を入れて欲しいという回答したことから、「満足」している人が「力を入れて欲しい」と回答する割合は低い傾向にある。これは、ある程度子どもが大きくなると手がかからなくなるからではないかと考えられる。逆に、「不満」に思っている人は14人中7人の50.0%となっていて、「満足」に思っている人よりも「日曜・祝祭日の保育」に力を入れてほしいと思っていることが読み取れる。カイ二乗検定の結果、1%水準で有意な差が見られた。

表10 問14①「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」  
×問9-2「とだ子育てサロン」【6歳以上】

幼稚園・保育園のサービス に対する満足度	とだ子育てサロン		総計
	知らない	知っている	
満足	22	20	42
%	52.4	47.6	100.0
不満	12	2	14
%	85.7	14.3	100.0
総計	34	22	56
%	60.7	39.3	100.0

カイ二乗検定のp値 0.02699 p<0.05 (5%水準)CramerのV=0.174843959

幼稚園・保育園に対して「満足」に思っている42人中20人の47.6%、「不満」に思っている14人中2人の14.3%が「とだ子育てサロン」を知っていると回答した。ここから、

幼稚園・保育園に対して「満足」に思っている人は「とだ子育てサロン」を知っていることが読み取れる。カイ二乗検定の結果、5%水準で有意な差が見られた。「不満」に思っている人は、サービスを“知らない”から「不満」に思っているのかもしれない。サービスを“知る”ことによって「不満」が「満足」になるかもしれない。

以上、有意な関連がみられた箇所の結果から、幼稚園・保育園に対して「不満」に思っている人の方が、「子育て支援サービス」に力を入れてほしいということが分かった。だが、分析からは、「不満」であるからといって「子育て支援サービス」に力を入れて欲しいという直線的なものに収斂されないことも理解できた。また、子どもの年齢が5歳以下の場合には、満足や不満とサービス認知度や力を入れて欲しいかどうかとは関連が見られないことにも注意が必要である。それは、本章の仮説は、幼稚園・保育園に対して満足に思っている人の方が子育て支援サービスを知っているのではないかというものであったが、「産前産後支援ヘルプサービス」は「不満」に思っている人の方がサービスを知っていて、「とだ子育てサロン」は「満足」の人の方が知っているという結果になったことから理解できる。これは、サービスの内容によってニーズが異なるため、そのニーズの差異によってサービスの認知度に差が出たのだと考えられる。

## 6. 考察

戸田市は子育て支援サービスが充実しているが、調査していくと現状では認知度が低いということが分かった。認知度が低いなかでも、子どもの年齢が若い人の方がサービスの認知度は高い。これは、子どもが幼い方が、子育てに手がかかるとい生活上の事情や働きにでる女性が増えた社会・経済的背景が理由ではないかと思う。

幼稚園・保育園に対して不満に思っている人は、子育て支援サービスに力を入れてほしいということ分かった。幼稚園・保育園に不満を感じている分、サービスには力を入れてほしいという考えを持っているのではないかと考えられる。

幼稚園・保育園に対して満足に思っている人の方が子育て支援サービスを知っているという仮説に対しては、サービスによって認知度が異なることが理解できる。さまざまな個人が置かれた状況によって求めているサービスが異なるという多様化した社会生活を営む上での背景がこのような結果に現れているのだと思う。また、幼稚園・保育園に対して満足に思っている人は、現状ではそれ以上を求めていないのではないかと考えられる。それゆえに、サービスの認知度が低いのではないか。

とはいえ、充実している子育て支援サービスを知らなかったり、利用しなかったりするよりはよりよい子育てを行う上では、もったいないとも考えられる。それゆえに、今後は認知度の低い子育て支援サービスをより多くの人に知ってもらう方法を考えていく必要があるのではないだろうか。

### 【文献】

『保育園、保育所における待機児童の現状』 (<http://taikijidou.net/>)

林冬彦『戸田市に住むと楽しいな!』(<http://blog.todakouen.jp/archives/51356647.html>)

「3年連続減で過去最少」『埼玉新聞』2012年6月2日.

「待機児童ゼロに」『埼玉新聞』2013年5月29日.



## 第7章 幼稚園・保育園に対する満足度とサービスの認知度②

### —子どもの数に着目して—

#### 1. 問題意識

近年、少子化が深刻な課題となっている。そのため埼玉県では、県内のどの市町村に生活していても適切な支援サービスが受けられるよう、すべての自治体で地域子育て応援タウン認定を受けることを目指している。

しかし、2010年4月26日の朝日新聞朝刊における「県の『地域子育て支援応援タウン』認定自治体まだ3割弱」（29ページ 埼玉全県）という記事では、全64市町村のうち認定を受けたのは、まだ19市町と全体の3割にも満たないという現状が報じられた。このように目標としての「地域子育て支援応援タウン」認定は現実的には難しいことも明らかである。その中でも、さいたま市は2007年度の認定を受けた際に56ある中学校の学区より多い拠点を確保している。

だが上述の通り、地域子育て応援タウン認定を受ける条件を満たす自治体が少ない要因の1つには、一般的には人口が多い都市部ほど学区の数も多い傾向にあり、それに見合う拠点数を確保しづらいことがあげられる。

「地域子育て応援タウン」<sup>2</sup>に認定された第一号（平成19年度 第1回）には、埼玉県戸田市、新座市、鳩山町、宮代町の4市がある。この4市町村の中で、戸田市に注目してみると、人口の平均年齢が38.7歳と他県や県内に比べても若い傾向にある。また、交通の便から考えても埼玉県でありながらも、都心への距離が近いため、子育て世代・単身者・学生などの人口も増加している傾向にあるようだ。今回の社会調査実習にあたり、自治体の子育て支援の取り組みの現状を調べていく中で、戸田市では、子育て世代が増えるとともに、子育て支援サービスにも力を入れていることを知り、筆者は埼玉県戸田市の子育て支援に関するサービスの満足度に興味を持つに至った。

ところで、2013年2月9日の朝日新聞朝刊における「多様化する子育てサービス 悩み多いが…利用経験3割弱」（28ページ 埼玉全県）という記事では、育児支援団体調査による実施団体がある和光市、越谷市、加須市の3つの地域周辺で「赤ちゃん割引」（妊娠期～2歳児）を使用している人を対象に行った、子育て支援サービスに対する認知度調査の結果が示されている。それによると、子育て中の親が孤立しがちな現代で、行政からも民間からも様々な支援サービスが登場しているものの、認知度は低いという結果が示されている。具体的には、子育て中の親の3分の2以上が悩みや戸惑いを抱えているにも関わら

<sup>2</sup> 「地域子育て応援タウン」認定には①子育てに関する総合支援窓口を設置する。②地域の子育て支援拠点を中学校区に1ヵ所置く③子育て支援ネットワークを設置しているという、3つのことが条件である。



ず、支援サービスの利用者は3分の1にとどまっているという。それは、経済的な問題や他人に頼みにくいという人間関係の面だけでなく、サービスそれ自体を知らない人も多いためでもある。また、子育て支援サービスを利用しない理由として、外部とのつながりを避ける傾向がある人もいるという。だが、利用してみたいと思っている人は、20代では半数を超えており、戸惑いや悩みを感じることもあることも確かである。したがって、育児に不慣れな若年層や新住民の子育て支援サービスへのニーズは高いものの、子育て支援拠点が増えた割には、それらサービスの利用率が少ないというギャップが現在の子育て支援をめぐる一般的な課題であると考えられる。

以上の既存の調査結果から読み取れる課題を踏まえて、「戸田市における子育て支援活動」を調査した本調査の中で、本章では、戸田市に住んでいる人々の子育て支援活動の実態を把握し、(1) 子育て支援サービスへどのような考えを持っているのか、(2) 支援を利用している人とそうでない人での子育て支援サービスの満足度に違いはあるのか、などを明らかにすることを目的とする。以下、節をあらため、上記の問題意識を明らかにするための仮説を提示し(2節)、3節以下で、仮説を検証していく。

## 2. 分析のねらいと仮説

先述の通り、子育て中の親が孤立しがちな現代で、行政からも民間からも様々な支援サービスが登場しているものの、認知度は低いという結果が示されている。それには、経済的な問題や人間関係の面だけでなく、サービス自体を知らない人も多いことも要因の一つであろう。また、外部とのつながりを避ける傾向がある人もいる一方で、利用してみたいと思っている人は、20代では半数を超えており、戸惑いや悩みを感じることもあることも確かである。育児に不慣れな若年層や新住民の子育て支援サービスへのニーズは高いものの、子育て支援拠点が増えた割には、それらサービスの利用率が少ないというギャップが現在の課題である。以上を踏まえ、本章では、以下のような仮説を設定する。

〈仮説〉

- I. 子供の人数が多い方が、子育て支援サービスに対する認知度が高いはずである。
- II. 幼稚園・保育園のサービスを不満に思っている人はサービスにもっと力を入れてほしいと考えているはずである。
- III. 幼稚園・保育園のサービスに満足している人は子育て支援サービスを知っているはずである。

以下、上記 I～III の仮説について調査結果をもとに分析を行う。

## 3. 使用する変数と基礎集計

本章で使用する変数は、問8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問14「幼稚園・保

育園に対するサービスの満足度」、問 35「子供の数と年齢」とする。以下、独立変数として設定する変数と従属変数として設定する変数のそれぞれについての説明と基礎集計を提示する。

### 3.1. 独立変数の基礎集計

独立変数は、問 35 の「子どもの年齢と数」とする。本章では、子育て世代に焦点を置くため、対象者を 12 歳以下の子どもを持つ人に限定する必要がある。

すなわち、問 35c - 1 (子供の有無) で「1:あり」と回答した人が「子どもを持つ人」であり、全体の 577 人中で、「子どもの人数 0 人」と回答した人を除いた「子どもがいる人」は 349 人に絞られる。

その上で、「12 歳以下の子どもを持つ人」に限定をかける必要がある。そのために、問 35c - 3 で「1:あり」と回答した人に対象を絞ると、577 人中 219 人であった。つまり、「12 歳以下の子どもを持つ人」は 577 人中 219 人となる。この 219 人が本章の対象となる。

次に、子どもが 1 人いる人を「1」、子どもが 2 人以上いる人を「2」とする変数を作成し、その分布をまとめたのが表 1 である。

表 1 12 歳以下の子どもを持つ人の子どもの人数

子供の数	人数 (人)	総計 (%)
1人	92	42.0
2人以上	127	58.0
総計	219	100.0

表 1 より、12 歳以下の子どもの数が「1 人」の人が 42.0% (92 人)、子どもの数が「2 人以上」の人が 58.0% (127 人) いるということが分かった。すなわち、12 歳以下の子どもを持つ 219 人全体で見ると、子どもの数が「2 人以上」いる人の方が 6 割近くと若干多い割合となっていることが理解できる。

### 3.2. 従属変数の基礎集計

ここでは従属変数とする、問 14「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と問 14 をアフターコードして作成した追加変数の問 14⑦の基礎集計を提示する。

表2 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	人数 (人)	総計 (%)
満足	34	16.9
やや満足	73	36.3
やや不満	33	16.4
不満	20	10.0
利用していない	41	20.4
総計	201	100

「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」「利用していない」の5段階で、「満足」が16.9% (34人)、「やや満足」が36.3% (73人)、「やや不満」が16.4% (33人)、「不満」が10.0% (20人)、「利用していない」が20.4% (41人)という結果となった(表2)。この中で最も高い数値となったのが、「やや満足」の人で、次に多いのが「利用していない」の人である。満足と感じるまではいかないが、やや不満とまでもいかないと思う人がいる傾向にある。

次に、先ほど問14で「満足・やや満足」と回答した人を1とし、「やや不満・不満」と回答した人を2とした追加変数、問14①を作成した結果が、表3である。ここでは問14で「利用していない」と回答した人数は除いた。

表3 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	人数 (人)	総計 (%)
満足・やや満足	107	66.9
やや不満・不満	53	33.1
総計	160	100

「満足・やや満足」が66.9% (107人)で、「やや不満・不満」が33.1% (53人)という結果となった。「満足・やや満足」と「やや不満・不満」のどちらか2つに回答を分けると、「不満」と思う人よりも「満足」と思う人の割合が2倍近く高かった(表3)。幼稚園・保育園のサービスに対して、半数以上の方が「満足」と感じている人が多い傾向にある。以上を踏まえ、仮説を検証していく。

#### 4. 仮説 I の検証

本節では、仮説 I 「子どもの人数が多い方が、子育て支援サービスに対する認知度が高いはずである」を検証する。

子どもの人数と、問8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問9「子育て支援サービ

スの認知度」の各選択肢を用いてクロス表を作成し、カイ二乗検定をかけた結果、有意な関連が見られたのは問9-1「とだファミリーサポートセンター」（表4）であった。

〈サービスへの期待・認知度と子どもの数との関連〉

表4 子どもの数と子育て支援サービスの認知度【対象者219人】

子どもの人数	とだファミリーサポートセンター		総計
	知らない	知っている	
1人	53	39	92
%	57.6	42.4	100.0
2人以上	50	77	127
%	39.4	60.6	100.0
総計	103	116	219
%	47.0	53.0	100.0

カイ二乗検定のp値 0.00761、 $p < 0.01$ （1%水準）、CramerのV=0.211009561

子どもの人数と「とだファミリーサポートセンター」の認知度のクロス表（表4）をカイ二乗検定した結果、1%水準で統計的な有意差がみられた。

「子どもの人数」と「とだファミリーサポートセンター」のクロス表について、12歳以下の子どもを持つ219人全体で見ると、「とだファミリーサポートセンター」を「知っている」と回答した人は47.0%（103人）で、「知らない」と回答した人は53.0%（116人）となり、サービスの認知度にはあまり差がない。

「知らない」の人だけで見ると、「子ども1人」の場合57.6%（53人）で、「子ども2人以上」の場合39.4%（50人）となっている。「知っている」と回答した人だけで見ると、「子ども1人」の場合42.4%（39人）で、「子ども2人以上」の場合60.6%（77人）という結果になり、子どもの数が多い人ほどサービスの認知度が高い傾向にあることが読み取れる。

このことから仮説Ⅰの「子どもの数が多い方が、子育て支援サービスに対する認知度が高いはずである」が部分的にはあるが検証された。

## 5. 仮説Ⅱ・Ⅲの検証（①12歳以下の子供を持つ219人を対象とする分析）

本節では、仮説Ⅱ「幼稚園・保育園のサービスを不満に思っている人はサービスにもっと力を入れてほしい」と仮説Ⅲ「幼稚園・保育園のサービスに満足している人は子育て支援サービスを知っている」を12歳以下の子どもを持つ人を対象者として検証する。

「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と問8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問9「子育て支援サービスの認知度」の各選択肢を用いてクロス表を作成し、それぞれのクロス表にカイ二乗検定をかけた結果、有意な関連が見られたのは問8-4「日曜・祝祭日の保育」（表5）と問9-4「産前産後支援ヘルプサービス」（表6）であった。

〈サービスへの期待・認知度と幼稚園・保育園に対する満足度との関連〉  
 表5 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度と子育て支援サービスの  
 期待度【対象者 219 人】

幼稚園・保育園のサービスに 対する満足度	日曜・祝祭日の保育		総計
	力を入れなくてよい	力を入れて欲しい	
満足・やや満足	89	18	107
%	83.2	16.8	100.0
やや不満・不満	37	16	53
%	69.8	30.2	100.0
総計	126	34	160
%	78.8	21.3	100.0

カイ二乗検定のp値 0.05175、 $p < 0.1$  (10%水準)、CramerのV = 0.153785239

カイ二乗検定の結果、10%水準で統計的な有意差がみられた (表 5)。「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と「日曜・祝祭日の保育」で検定をかけて、12歳以下の子どもを持つ219人全体で見ると、サービスに「力を入れなくてよい」が78.8% (126人)、「力を入れて欲しい」が21.3% (34人)となり、現状では「力を入れなくてもよい」と思っている人が多いようだ。「力を入れなくてよい」だけで見ると、「満足・やや満足」が83.2% (89人)、「やや不満」が69.8% (37人)となり、「満足・やや満足」と回答している人のほうが、サービスに力を入れなくてもよいと思う人の割合が多い。「力を入れて欲しい」だけで見ると、「満足・やや満足」が16.8% (18人)、「やや不満」が30.2% (16人)となり、「不満」に思う人はより力を入れて欲しいように思える。

12歳以下の子どもを持つ人全体では現状で満足しているが、「満足」・「不満」で分けると「満足」な人はサービスに力を入れて欲しいと回答する傾向が低く、「不満」な人はより力を入れて欲しいと思う人が多いことが理解できる。

表6 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度と子育て支援サービスの  
 認知度【対象者 219 人】

幼稚園・保育園のサービスに 対する満足度	産前産後支援ヘルプサービス		総計
	知らない	知っている	
満足・やや満足	85	22	107
%	79.4	20.6	100.0
やや不満・不満	35	18	53
%	66.0	34.0	100.0
総計	120	40	160
%	75.0	25.0	100.0

カイ二乗検定のp値 0.06539、 $p < 0.1$  (10%水準)、CramerのV = 0.145667662

カイ二乗検定の結果、10%水準で統計的な有意差がみられた (表 6)。

「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と「産前産後支援ヘルプサービス」のク

ロス表に対して、カイ二乗検定を行った結果をまとめると、12歳以下の子どもを持つ219人全体で見ると、「知らない」が75.0%（120人）で、「知っている」が25.0%（40人）という結果になり、サービスの認知度は低いことが理解できる。

「知らない」の人だけで見ると、「満足・やや満足」が79.4%（85人）、「やや不満・不満」が66.0%（35人）となる。次いで、「知っている」の人だけで見ると、「満足・やや満足」が20.6%（22人）、「やや不満・不満」が34.0%（18人）となり、サービスを「知っている人」は「満足」よりも「不満」に思う人が多い結果となった。

12歳以下の子どもを持つ219人全体では、サービスの認知度は低い傾向にある。そして、「産前産後支援ヘルプサービス」を「知っている人」は「不満」に思う人が多く、逆に「知らなくて満足している人」が多いことが分かった。サービスを知らなくても、「満足」している人は、知らなくても現状の子育てのままで良い、サービスを利用しなくてもよいと思っているのかもしれない。逆に言えば、様々なサービスを知らずにいることで、現状に満足しているという可能性も読み取れる。

## 6. 仮説Ⅱ・Ⅲの検証 ②子どもの数が1人、2人以上の場合

本節では、仮説Ⅱ「幼稚園・保育園のサービスを不満に思っている人はサービスにもっと力を入れてほしい」と仮説Ⅲ「幼稚園・保育園のサービスに満足している人は子育て支援サービスを知っている」を子どもの数が1人、2人以上の人を対象として検証する。

### 6.1. 子どもが1人の場合

「子ども1人」の場合、結果的にみれば、「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と、問8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問9「子育て支援サービスの認知度」の各選択肢を用いてクロス表を作成し、カイ二乗検定をかけた結果、有意な関連が見られたのは、問9-4「産前産後支援ヘルプサービス」（表7）であった。

表7 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度と子育て支援サービスの期待度【子どもの数1人の場合】

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	産前産後支援ヘルプサービス		総計
	力を入れなくてよい	力を入れて欲しい	
満足・やや満足	27	14	41
%	65.9	34.1	100.0
やや不満・不満	6	9	15
%	40.0	60.0	100.0
総計	33	23	56
%	58.9	41.1	100.0

カイ二乗検定のp値 0.08159、 $p < 0.1$ （10%水準）、CramerのV = 0.137680584

カイ二乗検定の結果、10%水準で統計的な有意差がみられた（表7）。

子どもの数1人の場合で「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と「産前産後ヘルプサービス」で検定をかけて、全体で見ると「力を入れなくてよい」が58.9% (33人)、「力を入れて欲しい」が41.1% (23人)であった。「力を入れなくてよい」だけで見ると、「満足・やや満足」が65.9% (27人)、「やや不満・不満」が40.0% (6人)となり、「満足」で「力を入れなくてもよい」と思っている人の方が多い。「力を入れて欲しい」だけで見ると、「満足・やや満足」が34.1% (14人)、「やや不満・不満」が60.0% (9人)となり、「不満」で力を入れて欲しい人の割合の方が多い。

幼稚園・保育園のサービス度に対する満足度と、「子育て支援サービス」の認知度、力を入れて欲しいかについては、問8、問9の全体ではサービスの満足度と力を入れるか入れないかではあまり差がなかった。しかし、「子ども1人」の場合で、「産前産後支援ヘルプサービス」に対して「満足」で「力を入れなくてよい」と思う人と、「不満」で「力を入れて欲しい」と思う人が多いことが分かった。このことから、仮説Ⅱ「幼稚園・保育園のサービスを不満に思っている人はサービスにもっと力を入れて欲しい」は、子ども1人に限定した場合、問9-4「産前産後支援ヘルプサービス」との関連においてのみというきわめて部分的に認められたと言える。

## 6.2. 子どもが2人以上の場合

次に、子どもの数が「2人以上」の場合で、「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と、問8「幼稚園・保育園のサービスについて」、問9「子育て支援サービスの認知度」でクロス表を作成し、カイ二乗検定をかけた結果、有意な関連が見られたのは問8-4「日曜・祝祭日の保育」(表8)と問9-2「とだ子育てサロン」(表9)であった。

表8 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度と子育て支援サービスの期待度【子どもの数2人以上の場合】

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	日曜・祝祭日の保育		総計
	力を入れなくてよい	力を入れて欲しい	
満足・やや満足	64	18	82
%	78.0	22.0	100.0
やや不満・不満	10	12	22
%	45.5	54.5	100.0
総計	74	30	104
%	71.2	28.8	100.0

カイ二乗検定のp値 0.00273、 $p < 0.01$  [%水準]、CramerのV = 0.236885921

カイ二乗検定の結果、1%水準で統計的な有意差がみられた(表8)。

「子どもの数2人以上」の場合で「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と「産前産後ヘルプサービス」のクロス表を作成し、カイ二乗検定をかけた結果を全体で見ると「力を入れなくてよい」が71.2% (74人)、「力を入れて欲しい」が28.8% (30人)で、サービスに対して力を入れなくてよいと思う人の割合が多かった。

「力を入れなくてよい」だけで見ると、「満足・やや満足」が 78.0% (64 人)、「やや不満・不満」が 45.5% (10 人) となり、現状で満足している人が多いように思える。

「力を入れて欲しい」だけで見ると、「満足・やや満足」が 22.0% (18 人)、「やや不満・不満」が 54.4% (12 人) となり、「不満」に思う人の方が力を入れて欲しい割合が高い。

このことから、仮説Ⅱ「幼稚園・保育園のサービスを不満に思っている人はサービスにもっと力を入れてほしい。」ということが、問 8-4 の「日曜・祝祭日の保育」が子どもの数 2 人以上に限り、部分的にはあるが、仮説が検証された。とはいえ、「やや不満・不満」と回答した人の「力をいれなくてもよい」と「力を入れて欲しい」の割合に大きな差は見られないことも確かである。このことは、子どもの人数が 2 人以上となると不満に思っている、兄弟・姉妹で面倒を見ることがある可能性があるため、「日曜・祝祭日の保育」のサービスに力を入れなくてもよいと考える人がいることを示唆しているのかもしれない。

表 9 幼稚園・保育園のサービスに対する満足度と子育て支援サービスの認知度【子どもの数 2 人以上の場合】

幼稚園・保育園のサービスに対する満足度	とだ子育てサロン		総計
	知らない	知っている	
満足・やや満足	36	20	56
%	64.3	35.7	100.0
やや不満・不満	38	10	48
%	79.2	20.8	100.0
総計	74	30	104
%	71.2	28.8	100.0

カイ二乗検定の p 値 0.09494、 $p < 0.1$  (10%水準)、Cramer の  $V = 0.13201569$

表 9 をカイ二乗検定した結果、10%水準で統計的な有意差がみられた。

子どもの数 2 人の場合で「幼稚園・保育園のサービスに対する満足度」と「とだ子育てサロン」のクロス表を作成し、カイ二乗検定をかけた結果を、子ども 2 人以上の場合で見ると、サービスを「知らない」71.2% (74 人)、「知っている」が 28.8% (30 人) となり、認知度は低い傾向にある。

「知らない」だけで見ると、「満足・やや満足」が 64.3% (36 人)、「やや不満・不満」が 79.2% (38 人) となり、知らないで不満に思う人が多いことが分かった。

「知っている」だけで見ると、「満足・やや満足」が 35.7% (20 人)、「やや不満・不満」が 20.8% (10 人) となり、知っていて満足に思う人の割合が多かった。

子どもが 2 人以上の対象者がサービスを知っていて満足している人の割合が少し高いのは、そのサービスが良いまたは今後も利用していきたいと思っている人がいる可能性がある。このことは、今後、認知度を高めることによって、不満に思う人の割合が低くなっていくのかもしれないとも考えられる。

## 7. 考察



今回の調査で、子育て世代にとって不慣れとなっている子育ての悩みを解決する子育て支援サービスへのニーズは高いものの、子育て支援拠点やサービスが増えた割には、それらのサービスの認知度が低いことが分かった。それは、実際に12歳以下の子どもを持つ219人を対象に調査の結果を見ると、半数以上の人知らないという結果になったことから理解できる。

問9-1「とだファミリーサポートセンター」を子どもの数で検証してみると、子どもの数が多い人ほどサービスの認知度が高いという結果になり、部分的にはあるが仮説Ⅰが検証された。この結果は、12歳以下の子どもを持つ人で子どもの人数が多い人は、子育てに対して不安や大変に感じる事が多く、子育て支援サービスに頼ろうとしていることに起因しているのかもしれない。

子どもの人数を1人の場合では、幼稚園・保育園のサービスに対する満足度は、満足な人はサービスに力を入れなくてよいと思う人が多く、不満な人はより力を入れて欲しいと思う人が多い結果になった。「産前産後支援ヘルプサービス」に関しては、サービスを知っている人は不満に思う人が多く、逆に知らなくて満足している人が多いことが分かった。サービスを知らなくてもサービスに満足している人は、知らなくても現状の子育てのままでも良い、サービスを利用しなくてもよいと思っているのかもしれない。

子ども2人以上の場合では、不満に思う人の方が力を入れて欲しい割合が多い。問8-4「日曜・祝祭日の保育」で子どもの数2人以上に限り、仮説Ⅱが検証された。しかし、子どもの人数2人以上となると不満に思っている、兄弟・姉妹で面倒を見る可能性があるため、子育て支援サービスに力を入れなくてもよいと思う人がいるのかもしれない。

また、問9-2「とだ子育てサロン」に関しては、知っていて満足に思う人の割合が多かった。子どもが2人以上の人がサービスを知っていて満足している人の割合が少し高いのは、そのサービスが良いまたは今後も利用していきたいと思っている人がいるのかもしれない。

戸田市では、行政からも民間からも様々な支援サービスが登場しているものの、はじめで述べたように、子育て支援サービスの認知度が低いことにあまり変わりはないようだ。そして、満足度には、子どもの人数によって差が出ることはあまりないという結果になった。しかし、認知度が低い中でも子どもの数が多い方が、認知度が高い傾向にあった。また、半数以上の人満足と感じている人が多く、現状で満足している人が多いと思われる。

子育て支援サービスの認知度に関しては、子ども2人の場合でのみに限り「幼稚園・保育園のサービスに対して満足」と回答した人が「とだ子育てサロン」を「知っている人」という結果となった。乳幼児と保護者がコーディネーターを中心に日々の子育てについて話をするという内容が、子育てする世代の人達にとって需要のある取り組みであり、また子育て支援サービスの認知度や満足度を高めていく要因なのかもしれない。

今後は、認知度を高めることで子育て支援サービスに対して興味を持ったり、利用者が増えていくことがある可能性もある。そして、実際に利用した人が口コミなどで広めてい

けば、不満に思う人の割合が減少していく可能性もある。

**【文献】**

「県の『地域子育て支援応援タウン』認定自治体まだ3割弱」『朝日新聞』（2010年4月26日，朝刊，29面）

「多様化する子育て支援サービス 悩み多いが...利用経験3割」『朝日新聞』（2013年2月9日，朝刊，28面）



## 第8章 戸田市の子育て世代と福祉

### 1. 問題意識と仮説

#### 1.1. 問題意識

埼玉県戸田市における子育て世代の意識調査をするにあたり、筆者は福祉政策の実態と認知度に興味を持った。戸田市の人口は130,454人（平成26年2月1日現在）であり、平均年齢は39.6歳（平成25年1月1日現在）となっており、埼玉県で最も若いという点に特徴がある。全国の市町村における人口の平均年齢は44.9歳（平成23年）であり、戸田市の平均年齢は全国的に見ても若いことがわかる。また、戸田市の平成25年の統計調査によれば年少人口・生産年齢人口の比率も高い。以上より、戸田市には子育て世代が多く生活していると考えられる。そのため、子育て世代にとっては、自分たちの子どもたちの未来だけでなく、数十年後の自分たちの将来のことも見据え福祉やバリアフリーに対して多くの関心を持つ人が多くいるのではないかと推察される。

#### 1.2. 仮説

- I 子どもの年齢が高いほど生涯学習に対する関心が高い。
- II 子どもの年齢が低いほど図書館 児童センター等の利用者が多い。
- III 子どもの年齢が低いほどバリアフリーについて満足している人が多い。子育て世代のためにバリアフリーに対して関心が高い。

### 2. 使用した変数と基礎集計

#### 2.1. 使用した変数

使用する変数は、問21「あなたは戸田市で行われている生涯学習を知っていますか」、問22「あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください」（1 市民大学の利用 2 GSP 講座（子ども支援プログラム） 3 まちづくり出前講座 4 外交語講座 5 その他 6 参加していない）という生涯学習の参加度に関する変数を用いる。

また、問23「あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください」（a 図書館 b 郷土博物館 c 公民館 d 児童センター（プリムローズ） e ボランティア・市民活動センター f 笹目コミュニティセンター（コンパル） g 男女共同参画センター（ピリブ）、という公的施設の利用度に関する変数も用いる。

さらに、問24「あなたは戸田市のバリアフリー対策に満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください」、問25「問24で「3. やや不満」「4. 不満」と答えた方のみお答えください。次にあげる事柄のなかで特に満足していないもの1つに○をつけてく

ださい」(1 段差が多い 2 スロープが少ない 3 手すりが少ない 4 階段が多い 5 歩道が狭い 6 点字プロ  
 ックが少ない 7 休める場所が少ない 8 けがをしたことがある 9 その他)、問 35 「あなたには、お子さ  
 んは何人いらっしゃいますか (同居非同居問わず)」を使用する。

## 2.2. 独立変数の基礎集計

先に提示した変数のなかで、本章では独立変数として、問 35 を用いて、子どもの有無、  
 年齢による福祉への認知度の違いを検証する。それぞれの基礎集計は表 1 から表 3 までに  
 示してある。

「子どもの有無」については「子どものいない人」が 38.3%、「子どものいる人」が 60.  
 5%となった。「子どもの人数」は、「0 人」が 38.3%、「1 人」が 21.0%、「2 人以上」が 39.  
 5%となった。「子どもの年齢」は、「12 歳以下の子どもがいない人」は 21.7%、「12 歳以下  
 の子どものいる人」が 38.0%、「子どものいない人」が 38.3%となった。

表 1 子どもの有無

	人数	%
子どもなし	221	38.3
子どもあり	349	60.5
無回答	7	1.21
合計	577	100.0

表 2 子どもの人数

	人数	%
0 人	221	38.3
1 人	121	21.0
2 人以上	228	39.5
無回答	7	1.2
合計	577	100.0

表 3 子どもの年齢 12 歳以下

	人数	%
なし	125	21.7
あり	219	38.0
子どもなし	221	38.3
無回答	12	2.1
合計	577	100.0

## 2.3. 従属変数の基礎集計

次いで、本章で用いる従属変数について説明する。従属変数として用いるのは、問 21  
 「あなたは戸田市で行われている生涯学習を知っていますか」である。表 4 にその結果を  
 示した。生涯学習を「知っている人」が 32.9%、「知らない人」は 66.4%、無回答が 0.69%  
 となった。

表4 戸田市で行われている生涯学習認知度

Q21	人数	%
知っている	190	32.9
知らない	383	66.4
無回答	4	0.69
合計	577	100.0

問22「あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください」の結果は表5にまとめた。表5より「参加している人」が8.0%、「参加していない」が92.0%となり、ほぼ参加していないことが読み取れる。

表5 戸田市が主催する生涯学習の参加度

生涯学習	人数	%
参加している	46	8.0
参加していない	531	92.0
合計	577	100.0

次に、問23「あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください」については、表6から理解できるように全体的に見れば、利用度はきわめて低い傾向にある。個別の施設について見ていこう。

「図書館」を「よく利用する人」が13.0%、「ときどき利用する人」が29.6%、「ほとんど利用しない人」が23.6%、「まったく利用しない人」が31.9%、「無回答」が1.9%となった。

「郷土博物館」を「よく利用する人」が0.2%、「ときどき利用する人」が6.8%、「ほとんど利用しない人」が23.6%、「まったく利用しない人」が65.3%、「無回答」が4.2%となった。

「公民館」を「よく利用する人」は1.7%、「ときどき利用する人」は11.6%、「ほとんど利用しない人」は22.2%、「まったく利用しない人」は60.0%、「無回答」が4.5%となった。

また、「児童センター」を「よく利用する人」と回答した人は2.9%、「ときどき利用する人」が12.7%、「ほとんど利用しない人」が17.9%、「まったく利用しない人」が62.7%、「無回答」が3.8%となった。「ボランティア・市民活動」については、「ほとんど利用しない人」が10.9%、「まったく利用しない人」が82.3%とほぼ利用されていない。その他、「笹目コミュニティセンター」や「男女共同参画センター」も同様に利用頻度はきわめて低い傾向にある。

表 6 戸田市の公共施設の利用頻度

Q 23	よく利用する	時々利用する	ほとんど利用しない	まったく利用しない	無回答	合計
図書館	75	171	136	184	11	577
%	13	29.6	23.6	31.9	1.9	100
郷土博物館	1	39	136	377	24	577
%	0.2	6.8	23.6	65.3	4.2	100
公民館	10	67	128	346	26	577
%	1.7	11.6	22.2	60	4.5	100
児童センター	17	73	103	362	22	577
%	2.9	12.7	17.9	62.7	3.8	100
ボランティア・市民活動	1	12	63	475	26	577
%	0.2	2.1	10.9	82.3	4.5	100
笹目コミュニティセンター	7	36	74	438	22	577
%	1.2	6.2	12.8	75.9	3.8	100
男女共同参画センター	4	13	56	479	25	577
%	0.7	2.3	9.7	83	4.3	100

表 7 図書館利用度

	人数	%
利用する	246	43.5
利用しない	320	56.5
合計	566	100

表 8 児童センター利用度

	人数	%
利用する	90	16.2
利用しない	465	83.8
合計	555	100.0

表 9 には戸田市のバリアフリー対策度の満足度を示した。その結果、満足が 9.0%、やや満足が 46.1%、やや不満が 32.2%、不満が 8.5%、無回答が 4.2%となり、全体的には「満足」の割合が高いことが理解できる。

表 9 戸田市のバリアフリー対策の満足度

Q 24	人数	%
満足	52	9.0
やや満足	266	46.1
やや不満	186	32.2
不満	49	8.5
無回答	24	4.2
合計	577	100

表 10 満足＝満足+やや満足 不満＝不満+やや不満

Q24	人数	%
満足	318	57.5
不満	235	42.5
合計	553	100.0

問 25 のバリアフリー対策の不満要因については、表 11 に示した。「段差が多い」が 9.9%、

「スロープが少ない」が1.9%、「手すりが少ない」が0.2%、「階段が多い」が0.9%、「歩道が狭い」が17.3%、「点字ブロックが少ない」が0.5%、「休める場所が少ない」が3.3%、「けがをしたことがある」が0%、「その他」が1.2%となった。

表 11 バリアフリー対策に対して特に満足していないもの

Q25 【対象限定】	人数	%
段差が多い	57	9.9
スロープが少ない	11	1.9
手すりが少ない	1	0.2
階段が多い	5	0.9
歩道が狭い	100	17.3
点字ブロックが少ない	3	0.5
休める場所がない	19	3.3
怪我をしたことがある	0	0
その他	7	1.2
非該当	318	55.1
無回答	56	9.7
合計	577	100

### 3. 分析

ここでは仮説Ⅰ「子どもの年齢が高いほど生涯学習に対する関心が高い」仮説Ⅱ「子どもの数が多いほど図書館、児童センター等の利用者が多い」仮説Ⅲ「子どもの年齢が低いほどバリアフリーについて満足している人が多い。子育て世代のためにバリアフリーに対して関心が高い」の検証をしていく。

#### 3.1. 仮説Ⅰの検証

仮説Ⅰ「子どもの年齢が高いほど生涯学習に対する関心が高い」について検証する。表4で示した「生涯学習の認知度」と表3で示した「12歳以下の子どもの有無」を用いクロス集計を行い検証する。



表 12 生涯学習の認知度と 12 歳以下の子どもの有無

12 歳以下の子どもの有無	生涯学習の認知度		
	知っている	知らない	合計
なし	66	59	125
%	52.8%	47.2%	100.0%
あり	62	157	219
%	28.3%	71.7%	100.0%
子どもなし	58	161	219
%	26.5%	73.5%	100.0%
合計	186	377	563

p=0.000、p<0.01 (1%水準で有意) Cramer の  $v$  0.2251

「12 歳以下の子どものいない人」の「生涯学習の認知度」は、「知っている人」が 52.8%、「知らない人」は 47.2%と「知っている人」の割合が若干高くなっている。「12 歳以下の子どもがいる人」の「生涯学習の認知度」は、「知っている人」が 28.3%、「知らない人」は 71.7%と「知らない人」の割合が高くなっている。また、「子どものいない人」の「生涯学習の認知度」は「知っている人」が 26.5%、「知らない人」が 73.5%と「知らない人」の割合が高くなっている。

以上より、「12 歳以下の子どもがいる人」の方が「12 歳以下の子どもがいない人」より「生涯学習の認知度」が低いことが理解できる。このことは、「12 歳以上の子どもがいる人」の方が子育てに一段落しており、「12 歳以下の子どもがいる人」より時間に余裕をもてており生涯学習に興味を持つ可能性を示唆している。カイニ乗検定の結果 1%水準で有意な関連がみられた。以上より、「子どもがいない人」、「12 歳以下の子どもがいる人」に比べて、「12 歳以上の子どもがいる人」の方が「生涯学習の認知度」が高く、仮説 I が支持されたと考えられる。

### 3.2. 仮説 II の検証

仮説 II 「子どもの年齢が低いほど図書館、公民館等の利用者が多い」について検証する。私の地元である千葉では「図書館」に行くと多くの子どもの見かけることが多い。それゆえに、戸田市も同様に子どもの利用者が多いのではないかと考えられる。また、「児童センター」も子育て世代の人の利用度が高いのではないかとと思われる。以上の問題意識から、問 23 の選択肢のなかで、「図書館」と「公民館」の 2 つに絞って検証する。

表 13 図書館の利用度と 12 歳以下の子どもの有無

12 歳以下の子どもの有無		図書館の利用度				人数
		まったく利用しない	ほとんど利用しない	ときどき利用する	よく利用する	
なし		38	38	35	12	123
	%	30.9%	30.9%	28.5%	9.8%	100.0%
あり		55	44	79	37	215
	%	25.6%	20.5%	36.7%	17.2%	100.0%
子どもなし		89	52	52	25	218
	%	40.8%	23.9%	23.9%	11.5%	100.0%
	合計	182	134	166	74	556

p=0.0014、p<0.01 (1%水準で有意) Cramer の v 0.1397

「12 歳以下の子どものいない人」では、「まったく利用しない・ほとんど利用しない」と回答した人が 61.8%、「ときどき利用する・利用する」と回答した人が 38.3%と「利用しない」と回答した人の割合が高くなっている。また、「子どものいない人」では「まったく利用しない・ほとんど利用しない」と回答した人が 64.7%、「ときどき利用する・よく利用する」と回答した人が 35.4%と「利用しない」と回答した人の割合が高い。

反対に、「12 歳以下の子どもがいる人」は「まったく利用しない・ほとんど利用しない」と回答した人が 46.1%、「ときどき利用する・よく利用する」と回答した人が 53.9%となり、「利用する」と回答した人の割合が高くなっている。

以上から、「図書館」の利用度は「12 歳以下の子どもがいる人」の方が「12 歳以下の子どもがいない人」に比べ「よく利用する・利用する人」の割合が高くなっていることが理解できる。やはり図書館を利用する人は子どもと一緒に利用する人や子どものために絵本に興味のある人が多いのではないか。カイニ乗検定の結果 1%水準で有意な関連がみられたことから子どもの年齢が低いほど、図書館を利用する傾向にあることが読み取れる。

表 14 児童センターの利用度と 12 歳以下の子どもの有無

		児童センター利用度				人数
		まったく利用しない	ほとんど利用しない	ときどき利用する	よく利用する	
12歳以下の子どもの有無	なし	78	34	9	0	121
	%	64.5%	28.1%	7.4%	0%	100.0%
	あり	82	51	62	17	212
	%	38.7%	24.1%	29.2%	8.0%	100.0%
	子どもなし	196	16	1	0	213
	%	92.0%	7.5%	0.5%	0%	100.0%
	合計	356	101	72	17	546

次に、「児童センター」の利用度を見ていこう（表 14）。まず、「12 歳以下の子どもいない人」の「まったく利用しない・ほとんど利用しない」と回答した人の割合は 92.6%、「ときどき利用する・よく利用する」と回答した人の割合は 7.4%となっており、「利用しない」と回答した人の割合が圧倒的に高い。

「12 歳以下の子どもがいる人」は「まったく利用しない・ほとんど利用しない」と回答した人の割合は 62.8%、「ときどき利用する・よく利用する」と回答した人の割合は 37.1%と「利用しない」割合が高い。「子どもいない人」は「まったく利用しない・ほとんど利用しない」と回答した人の割合は 99.5%、「ときどき利用する・よく利用する」と回答した人の割合は 0.5%と利用しない人の割合が高くなっている。

いずれにせよ、「児童センター」の利用度は低い傾向にあるが、それでも「12 歳以下の子どもがいる人」の方が「12 歳以下の子どもがいない人」に比べ利用する人が多くなっている。カイニ乗検定の結果 1%水準で有意な関連がみられた。表 13、表 14 の結果より仮説 II は支持されたと考えられる。

### 3.3. 仮説 III の検証

仮説 III 「子どもの年齢が低いほどバリアフリーについて満足している人が多い。子育て世代のためにバリアフリーに対して関心が高い」を検証する。表 9 で示した「バリアフリー対策の満足度」と表 4 の「12 歳以下の子どもの有無」を用いクロス集計を行い検証する。

表 15 バリアフリー満足度と 12 歳以下の子どもの有無

		バリアフリー満足度				人数
		満足	やや満足	やや不満	不満	
12歳以下の子どもの有無	なし	11	46	49	11	117
	%	9.4%	39.3%	41.9%	9.4%	100.0%
	あり	15	105	74	19	213
	%	7.0%	49.3%	34.7%	8.9%	100.0%
	子供なし	23	111	61	19	214
	%	10.7%	51.9%	28.5%	8.9%	100.0%
	合計	49	262	184	49	544

p=0.2145、p<0.10（10%水準で有意） Cramer の  $v$  0.0875

表 15 の「バリアフリー満足度」と「12 歳以下の子どもの有無」のクロス表を見ていこう。

「12 歳以下の子どものいない人」は、「満足・やや満足」が 48.7%、「やや不満・不満」が 51.3%と若干「不満」が高くなっている。反対に「12 歳以下の子どものいる人」では、「満足・やや満足」が 56.3%、「やや不満・不満」が 43.6%と「満足」と回答する割合が高くなった。また、「子どものいない人」で「満足・やや満足」と回答した人は 62.6%、「やや不満・不満」が 37.4%と「満足」の割合が高くなっている。

「バリアフリーの満足度」は「12 歳以上の子どものいる人」に比べ、「12 歳以下の子どものいる人」の方が「満足」する傾向にある。だが、「やや不満・不満」と回答する人も一定数いることには注意が必要である。このことは、「12 歳以下の子どものいる人」のバリアフリーに対する関心が高いことの表れとも理解できる。それは、「12 歳以下の子どものいる人」の方が、子どもの面倒を見ることが多く、子どもと接する機会も多いため、全体的には「満足」するが、部分的には「不満」があることを示唆しているように思われる。カイニ乗検定の結果 10%水準で有意な関連がみられたものの、子どもの年齢は関係なく、「子どものいない人」のバリアフリーに対しての「満足・やや満足」が最も高いため仮説Ⅲは棄却されたと考えられる。

#### 4. 考察と課題

戸田市で行われている生涯学習の認知度は、全体的にみると知らない人が多い。その中でも特に、「12 歳以下の子どものいる人」の認知度は、とても低い結果となった。この結果は、子育てに時間を費やしているため生涯学習に目を向けている時間がない現実を示しているのではないだろうか。

公共施設等の利用については、「12 歳以下の子どものいる人」の「図書館」の利用度は「ときどき利用する・よく利用する」割合が 53.9%と利用する割合が高くなっている。「児童センター」は、「12 歳以下の子どもの持つ人」がほとんどの利用者であるが「ときどき

利用する・よく利用する」割合は37.1%と利用しない割合が高い。公共施設等の利用者を増やすためにもものどのようなことが行われているのかを様々な方法で、たとえば現代社会における有効なツールでもあるインターネットなどで配信し認知を高めていく必要性もあるかもしれない。

「12歳以下の子どものいる人」の「バリアフリーの満足度」は、「やや満足」の割合が49.3%と一番高いが「満足」・「不満」に分けると「満足・やや満足」が56.3%、「やや不満・不満」が43.6%という結果となる。バリアフリーの満足度は全体で見ると「満足」が57.5%、「不満」が42.5%と、「12歳以下の子どものいる人」とあまり変わりがない。「満足度」を上げるためには表11で示された不満要因を改善していく結果を反映することが大切ではないか。特に、「ベビーカーの利用」や小さい子どもを連れて歩く機会の多い子育て世代にも関係のある、「歩道が狭い」という意見が多いことを踏まえるならば、改善する方向性は理解されやすいはずである。以上の分析の結果、仮説Ⅰ、仮説Ⅱが支持され、仮説Ⅲは棄却された。

#### 【文献】

戸田市情報ポータル(戸田市公式Webサイト) <https://www.city.toda.saitama.jp/>

## 第9章 戸田市における子育て世代の環境意識について

### 1. 問題意識と仮説

本稿では、戸田市の子育て世代における環境に対する意識や行動の関係について取り上げる。環境問題や地球温暖化に伴う異常気象などにより、人々の環境問題への関心が高まっていることは、環境に関する意識調査などによって示されている。内閣府の『環境問題に関する世論調査（平成24年6月調査）』によると、日頃の暮らしの中で、ごみの問題は重要だと思うと感じている人は9割を超えており、環境に対する意識の高さがうかがえる。しかし、ごみを少なくする配慮やリサイクルを実施していると答えている人の割合はこれに比べて少なくなっており、環境に配慮した行動を実際に行っているのかという点については、必ずしも一致していないという実態があげられる。

では、環境に対する意識が高く、活動にも結びついている人たちとは一体どのような人たちなのか。本章では、子育て世代に注目し、「子どもがいる世帯では環境に対する意識が高まり、活動への参加も増えるのではないか」という仮説を立て、これをアンケート結果に基づき、分析することとした。

### 2. 使用した変数と基礎集計

本稿の目的は、環境に対する意識や行動に子育て世代が影響を与えているのかである。ここでは、使用した独立変数、従属変数のそれぞれについて基礎集計を提示する。

#### 2.1. 独立変数の基礎集計

独立変数は、問35「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」に追加で変数を加えたものを3種類使用している。それぞれについて、追加変数の説明と基礎集計を見ていきたいと思う。

まず、「子どもがいる人」と「いない人」で追加変数を作成し、再集計したものが図1 子どもの有無である。「子どもがいない」と答えた人が38.30%、「子どもがいる」と答えた人が60.49%、無回答が1.21%となっている。

次に、問35「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」を「子どもの人数（子どもが0人、子どもが1人、子どもが2人以上）」で追加変数を作成し、再集計したものが図2である。「子どもが0人」と答えた人は38.38%、「子どもが1人」と答えた人が20.97%、「子どもが2人以上」と答えた人が39.51%、無回答が1.21%となっている。

最後に、問 35「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」で、「子どもがいる」と答えた人の「子どもの年齢（子どもがいない、12 歳以下の子どもがいる、子どもが 13 歳以上）」で変数を作成し、再集計したものが図 3 である。「子どもが 13 歳以上」と答えた人が 21.66%、「子どもが 12 歳以下」と答えた人が 37.95%、「子どもがいない」と答えた人が 38.30%である。

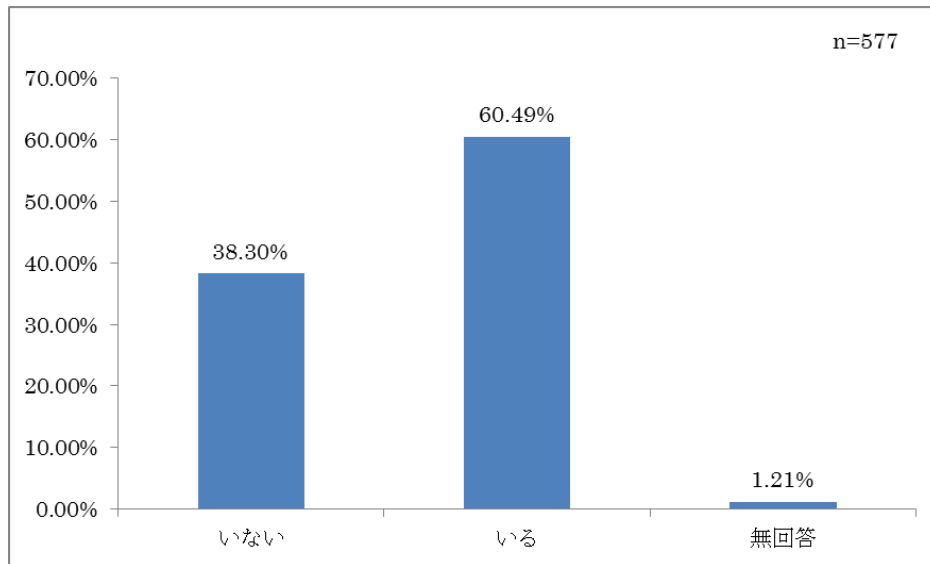


図 1 子どもの有無

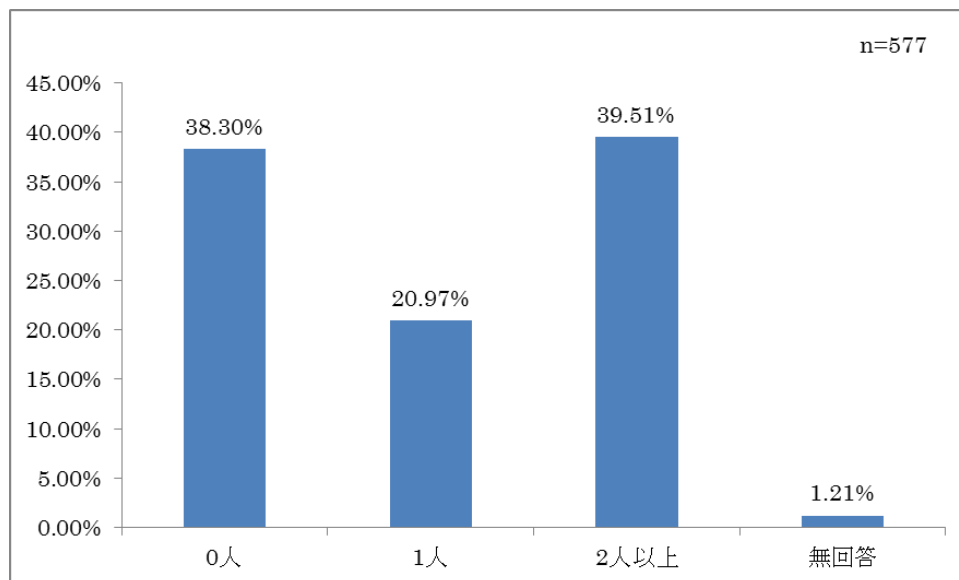


図 2 子どもの人数

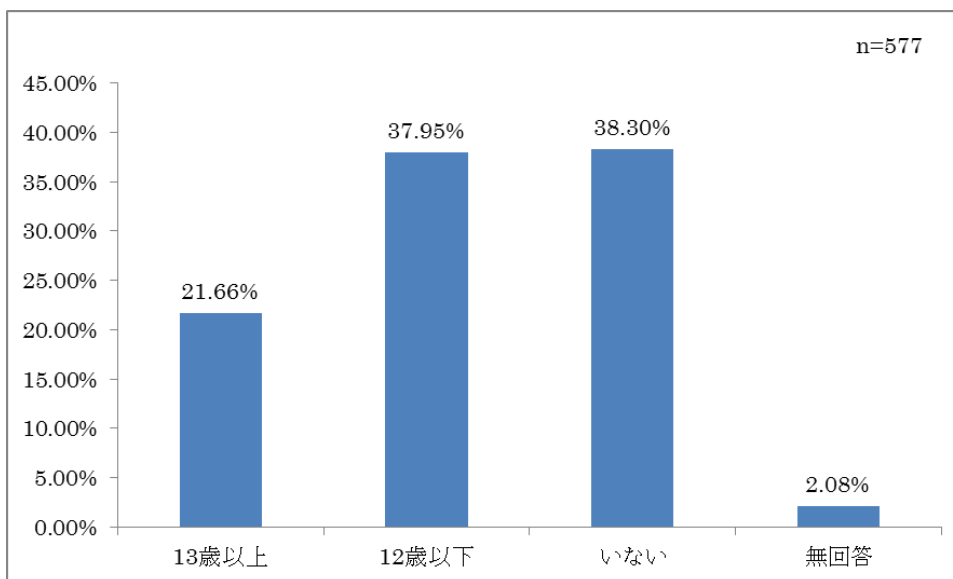


図3 子どもの年齢

## 2.2. 従属変数の基礎集計

従属変数は問26「あなたは、緑化・美化活動に興味がありますか」、問27「あなたはリサイクルフラワーセンターで行っている生ごみと花苗交換サービスを利用したことがありますか」、問28「あなたは530（ゴミゼロ）運動（以下、「530運動」と表記）に参加したことがありますか」である。それぞれについて、基礎集計を提示していく。

### ①問26 あなたは、緑化・美化活動に興味がありますか

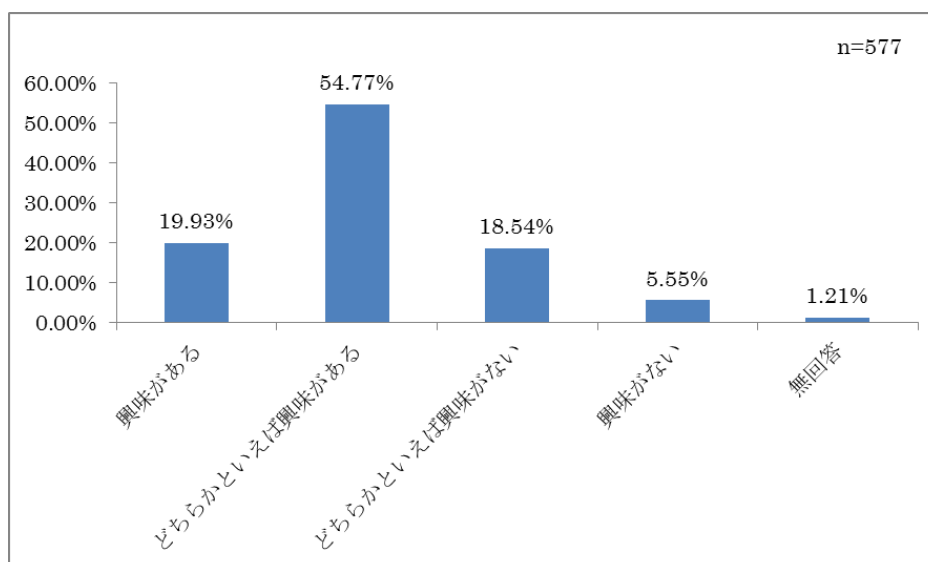


図4 緑化・美化活動への興味



図4は問26「あなたは、緑化・美化活動に興味がありますか」の基礎集計である。「興味がある」と答えた人が19.93%、「どちらかといえば興味がある」と答えた人が54.77%と、緑化・美化活動への興味に関して非常に高い興味があることがわかる。肯定的に答えている人は全体の約75%を占めているが、「どちらかといえば興味がある」と答えている人がそのほとんどを占めているので、強く興味があるというわけではない人が大多数であった。

②問27 あなたは、リサイクルセンターで行っている生ごみと花苗交換サービスを利用したことがありますか

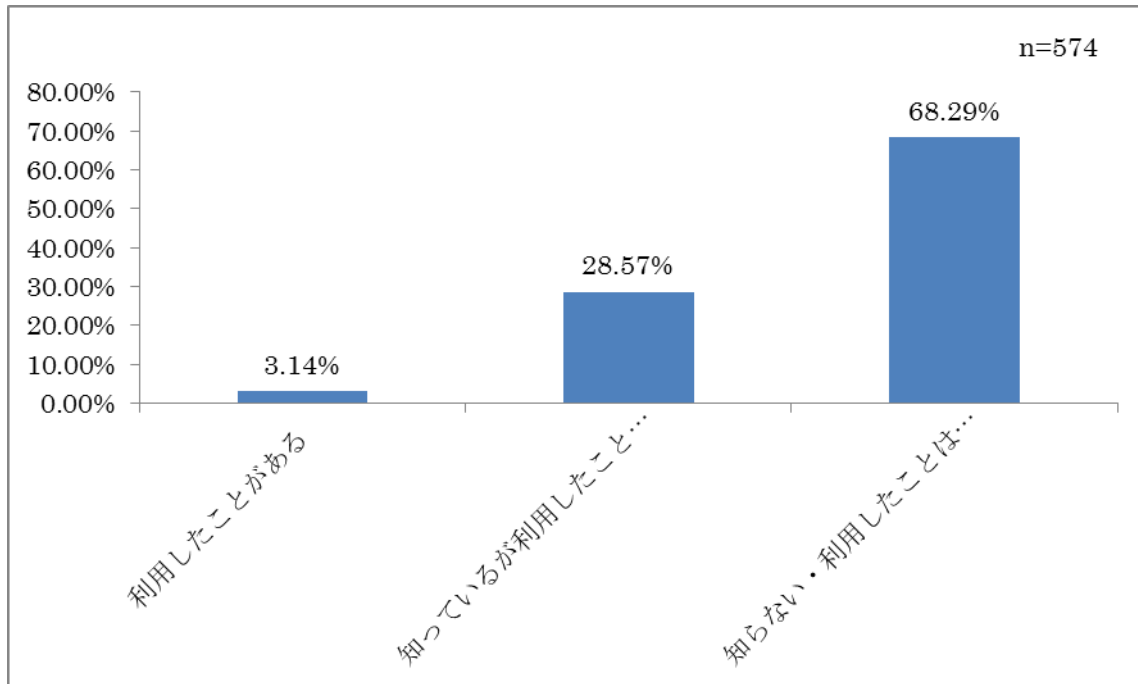


図5 生ごみと花苗交換サービスへの参加

図5は問27「あなたは、リサイクルセンターで行っている生ごみと花苗交換サービスを利用したことがありますか」の基礎集計である。「利用したことがある」と答えた人が3.14%、「知っているが利用したことはない」と答えた人が28.57%、「知らない・利用したことはない」と答えた人が68.29%と、生ごみと花苗交換サービスへの参加に関しては「知らない・利用したことはない」が最も多く全体の約70%を占めている。また、「利用したことがある」と答えた人も非常に少なく、この活動に関する利用も認知も低いことがわかる。

### ③問 28 あなたは「530 運動」に参加したことがありますか

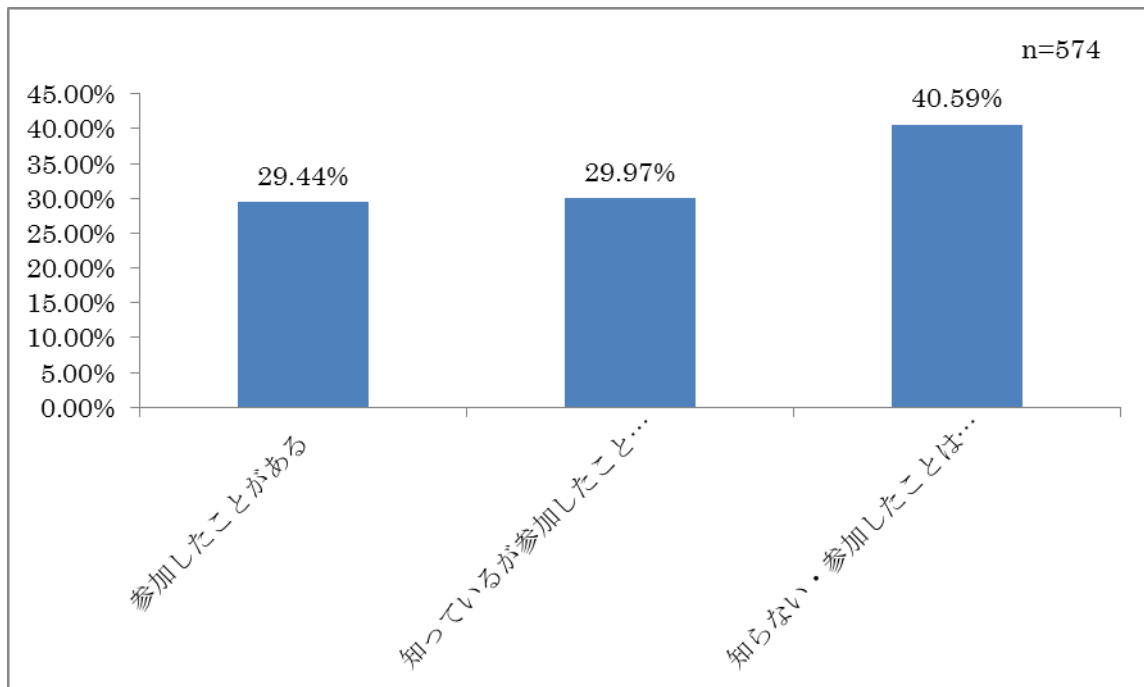


図 6 530 運動への参加

図 6 は問 28 「あなたは「530 運動」に参加したことがありますか」の基礎集計である。「参加したことがある」と答えた人が 29.44%、「知っているが参加したことはない」と答えた人が 29.97%、「知らない・参加したことはない」と答えた人が 40.59%となっている。530 運動に関しては、問 27 の生ごみと花苗交換サービスと比べて認知度も利用度も高いことがわかる。

### 3. クロス集計表による分析

この節では、先に述べた子どもがいる世帯では環境に対する意識が高まり、活動への参加も増えるのではという仮説に基づき、子どもがいる世帯と環境に対する意識・活動の関連を検討したい。

#### 3.1. 緑化・美化活動への興味と子どもの人数

表 1 は問 26 「あなたは、緑化・美化活動に興味がありますか」と、問 35 「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」を「子どもの人数（子どもが 0 人、子どもが 1 人、子どもが 2 人以上）」で追加変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表 1 緑化・美化への興味と子どもの人数のクロス表

		問26]緑化・美化への興味				合計
		興味がある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	興味がない	
問35]子どもの人数	0人	46	123	34	14	217
	%	21.20%	56.68%	15.67%	6.45%	100.00%
	1人	24	62	25	9	120
	%	20.00%	51.67%	20.83%	7.50%	100.00%
	2人以上	45	130	47	6	228
%	19.74%	57.02%	20.61%	2.63%	100.00%	
合計		115	315	106	29	565
%		20.35%	55.75%	18.76%	5.13%	100.00%

p>0.10 CramerのV=0.08

「子どもの人数」と「緑化・美化への興味」は、子どもの人数に関わらず「どちらかといえば興味がある」が一番多い。いずれも 50%を超えており、一番多い「2人以上子どもがいる人」では 57.02%となっている。次いで「興味がある」「どちらかといえば興味がない」がほぼ同じ値となっており、最後に「興味がない」という順番となっている。カイ 2 乗検定の結果 p>0.10、クラメールの V=0.08 と、これらに有意性はみられなかった。

### 3.2. 緑化・美化活動への興味と 12 歳以下の子どもの有無

表 2 は問 26 「あなたは、緑化・美化活動に興味がありますか」と、問 35 「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」で、「子どもがいる」と答えた人の「子どもの年齢（子どもがいない、12 歳以下の子どもがいる、子どもが 13 歳以上）」で変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表 2 緑化・美化への興味と 12 歳以下の子どもの有無

		問26]緑化・美化への興味				合計
		興味がある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	興味がない	
問35]12歳以下の子どもの有無	13歳以上	30	67	23	5	125
	%	24.00%	53.60%	18.40%	4.00%	100.00%
	12歳以下	37	123	48	10	218
	%	16.97%	56.42%	22.02%	4.59%	100.00%
	子どもはいない	46	123	34	14	217
%	21.20%	56.68%	15.67%	6.45%	100.00%	
合計		113	313	105	29	560
%		20.18%	55.89%	18.75%	5.18%	100.00%

p>0.10 CramerのV=0.07

「12 歳以下の子どもの有無」と「緑化・美化」への興味に関しては、3.1 の子どもの人数のクロス集計表と同じような値を示しており、子どもの年齢に関わらず「どちらかといえば興味がある」が一番多く、次いで「興味がある」「どちらかといえば興味がない」がほぼ同じ値、最後に「興味がない」という順番となっている。カイ 2 乗検定の結果 p>0.10、クラメールの V=0.08 と、これらにも有意性はみられなかった。

### 3.3. 花苗交換サービスの利用と子どもの有無

表 3 は問 27 「あなたは、リサイクルセンターで行っている生ごみと花苗交換サービスを利用したことがありますか」と、問 35 「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」を「子どもがいる/いない」で追加変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表 3 花苗交換サービスの利用と子どもの有無

	問26]花苗交換サービスの利用			合計
	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らない 利用したことがない	
子どもはいない	4	44	172	220
問35]子どもの有無 %	1.82%	20.00%	78.18%	100.00%
子どもがいる	14	120	215	349
%	4.01%	34.38%	61.60%	100.00%
合計	18	164	387	569
%	3.16%	28.82%	68.01%	100.00%

p<0.01 (1%水準で有意) Cramer V= 0.174

まず、花苗交換サービスの利用に関して、「利用したことがある」と答えた人で「子どもがいる人」が4.01%、「子どもがいない人」が1.82%と利用に関してはどちらもとても低いことがわかる。しかし、「知っているが利用したことはない」と答えた人は、「子どもの有無」で差が生じた。「子どもがいる人」は34.38%であるのに対し、「子どもがいない人」は20.00%であった。カイ2乗検定の結果1%水準で有意、クラメールのVでも非常に高い有意性を見ることができた。

### 3.4. 花苗交換サービスの利用と子どもの人数

表4は問27「あなたは、リサイクルセンターで行っている生ごみと花苗交換サービスを利用したことがありますか」と、問35「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」を「子どもの人数（子どもが0人、子どもが1人、子どもが2人以上）」で追加変数を作成し、再集計したものとクロス集計表である。

表 4 花苗交換サービスの利用と子どもの人数

	問26]花苗交換サービスの利用			合計
	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らない 利用したことがない	
0人	4	44	172	220
問35]子どもの人数 %	1.82%	20.00%	78.18%	100.00%
1人	8	30	83	121
%	6.61%	24.79%	68.60%	100.00%
2人以上	6	90	132	228
%	2.63%	39.47%	57.89%	100.00%
合計	18	164	387	569
%	3.16%	28.82%	68.01%	100.00%

p<0.01 (1%水準で有意) Cramer V=0.158

「花苗交換サービスの利用」と「子どもの人数」に関して、「利用したことがある」と答えた人で「子どもがいない人」は1.82%、「子どもが1人」の人は6.61%、「子どもが2人以上」の人は2.63%といずれもとても少なく、あまり大きな差は見られない。しかし、「知っているが利用したことはない」と答えた人は「子どもがいない人」は20.00%、「子どもが1人」と答えた人は24.79%、「子どもが2人以上」と答えた人は39.47%と、子どもが多くなるほど割合が高くなり、「2人以上」と答えた人の割合が特に多いことがみてとれる。カイ2乗検定の結果1%水準で有意、クラメールのVでも非常に高い有意性を見ることが出来る。

### 3.5. 花苗交換サービスと12歳以下の子どもの有無

表5は問27「あなたは、リサイクルセンターで行っている生ごみと花苗交換サービスを利用したことがありますか」と、問35「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」で、「子どもがいる」と答えた人の「子どもの年齢（子どもがいない、12歳以下の子どもがいる、子どもが13歳以上）」で変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表5 花苗交換サービスと12歳以下の子どもの有無

	問26]花苗交換サービスの利用			合計
	利用したことがある	知っているが利用したことはない	知らない 利用したことがない	
13歳以上 %	5 4.00%	56 44.80%	64 51.20%	125 100.00%
問35]12歳以下の子 どもの有無				
12歳以下 %	9 4.11%	61 27.85%	149 68.04%	219 100.00%
子どもはいない %	4 1.82%	44 20.00%	172 78.18%	220 100.00%
合計 %	18 3.19%	161 28.55%	385 68.26%	564 100.00%

p<0.01 (1%水準で有意) Cramer V=0.157

「花苗交換サービスの利用」と「12歳以下の子どもの有無」に関して、「利用したことがある」と答えた人で、「子どもの年齢が13歳以上」と答えた人が4.00%、「子どもの年齢が12歳以下」と答えた人が4.11%、「子どもはいない」と答えた人が1.82%となっており、あまり大きな差は見られなかった。しかし、「知っているが利用したことはない」と答えた人で、「子どもの年齢が13歳以上」と答えた人は44.80%、「子どもの年齢が12歳以下」と答えた人は27.85%、「子どもはいないと答えた人」は20.00%と、子どもの年齢が13歳以上と答えた人の多くに認知されていることがわかる。カイ2乗検定の結果1%水準で有意、クラメールのVでも非常に高い有意性を見ることができた。

### 3.6. 「530運動」への参加と子どもの有無

表6は問28「あなたは「530運動」に参加したことがありますか」と、問35「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」を「子どもの人数（子どもが0人、子どもが1人、子どもが2人以上）」で追加変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表6 「530運動」への参加と子どもの有無

	問28]530運動への参加			合計
	利用したことがある	知っているが参加したことはない	知らない 参加したことがない	
子どもはいない %	49 22.27%	69 31.36%	102 46.36%	220 100.00%
問35]子どもの有無				
子どもがいる %	118 33.81%	101 28.94%	130 37.25%	349 100.00%
合計 %	167 29.35%	170 29.88%	232 40.77%	569 100.00%

p<0.01 (1%水準で有意) Cramer V=0.127

「530運動」への参加」と「子どもの有無」に関して、「子どもはいない」と答えた人

で「530 運動」を「利用したことがある」と答えた人は 22.27%であるのに対し、「子どもがいる」と答えた人は 33.81%と高くなっている。このことから、「子どもがいること」（＝子どもの有無）と「530 運動」への参加との間に何らかの関連があるのではと考えることができる。カイ 2 乗検定の結果、1%水準で有意性が見られ、クラメールの V でも非常に高い有意性を確認することができる。

### 3.7. 「530 運動」への参加と子どもの人数

表 7 は問 28 「あなたは「530 運動」に参加したことがありますか」と、問 35 「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」を「子どもの人数（子どもが 0 人、子どもが 1 人、子どもが 2 人以上）」で追加変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表 7 530 運動への参加と子どもの人数

	問28]530運動への参加			合計
	参加したことがある	知っているが参加したことはない	知らない 参加したことがない	
0人	49	69	102	220
%	22.27%	31.36%	46.36%	100.00%
1人	17	32	72	121
%	14.05%	26.45%	59.50%	100.00%
2人以上	101	69	58	228
%	44.30%	30.26%	25.44%	100.00%
合計	167	170	232	569
%	29.35%	29.88%	40.77%	100.00%

p<0.01 (1%水準で有意) Cramer V= 0.223

まず、「子どもがいない人」と「子どもが 1 人」の人を見ると、「参加したことがある」と答えた人が 22.27%と 14.05%、「知っているが参加したことはない」と答えた人が 31.36%と、26.45%、「知らない・参加したことがない」と答えた人が 46.36%、59.50%と、参加が一番低く、次にある程度の認知、そして全体の半数程度が 530 運動を知らないと答えているのがわかる。これに対して、「子どもが 2 人以上いる」と答えた人は、「参加したことがある」が 44.30%、「知っているが参加したことはない」が 30.26%、「知らない・参加したことがない」と答えた人が 25.44%と、「子どもがいない人」や「子どもの人数が 1 人」の人とは正反対の分布をしていることがわかる。このことから、子どもの人数が多いほど、530 運動への参加率が高まっていると考えることができる。カイ 2 乗検定の結果では、1%水準で有意性が見られ、クラメールの V でも非常に高い有意性を確認することができる。

### 3.8. 「530 運動」への参加と 12 歳以下の子どもの有無

表 8 は問 28 「あなたは「530 運動」に参加したことがありますか」と、問 35 「あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）」で、「子どもがいる」と答えた人の「子どもの年齢（子どもがいない、12 歳以下の子どもがいる、子どもが 13 歳以上）」で変数を作成し、再集計したもののクロス集計表である。

表 8 「530 運動」への参加と 12 歳以下の子どもの有無

	問28]530運動への参加			合計
	参加したことがある	知っているが参加したことはない	知らない・参加したことがない	
13歳以上	67	36	22	125
%	53.60%	28.80%	17.60%	100.00%
問35]12歳以下の子ども	49	64	106	219
の有無	22.37%	29.22%	48.40%	100.00%
%	22.37%	29.22%	48.40%	100.00%
子どもはいない	49	69	102	220
%	22.27%	31.36%	46.36%	100.00%
合計	165	169	230	564
%	29.26%	29.96%	40.78%	100.00%

p<0.01 (1%水準で有意) Cramer V= 0.219

まず、子どもが「12 歳以下」、「子どもはいない」と答えた人で「参加したことがある」と答えた人は 22.37%と 22.27%、「知っているが参加したことはない」と答えた人は 29.22%と 31.36%、「知らない・参加したことがない」と答えた人が 48.40%と 46.36%と、参加が一番低く、次にある程度の認知、最後に 530 運動を知らないという分布をしている。これに対して、「13 歳以上の子どもがいる」と答えた人は、「参加したことがある」が 53.60%、「知っているが参加したことはない」が 28.80%、「知らない・参加したことはない」が 17.60%と、「子どもがいない人」や「子どもが 12 歳以下」の人と正反対の分布をしていることがわかる。このことから、子どもの年齢が高いほど 530 運動への参加率が高まるのではと考えられる。また、カイ 2 乗検定の結果、1%水準での有意、クラメールの V でも非常に高い有意性を確認することができた。

#### 4. 考察

子どもがいる世帯では環境に対する意識が高く、活動にも結びついているのではという仮説に基づき分析を行ってきた。その結果、明らかになったことは、緑化・美化活動といった環境活動に対する興味・関心というものは子どもの有無、子どもの人数、子どもの年齢といった要因には影響されないという事である。しかし、何らかの環境に関する活動への認知や参加に関しては、子どもの有無、子どもの人数、子どもの年齢といった要因が大きな影響を及ぼしていることが確認できた。今回の分析では花苗交換サービスや 530 運動といった具体的な活動であったため、強い関連性を見いだすことができたが、このような緑化・美化以外の環境に関連する活動と環境意識の関連は、また違う結果を得られる可能性があり、様々な環境に関する調査が必要となると考えられる。また、この結果が戸田という地域に限られたものなのかどうかといった点なども、さらに調べていく必要があるのではないだろうか。

#### 【文献】

内閣府, 2012, 「環境問題に関する世論調査」 (<http://www8.cao.go.jp/survey/h24/h24-kankyuu/> / 2014.02.19)  
 戸田市, 「戸田市情報ポータル (戸田市公式 Web サイト)」 (<https://www.city.toda.saitama.jp> 2014.02.23)

戸田市ボランティア・市民活動支援センターホームページ事務局,「戸田市ボランティア・市民活動センターホームページ TOMATO」(<http://todasimin.net/index.html> 2014.02.24)





## 第10章 子育て支援サービス認知度の規定要因

### 1. 本調査のまとめと問題の所在

戸田市政策研究所と目白大学社会学部地域社会学科高久研究室の共同研究となる本調査は、若年層の人口比率が高く、子育て世代が多く居住している一方で流出人口比率も高い傾向にある戸田市において、「子育て支援」がどのように行われているのか、子育て世代から見た子育て支援の現状、ニーズ、課題をみると同時に、子育て世代以外の人たちから見た「子育て支援」はどのように映っているのか（ex：認知度と利用のギャップなど）を明らかにすることを目的としてきた。そこで、「子育て支援」のみならず、生涯学習、公的施設の利用度、市民活動への参加度などの項目も加え、「子育て支援」活動が他の活動とどのような関係にあるのかを検討することにした。

これらについては、戸田市における子育て支援サービスに焦点を定めた各章で考察を重ねてきた。すなわち、第3章における子育て支援サービスの認知度と課題、第4章における子育て支援サービスの認知度と不安、第5章における子育ての悩みを誰に相談するかといった各章、12歳以下の子どもがいる人に限定をかけて、本研究で定義した0～5歳までの子どもがいる「子育て世代」と小学生の子どもがいる世代との比較に照準を置いた第6章、第7章の幼稚園・保育園の満足度と子育て支援サービスの認知度において考察を行ってきた。そして、戸田市における生涯学習、公的施設の利用、市民活動については、第8章、第9章で検討した。

以上から見出された知見の第一は、子育て支援サービスは、認知度それ自体が高くなく、それゆえに利用度も低い傾向にあること、第二に、子どもの数が多くなればなるほど認知度や利用度に違いが見られるサービスと子どもの年齢が低くなればなるほどに認知度や利用度に違いが見られるサービスがあるという基本的事実である。これらは、サービスの開始年度に収斂されてしまう可能性もあるが、誰がニーズを感じているのかを直感的にではなく、客観的データとして把握、測定し、実際の施策運営へ結びつけていく上では、一定の意味があると思われる。そして、第三に、「子育て世代」と他者との関わりの重要性についてである。たとえば、悩みの相談相手（第5章）では、「友人・知人」や「子ども家庭相談センター」への相談に意味があること、第8章では、図書館や児童センターといった同世代の子どもを持つ人たちと出会う「空間」の重要性、第9章では、環境運動への参加と子どもの数、年齢の検討から、他者と出会う場が「子育て支援サービス」の認知度とも関連があることが示唆されている。以上、要するに本調査で明らかにしてきたことは、子育て支援に対して、制度的整備、物理的整備を行うだけではなく、既存の制度、物理的環境が秘めている潜在的な可能性を、それらを取り巻く人間関係に目を向けることで引き出し得るのではないかとということである。いわゆるハードの整備ではなく、ソフトの整備という方向性から、「子育て支援サービス」の認知度や利用度をあげていく可能性を見出せ

たことが本研究の知見である。このことは、当たり前、普通、と言われればそれまでかもしれない。だが、これらの知見は、「何となくわかっている」「何となくイメージされている」ことではあっても、これまでは客観的なデータとして明示されたわけではなく、ともすれば、個人の主観として表出されたものに過ぎず、主観であるがゆえにさまざまな価値観の対立も生じやすかったはずである。したがって、データとして提示できたことの意味を理解し、それを今後どのように政策として展開していくかを模索する上での道標として本調査の結果が機能できるのではないかと考えられる。

さて、以上を踏まえ、本章では、「子育て支援サービス」の認知度が何によって規定されているのかを考察する。それによって、さまざまある「子育て支援サービス」のなかで何が課題となっているのか、認知度を高めるには何が必要なのか、属性によって何が求められているのか、といった点を理解し、即効性は低いかもしれないが、長期的に見た場合に、今後の市政運営に有益になると思われる情報を引き出していく。節をあらため、本章における分析モデルと提示し（3節）、4節以降で分析を行う。

## 2. 分析モデル

表1 分析に用いる変数とモデル

	理論概念	質問内容	質問番号	
従属変数	【子育て支援サービスの認知度】	各種サービスの認知度	問9	
統制変数	【子ども】	子どもの有無	問35	
		0-5歳までの子どもの有無	問35	
		6-12歳までの子どもの有無	問35	
独立変数	【ライフストーリー】	性別	問30(女性ダミー)	
		年代	問31	
		子どもの有無	問35	
		子どもの数	問35	
		子ども(末っ子)の年齢	問35	
		配偶者の有無	問33	
		世帯年収	問34	
		現在の住まいの居住歴	問37	
	【居住理由】	〔居住のプル要因〕	戸田市に住むようになった理由	問1
		〔居住のプッシュ要因〕	戸田市から引っ越し理由	問2
			戸田市で生活する不安	問4_5(ダミー)
	【子育て支援へのニーズ】		力を入れて欲しいサービス	問8
			子どもを預ける不安	問10
		悩みの相談相手	問11	
【生涯学習、公的施設、市民活動への参加】		生涯学習の参加	問22	
		公共施設の利用	問23	
		緑化・美化活動への関心	問26	
		花苗交換サービスの利用	問27(利用ダミー)	
		530運動への参加	問28(参加ダミー)	
		地域活動への参加	問29	

本章の分析モデルは表1に記した通りである。従属変数は、【子育て支援サービスの認知度】とし、現在の状態による傾向の違いを統制するために統制変数として【子ども】の有無や人数、年齢などを用いる。独立変数としては、【ライフストーリー】、【居住理由】、【生

涯学習、公的施設、市民活動への参加】を用い、【子育て支援サービスの認知度】に対するこれらの影響の強さを分析する。ここで、各変数について説明を加えておく。

## 2.1. 子育て支援サービスの認知度

子育て支援サービスの認知度は、まずは問9の結果を示した表2に目を向けよう。9章まででも確認できたように、各子育て支援サービスの認知度は決して高いとは言えないことが理解できる。これを元に、「子育て支援サービスの認知度得点」を作成した。具体的には、「とだファミリーサポートセンター」から「パパ・ママ応援ショップ事業」までの7つのサービスについて「当てはまる」を「1点」として、最大7点となる合成変数を作成し、これを「子育て支援サービスの認知度得点」とした（信頼性係数、Cronbachの $\alpha$ は0.785）。その得点の平均値は、全体で2.05点であることから子育て支援サービスの認知度は低いことが理解できる。それぞれを、現在の状態別に見ていくと、「子どもがいる人」で2.92点、「6～12歳の子どもがいる人」で3.06点、「0～5歳の子どもがいる人」で3.58点と、当然のごとく、子どもがいること、幼い子どもがいることが認知度得点を高めていく傾向にある。そのことは、「子どもがいない人」で0.69点となることから理解できる。本章では、現在の状態別にみて、この「認知度得点」が何によって規定されているのかを検討する。そのために用いる統制変数、独立変数について説明しよう。

表2 子育て支援サービスの認知度

	とだファミリーサポートセンター		とだ子育てサロン		親子ふれあい広場		産前産後支援ヘルプサービス		病児・病後児保育		一時保育		パパ・ママ応援ショップ事業		知らない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
当てはまらない	378	65.7	413	71.8	402	69.9	496	86.3	472	82.1	397	69	260	45.2	398	69.2
当てはまる	191	33.2	156	27.1	167	29	73	12.7	97	16.9	172	29.9	309	53.7	171	29.7
無回答	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1	6	1
合計	575	100	575	100	575	100	575	100	575	100	575	100	575	100	575	100

表3 子育てサービス認知度得点の平均値

	全体	子どもがいる人	内、6-12歳の子ども	内、0-5歳の子ども	子どもがいない
N	569	346	71	146	218
平均値	2.05	2.92	3.06	3.58	0.69

## 2.2. 統制変数：現在の状態

本章は、子どもの有無によって「子育てサービス認知度得点」がどのように変化するかを目を向ける。そのために、全体、「子どもがいる人」、「6～12歳の子どもがいる人」、「子育て世代：0～5歳の子どもがいる人」、「子どもがいない人」の5つのグループにわけて検討する。尚、「子どもの年齢」については、第9章までと同様に、2人以上の子どもがいる場合は、年少の子どもの年齢を用いていることに注意されたい。それぞれの分布は、表が煩雑になるため、これまでの章や巻末の単純集計表をみていただくことにして、ここでは「子どもがいない人」についてのみ補足しておく。それは、「子育て支援」の問題を考える

にあたって、なぜ「子どもがいない人」を取り上げる必要があるのかと思われる可能性があるためである。ここで、「子どもがいない人」の基礎等計量に目を向けたい。

表4から、「子どもがいない人」の約70%が20代、30代であることが理解できる。このことが、戸田市の人口構成の特徴を端的に示している。すなわち、若年層が職業上の理由や結婚などとの関係で、戸田市に流入してくるという特徴である。この結果の解釈に注意は必要であるが、「子どもがいない人」は、もちろん「子どもを持たない」という選択をした人や「なんらかの事情で子どもに恵まれない」という人もいるが、戸田市で「子育て」をする可能性のある将来世代とも考えることができる。であるならば、彼らが「子育て」をする際に、戸田市から流出するのではなく、戸田市で生活を続ける一つの要因として「子育て支援サービス」の認知度を高めていくことには一定の意味があるはずである。このような理由で、比較軸として「子どもがいない人」を用いている。

表4 子どもの有無と回答者の年代

	年代				合計
	20代	30代	40代	50代	
子どもいない	81	70	54	15	220
%	36.8%	31.8%	24.5%	6.8%	100.0%
子どもいる	24	122	126	75	347
%	6.9%	35.2%	36.3%	21.6%	100.0%
合計	105	192	180	90	567
%	18.5%	33.9%	31.7%	15.9%	100.0%

### 2.3. 独立変数の基礎統計 (1)

最初に基礎的なカテゴリーとなる【ライフヒストリー】について説明する。対象者の性別については、575人の内、男性217人(37.7%)、女性358人(62.3%)である。年代、子どもの有無については、表4の「合計」の値を参照されたい。子どもの数、子どもの年齢については、第9章までの各章と重なるため割愛する。「配偶者の有無」、「世帯年収」、「現在の住まいの居住歴」については、それぞれ表5～7に示した。

表5 配偶者の有無

	度数	%
いる	413	71.8
いない	158	27.5
無回答	4	0.7
合計	575	100.0

表6 世帯年収

	度数	%
100万円未満	8	1.4
100～300万円未満	50	8.7
300～500万円未満	130	22.6
500～700万円未満	121	21.0
700～900万円未満	104	18.1
900万円以上	96	16.7
答えたくない	59	10.3
無回答	7	1.2
合計	575	100.0

配偶者が「いる」と回答した人が、全体の約 70%であった。また、世帯年収でみると、500～900 万円未満が全体の約 40%を占めていることが理解できる。また、現在の住まいの居住歴については、1 年以上 5 年未満で全体の約 35%を占めていることが理解できる。ここからは、本調査の対象者の特徴として、20 代、30 代で比較的最近結婚などをして、戸田市に居住するようになった人の姿が浮かび上がる。このことは、戸田市の人口構成の特徴とも合致する。

表 7 現在の住まいの居住歴

	度数	%
1年未満	29	5.0
1年以上3年未満	119	20.7
3年以上5年未満	85	14.8
5年以上7年未満	57	9.9
7年以上9年未満	42	7.3
9年以上15年未満	98	17.0
15年以上20年未満	73	12.7
20年以上	70	12.2
無回答	2	0.3
合計	575	100.0

#### 2.4. 独立変数の基礎統計 (2)

次いで、【居住理由】について説明する。【居住理由】は、なぜ戸田市に住むようになったのかという戸田市へのプル要因と引っ越しを考える際の理由という戸田市からのプッシュ要因、戸田市での生活上の不安を用いる。それぞれ、表 8～10 に分布を示した。

「戸田市に住むようになった理由」では、最も多いのは「結婚・離婚」で 29.9%、次いで、「通勤通学の便」「職業上の理由」と続くことから、戸田市の特徴が理解できる。尚、「生まれて以来ずっと戸田市に住んでいる」と回答した人は 15.7%であった。

次に「戸田市から引っ越しする場合の理由」であるが、「職業上の理由」(27.7%)、「住宅の事情」(22.4%)の割合が高い。ここからは、職業の理由で戸田市に引っ越してきて、また転勤で外へ引っ越していく人や戸田市に何らかの理由で引っ越してきて、結婚や子どもの誕生などを経てより広い部屋を求めて外へ出て行く人の姿が浮かび上がってくる。尚、「引っ越し予定はない」という回答が 37.0%というてんは興味深い。

「戸田市で生活する不安」については、全体的に見て、戸田市の治安に対する不安が高い傾向にあることが理解できる。尚、以降の分析では、「不安はない」を用いて、「生活に対する不安ダミー（不安はない：1、不安がある：0）」変数として用いる。

表 8 戸田市に住むようになった理由

	子どもの入学・進学		親との同居・近居		職業上の理由(就転職・退職など)		結婚・離婚		住宅の事情(部屋数・面積の不足)		生活環境上の理由(子育て環境など)		通勤通学の便		生まれて以来ずっと住んでいる	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
当てはまらない	563	97.9	476	82.8	454	79.0	403	70.1	471	81.9	517	89.9	442	76.9	485	84.3
当てはまる	12	2.1	99	17.2	121	21.0	172	29.9	104	18.1	58	10.1	133	23.1	90	15.7
合計	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0

表 9 戸田市から引っ越す場合の理由

	子どもの入学・進学		親との同居・近居		職業上の理由(就転職・退職など)		結婚・離婚		住宅の事情(部屋数・面積の不足)		生活環境上の理由(子育て環境など)		通勤通学の便		引っ越す予定はない	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
当てはまらない	554	96.3	500	87.0	416	72.3	511	88.9	446	77.6	515	89.6	511	88.9	362	63.0
当てはまる	21	3.7	75	13.0	159	27.7	64	11.1	129	22.4	60	10.4	64	11.1	213	37.0
合計	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0	575	100.0

表 10 戸田市で生活する不安

	度数	%
街灯が少ない	86	15.0
警察署がない	63	11.0
犯罪	212	36.9
近隣との関わりがない	36	6.3
不安はない	120	20.9
その他	14	2.4
無回答	44	7.7
合計	575	100.0

### 2.5. 独立変数の基礎統計 (3)

【子育て支援へのニーズ】の内、「力を入れて欲しいサービス」「子どもを預ける不安」については7章までの各章、および巻末の単純集計表を確認されたい。ここでは、本章の核となる「悩みの相談相手」について補足する。データについては、第5章で詳述されているため、そちらを参照されたい。ここでは、なぜ「悩みの相談相手」に着目するのかを説明する。その理由は、「悩みの相談」を「親・兄弟・親戚」といった親類にするのか、「友人・知人」といった他者にするのかによって、「子育て」と人間関係の関係性が見えるためである。

このことは社会関係資本という概念と関連づけて理解できる (Baker 2000=2001 ; Lin 2001 ; 宮川 2004 ; 内閣府 2003 ; Putnam 1993=2001, 2000 など)。社会関係資本は、人々がつくる社会的ネットワークとそこから生じる共有された規範、価値観、信頼などを指し、そのネットワークに属する人々の協力を推進し、共通の目的と相互の利益を実現するために貢献するという (宮川 2004 : iii)。R・パットナム (1993=2001) は、制度パフォーマンスに対する市民共同体度の機能を指摘した。曰く、同じ制度が敷かれたとしても、市民共同体度が低い地域では制度パフォーマンスが芳しくないという。そして、「信頼感」、「ネットワーク」、「吾酬性の規範」をその尺度としてあげ、それらは集合行為を可能にし、社会

全体の効率を高める社会関係資本として定義した。さらに、J・コールマンは以下のように言う。

「ある農夫が別の農夫に干し草を束ねてもらったり、農具が広範に貸し借りされるような・・・農村コミュニティにおいては、用具や装置といった物理的資本が乏しくても、社会的資本〔社会関係資本〕によって各農夫が自分の仕事を片づけることができる」(Coleman, J. 1990=2004 : 482, [ ] 内は筆者)。

ところで、パットナム (2000) に従えば、社会関係資本には、集団内の凝集性を高め、同質性からなる「結束型」(bonding) と、諸個人や集団間をつなぐようなそれであり、異質性や多様性を帯びている「橋渡し型」(bridging) という 2 つの形態がある。この累計に従えば、「親・兄弟・親戚」は結束型の人間関係、「知人・友人」は橋渡し型の人間関係を代理すると考えられる。本章で、「悩みの相談相手」に着目するのは、個人的な事柄と思われる「子育て」が、他者との関係でスムーズに行われる可能性、「子育て支援サービス」が他者との関係によって認知されたり、利用が促進されたりする可能性があるためである。

その他、独立変数として設定した【生涯学習、公的施設、市民活動への参加】については、第 8 章、第 9 章の各章を参照されたい。では、節をあらためて、まずは「子育て支援サービス認知度得点」と各変数の関連の強さ(相関係数)を示していこう。

### 3. 子育て支援サービス認知度と独立変数の関連の強さ

以下、従属変数と各独立変数との関連の強さ(相関)を表 11~14 までにまとめた。尚、相関係数が 0.2~0.4 までのもの(弱い関連)を太字で、0.4~0.6 (関連がある)のものを斜体で示し、全体よりも各属性で係数の絶対値が高いものを網掛けで記した。

表 11 子育て支援サービス認知度と【子ども】【ライフヒストリー】変数の相関

【ライフヒストリー】	全体		子どもがいる人		内、6-12歳の子ども		内、0-5歳の子ども		子どもがいない人	
	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数
性別	569	<b>.288**</b>	346	<b>.248**</b>	71	<b>.250*</b>	146	<b>.354**</b>	218	.176**
年代	566	.106*	344	<b>-.266**</b>	71	<b>-.319**</b>	144	.065	217	.027
子どもの有無	564	<b>.580**</b>	—	—	—	—	—	—	—	—
子どもの数	564	<b>.498**</b>	346	-.101	71	-.056	146	.037	—	—
子ども(末っ子)の年齢	560	<b>.331**</b>	342	<b>-.352**</b>	—	—	—	—	—	—
配偶者の有無	565	<b>.418**</b>	345	.156**	71	.010	146	-.074	216	.102
世帯年収	506	.143**	313	.028	71	.156	141	.042	189	.077
現在の住まいの居住歴	567	-.030	345	<b>-.123*</b>	71	-.021	145	.031	217	.112

\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意

表 11 から理解できることは、基本的には【子育て支援サービスの認知度】の高さは、【子



ども】がいるかどうか、数が多いかどうか、幼いかどうかと強い関連を示していることであり、ほぼ予想通りの結果であると言える。また、「子育て世代」へ収斂していくほどに、回答者の性別（母親）との関連が強くなっていく点も理解できる。そして、最後に補足しておくべきことは、「子どもがいない人」においては、「現在の住まいの居住歴」がほぼ関連は見られない値ではあるが、「全体」よりも相関係数が高くなっている点である。ここからは、「子どもがいない人」で戸田市に長く住んでいる人は、「子育て支援サービス」に関心があることが示唆される。

表 12 子育て支援サービス認知度と【居住理由】変数の相関

【居住理由】	全体		子どもがいる人		内、6-12歳の子ども		内、0-5歳の子ども		子どもがいない人		
	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	
住むようになった理由	子どもの入学・進学	569	.086*	346	.031	71	.161	146	-.138†	218	—
	親との同居・近居	569	-.029	346	.047	71	.027	146	.004	218	-.104
	職業上の理由(就転職・退職など)	569	-.092*	346	-.129*	71	-.045	146	-.181*	218	-.099
	結婚・離婚	569	.177**	346	.122*	71	.140	146	.065	218	.035
	住宅の事情(部屋数・面積の不足)	569	.067	346	.050	71	-.045	146	.035	218	-.077
	生活環境上の理由(子育て環境など)	569	.116**	346	.112*	71	.181	146	.047	218	.056
	通勤通学の便	569	.027	346	.032	71	-.029	146	.092	218	-.053
	戸田市にずっと住んでいる	569	-.124**	346	-.015	71	-.106	146	.026	218	.097
引っ越し場合の理由	子どもの入学・進学	569	.138**	346	.134*	71	.123	146	.097	218	.061
	親との同居・近居	569	.059	346	.050	71	.130	146	.131	218	.041
	職業上の理由(就転職・退職など)	569	-.142**	346	-.017	71	.029	146	-.210*	218	-.111
	結婚・離婚	569	-.168**	346	.056	71	.092	146	.051	218	.002
	住宅の事情(部屋数・面積の不足)	569	.044	346	.120*	71	-.015	146	.126	218	-.096
	生活環境上の理由(子育て環境など)	569	.022	346	.010	71	.178	146	-.108	218	-.009
	通勤通学の便	569	-.043	346	.088	71	.071	146	-.025	218	.033
	引っ越し予定はない	569	.096*	346	-.085	71	-.076	146	-.031	218	.122†
生活する不安の有無	525	-.174**	319	-.034	69	-.203†	134	-.085	201	-.210**	

\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意、† 10%水準で有意

表 12 から読み取れることは、全体的には【居住理由】はそれほど【子育て支援サービスの認知度】との関連が見られないことである。現在の状態別に細かく観察すれば、どのような理由で戸田市に住むようになったのか、引っ越し場合の理由は何か異なることが重要である。たとえば、「子どもがいる人」であれば、「職業上の理由」で戸田市に引っ越してきた場合、係数の値が負であることから、そもそも長期的に戸田市に留まろうとはしていない可能性も見出せる。逆に、「住宅の事情」で外へ引っ越しうることは、係数が正となっている。このことは、引っ越しをする際に、戸田市と引っ越し予定先の「子育て支援サービス」を吟味する可能性を示している。「子どもの年齢」によって多少の違いはあるが、「子どもがいる人」と「子育て支援サービス認知度」との関連からは、戸田市の転入人口と転出人口の高さの背景が理解できる結果となっている。そして、「子どもがいない人」においては、「引っ越し予定がない」と回答した人は、「認知度」との関連が正となっていること、「不安がない」ことは、負の関連を示している点（不安があると認知度が下がる）が特徴的である。これらは、戸田市に居住していることによる安定感が認知度を高めること、

逆に戸田市で生活する不安が認知度を下げるといふ、相反する態度を示している。

表 13 からは、「力を入れて欲しいサービス」と【子育て支援サービスの認知度】の高さの関連（サービスへのニーズと全体的な認知度が関連すること）、子育ての相談相手が親・兄弟・親戚といった「重要な他者」ではなく、「友人・知人」といった「一般的な他者」であることが【子育て支援サービスの認知度】を高める要因となっていることである。とりわけ、0～5歳までの子どもがいる「子育て世代」において、その傾向が強いことは、今後の「子育て支援サービス」のあり方を模索する上でも参考になりうる情報であると思われる。ここからは、他者への信頼、人間関係と行政のサービス認知度との関連が理解できる。

表 13 子育て支援サービス認知度と【子育て支援へのニーズ】変数の相関

【子育て支援へのニーズ】		全体		子どもがいる人		内、6-12歳の子ども		内、0-5歳の子ども		子どもがいない人	
		N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数
力を入れて欲しいサービス	早期保育	557	-.115**	336	-.063	69	-.093	142	-.020	216	-.064
	病児保育	557	<b>.230**</b>	336	<b>.224**</b>	69	.094	142	.191*	216	.081
	地域の子ども・お年寄りとの交流事業	557	-.017	336	-.098†	69	-.050	142	<b>-.210*</b>	216	<b>.150*</b>
	日曜・祝祭日の保育	557	.003	336	.023	69	.106	142	-.124	216	.081
	夜間保育	557	-.155**	336	-.056	69	.051	142	.149†	216	-.114†
	放課後児童の受け入れ	557	.140**	336	.067	69	.142	142	.097	216	.072
	育児相談	557	-.063	336	.033	69	.049	142	.115	216	-.090
	育児講座	557	-.006	336	.086	69	.132	142	.014	216	-.009
	子どもを預ける不安	562	-.001	343	-.002	71	-.060	146	-.099	214	.061
相談(親・兄弟・親戚)	569	-.129**	346	-.038	71	.056	146	-.176*	218	.010	
相談(知人・友人)	569	<b>.220**</b>	346	.139**	71	.120	146	<b>.243**</b>	218	.106	
相談(こども家庭相談センター)	569	.024	346	.073	71	-.091	146	.082	218	-.085	

\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意、† 10%水準で有意

表 14 からは、生涯学習、公的施設、市民活動等の参加度は総じて低いものの、【子育て支援サービスの認知度】との関連がわずかながら見られることが理解できる。これらの利用・参加は、新たな人間関係の構築につながっているため、これらの利用・参加度を高めて行くことは、スムーズな子育て支援の認知・活用へと展開して行くことが示唆される。そして、その傾向が「子どもがいない人」において高いことを踏まえるならば、「子育て」に関する情報は、自宅へ届くものではなく、市内にある同世代の他者と出会う空間において入手できるものとみなされている可能性を示している。しかし、これらは総じて利用度、参加度が低いことを踏まえるならば、ただ単に施設を増やせばよいということを意味する訳ではない。そうではなく、施設を増やすにしても、どのように利用されるのかを考慮する必要があり、また既存の施設においては、利用度を上げていく工夫が必要となっていることを示している。そして、ある施策への対策が別の施策へと重層的に繋がっていること、同時にそれを支えているのが、人間関係であることが示唆される。

表 14 子育て支援サービス認知度と【生涯学習、公的施設、市民活動への参加】変数の相関

【生涯学習、公的施設、市民活動への参加】		全体		子どもがいる人		内、6-12歳の子ども		内、0-5歳の子ども		子どもがいない人	
		N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数	N	相関係数
生涯学習	市民大学の講座	564	.052	343	.062	70	-.004	144	.052	216	.082
	CSP講座(子育て支援プログラム)	564	.122**	343	.114*	70	.093	144	.091	216	—
	まちづくり出前講座	564	.103*	343	.071	70	.133	144	.052	216	.172*
	外国語講座	564	.009	343	.052	70	-	144		216	.033
公共施設	図書館	560	.215**	340	.200**	69	.134	144	.138	215	.095
	郷土博物館	549	.167**	332	.074	68	.046	140	.099†	213	.127†
	公民館	547	.294**	331	.224**	68	.340**	140	.171*	212	.161*
	児童センター(プリムローズ)	551	.423**	335	.268**	68	.148	142	.216**	212	.164*
	ボランティア・市民活動センター	547	.113**	331	.105†	67	.107	140	.123	212	.129†
	笹目コミュニティセンター(コンバル)	551	.186**	334	.067	69	.147	140	.037	213	.140*
	男女共同参画センター(ピリープ)	548	.193**	332	.137*	68	.197	140	.159†	212	.152*
地域活動	緑化・美化活動への関心	569	.022	346	.052	71	-.045	146	.061	218	.121†
	花苗交換サービスの利用	568	.113**	346	.109*	71	.090	146	.051	217	.062
	530運動への参加	568	.069	346	-.068	71	.015	146	.036	217	.135*
地域活動	老人介護・子育てサークルなど福祉活動	569	.136**	346	.103†	71	.102	146	.110	218	.061
	町会・自治会などの自治組織の活動	569	.177**	346	.018	71	.143	146	-.054	218	.118†
	フリーマーケット・運動会など戸田市内のレクリエーションやイベント	569	.213**	346	.086	71	-.032	146	.066	218	.104
	ふるさと祭りなど地域の恒例行事	569	.202**	346	.072	71	-.056	146	.208*	218	.220**

\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意、† 10%水準で有意

#### 4. 子育て支援サービス認知度の規定要因

表 15 は、独立変数のすべてを用いて、重回帰分析を行った結果、5%水準までの有意な関連を示した変数を記している。その結果、全体では、当たり前のことではあるが、子どもがいること、子どもの年齢が低いことが強い効果を持っている。それ以外では、利用度合いや参加度合いは低いものの公共施設や市民活動、地域での活動も効果を持っている。

ここから見出されるのは、公共施設や市民活動などへ子育て世代を誘導することによって、子育て支援サービスの認知度や利用への障壁が低くなって行く可能性である。言い換えれば、子育て中の同じ悩みを抱えている他者との出会い(0-5歳の子どももありの人で、児童センターの利用、6-12歳の子どももありの人で、公民館の利用が効果を持っていることから理解できる)が、認知度に重要な意味を持っているということである。したがって、「子育て支援サービス認知度」と言えば、どこか行政がPRを行えばどうにかできる、目新しい施設を作れば人が集まるといったように制度的問題、物理的問題に回収されがちであるが、ここから示唆されたのは、「子育て支援サービス認知度」は人間関係の問題でもあるということである。つまり、「行政→PR→認知度」という構図ではなく、「行政→(PR⇔人間関係)→認知度」というような構図で、「子育て支援」の問題を捉えていく必要があるということである。

それゆえ、今後、子育て支援サービスのPRは、個別に案内するばかりではなく、市民のつながりを利用することによって広がって行く可能性があると言えるだろう。たとえば、それは、スマートフォンなどの活用によって、直接対面せずとも担保される可能性をも示

唆する。

表 15 子育て支援サービス認知度を従属変数とする重回帰分析

	全体 (N=509)	子どもがいる (N=305)	6-12歳の子ども あり(N=63)	0-5歳の子ども あり(N=131)	子どもがいない (N=204)
	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$
女性ダミー		0.168 **		0.261 **	
年代			-0.29 *		
子どもの有無	0.745 **				
末っ子変数カテゴリ	-0.369 **	-0.336 **			
配偶者ダミー	0.125 **				
居住理由_子どもの入学					0.151 *
居住理由_親との同居					-0.136 *
居住理由_職業上の理由		-0.112 *			
引越理由_子どもの入学	0.073 *	0.098 *			0.231 **
力を入れて欲しいサービス_病児保育	0.104 **	0.18 **		0.172 *	
力を入れて欲しいサービス_育児相談		0.111 *			
力を入れて欲しいサービス_夜間保育				0.258 **	
悩み相談_親・兄弟・親戚				-0.209 **	
悩み相談_知人・友人	0.084 *	-0.12 *			
【逆転】施設利用度_公民館	0.093 *	0.142 **	0.301 *		
【逆転】施設利用度_図書館		0.126 *			
【逆転】施設利用度_児童センター	0.086 *			0.285 **	
生涯学習参加_まちづくり出前講座	0.074 *				0.164 *
花苗交換サービス利用あり	0.069 *	0.113 *			
地域活動参加_恒例行事	0.07 *				
調整済みR <sup>2</sup>	0.472 **	0.302 **	0.171 **	0.238 **	0.106 **

\*\* 1%水準で有意、\* 5%水準で有意;係数はすべて標準化回帰係数 $\beta$ 。分析はステップワイズ法による。

## 5. 終わりに

「子育て支援サービス」の認知度と利用の間のギャップは、本報告書の各章の分析からも理解できている。本章ではそのことを踏まえて、認知度が何に規定されているかを考えてきた。ここから理解できたのは、子育て支援サービスは、他者との関係の中で認知され、そして利用されやすい傾向にあることである。それは、信頼や社会関係資本という社会学の用語を用いるならば、閉鎖的な関係ではなく、開放的な関係を市民が築くことが、行政のサービス認知度を高めて行くということである。ライフスタイルが多様となっている現代社会において、旧来のように子育ては家庭で行うべきとするのはどこか限界があるのかもしれない。転入・転出人口が高い戸田市の現状を踏まえるならば、他者と直接対面して、新たな出会いを生むシステムを作り出すことは難しいのかもしれない。だが、それを達成するための方策が得られれば、支援サービスがより効果的になり、さらに市民の市への愛着も増して行くとも言えるだろう。

### 【文献】

Baker. W. 2000. *Achieving Success Through Social Capital*. Jossey-Boss. (=2001. 中島豊訳. 『ソーシャル・キャピタル：人と組織の間にある「見えざる資産」を活用する』ダイヤモンド社.

- Coleman, J. S. 1988. *Social Capital in the Creation of Human Capital*. American Journal of Sociology. 94. Supplement:95-120.
- . 1990. *Foundations of Social Theory*. Cambridge, MA: Harvard University Press. (= 2004. 久慈利武監訳. 『社会理論の基礎 (上)』 青木書店.)
- Lin, N. 2001. *Social Capital : A Theory of Social Structure and Action*. Cambridge University Press.
- 宮川公男・大守隆 (編) .2004. 『ソーシャル・キャピタル：現代経済社会のガバナンスの基礎』 東洋経済新報社.
- 内閣府国民生活局、2003、『ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』、国立印刷局.
- Putnam, R. D., 1993, *Making Democracy Work: Traditions in Modern Italy*. Princeton, NJ: Princeton University Press. (=2001、河田潤一訳、『哲学する民主主義：伝統と改革の市民的構造』、NTT 出版.
- Putnam, R. D., 2000, *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*. New York: Simon & Schuster.



資料

# 「戸田市における子育て支援活動」調査 ご協力をお願い

日頃から市政へのご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

戸田市政策研究所は、市の市政運営について調査研究を行うことを目的に、設置されている機関です。今年度、本研究所では、戸田市の実情に即した子育て支援を検討し、市民や地域、行政等が連携して、子育て世代を地域で支える仕組みについて研究しております。この調査は、戸田市にお住まいの20歳以上60歳未満の方の中から、1,500人を無作為に選んでお願いしているところです。

ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひアンケートにお答えくださいますよう、お願いいたします。

なお、このアンケートに関して個人の意見が公表されることは一切ありません。ぜひ率直なご意見をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成25年7月

戸田市政策研究所長 山田 一彦

## ◆ご記入の前に◆

### 1 回答のしかた

- ・この調査票は、封筒宛名のご本人がご記入ください。
- ・質問は全部で43問です。各質問の説明に従って、回答欄にご記入ください。筆記用具の種類は問いません。
- ・1つの世帯に複数の調査票が送付される場合があります。その場合も、封筒宛名のご本人がそれぞれご記入ください。
- ・回答は平成25年7月1日時点でお答えください。

### 2 返送のしかた

回答が済みましたら、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、8月22日(木)までに投函してください。封筒や調査票に住所・氏名を記入する必要はありません。

### 3 問い合わせ

〒335-8588 戸田市上戸田1-18-1

戸田市役所 戸田市政策研究所

電話 048-441-1800 (内線423)

FAX 048-431-6790

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)

なお、この調査結果につきましては、戸田市ホームページ等で概要を平成26年3月頃に公表する予定です。



I. 戸田市での生活についておたずねします。

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。次のうち、当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 子どもの入学・進学	2. 親との同居・近居	3. 職業上の理由 (就転職・退職など)
4. 結婚・離婚	5. 住宅の事情 (部屋数・面積の不足)	6. 生活環境上の理由 (子育て環境など)
7. 通勤通学の便	8. 生まれてからずっと住んでいる	9. その他 ( )

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。次のうち、当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 子どもの入学・進学	2. 親との同居・近居	3. 職業上の理由 (就転職・退職など)
4. 結婚・離婚	5. 住宅の事情 (部屋数・面積の不足)	6. 生活環境上の理由 (子育て環境など)
7. 通勤通学の便	8. 引っ越す予定はない	9. その他 ( )

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。なお、「e. インターネット情報」で「よく利用する」「ときどき利用する」を選んだ方は問3-1へ進んでください。それ以外の方は、問4へお進みください。

	よく利用する	ときどき利用する	ほとんど利用しない	まったく利用しない
a. テレビ・ラジオ・新聞	1	2	3	4
b. 行政の広報紙	1	2	3	4
c. フリーペーパーなどの地域情報誌	1	2	3	4
d. 自治会などの掲示板や回覧板	1	2	3	4
e. インターネット情報	1	2	3	4

(問3で「e. インターネット情報」で「よく利用する」「ときどき利用する」を選んだ方は、問3-1をお答えください)

問3-1 あなたはインターネット情報を得るときに、以下にあげる手段をどの程度、利用していますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

	よく利用する	ときどき利用する	ほとんど利用しない	まったく利用しない
a. パソコン	1	2	3	4
b. 携帯電話	1	2	3	4
c. スマートフォン	1	2	3	4
d. タブレットPC	1	2	3	4

問4 あなたは戸田市に住んでいて治安に対して不安に思うことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 街灯が少ない	2. 警察署がない	3. 犯罪 (空き巣・ピッキング・車上荒らしなど)
4. 近隣との関わりがない	5. 不安はない	6. その他 ( )

## II. 子育てについておたずねします。

お子さんがいない方は、ご自分が子育てをする場合を想定してお答えください。また、お子さんの子育てを終えられた方は、お子さんを子育てしているときのことを思い出して、お答えください。

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 保育園へ通わせている子どもへの助成	2. 幼稚園へ通わせている子どもへの助成
3. 家庭保育室へ通わせている子どもへの助成	4. 幼稚園・保育園へ通わせていない子どもへの助成
5. 小学生への進級の際に特別給付	6. その他 ( )

問6 助成金を受給するのであればお子さんがいくつのときがよろしいですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 0～6歳	2. 小学生	3. 中学生	4. 高校生	5. 大学生
---------	--------	--------	--------	--------

問7 あなたのお子さんは幼稚園と保育園、どこに通っていますか。または通っていましたか (2人以上のお子さんがいる場合、一番下のお子さんを基準にお答えください)。お子さんがいない場合は、どこに通わせたいかをお答えください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 公立保育園	2. 私立保育園	3. 家庭保育室	4. 公立幼稚園	5. 私立幼稚園	6. 通わせていない
----------	----------	----------	----------	----------	------------

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。最大2つまで○をつけてください。当てはまるものが1つもない場合は、「10. 特になし」に○をつけてください。

1. 早期保育	2. 病児保育	3. 地域の子ども・お年寄りとの交流事業
4. 日曜・祝祭日の保育	5. 夜間保育	6. 放課後児童の受け入れ
7. 育児相談	8. 育児講座	9. その他 ( )

10. 特になし

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。

1. とだファミリーサポートセンター	2. とだ子育てサロン	3. 親子ふれあい広場
4. 産前産後支援ヘルプサービス	5. 病児・病後児保育	6. 一時保育
7. パパ・ママ応援ショップ事業	8. 知らない	9. その他 ( )

問10 あなたは、保育園・幼稚園・家庭保育室など以外にお子さんを預けることに対する不安はありますか。

1. ある      2. ない

問10-1 問10で「1. ある」に○をつけた方のみお答えください。何が一番不安を感じますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 子どもがさびしがらないか	2. 子どもと離れたくない
3. 子どもを預けることで自己嫌悪に陥る	4. 子どもがいじめられないか
5. 子どもが怪我をしないか	6. 子どもが泣いた時にすぐに対処してくれるか
7. 子どもが体罰をふるわれないか	8. 子どもが体調を崩さないか
9. 預け先に不安を感じる	10. その他 ( )

問11 あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。

1. 親・兄弟・親戚	2. 知人・友人
3. こども家庭相談センター	4. その他 ( )

### Ⅲ. 現在、子育て中の方におたずねします。

小学生（12歳）までのお子さんがいらっしゃる方は、「Ⅳ. 戸田市の市民活動についておたずねします」へお進みください。

問12 戸田市が独自で行っている助成制度（幼稚園関係補助金など）の手続きについてどう思われますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 難しい	2. やや難しい	3. どちらでもない	4. やや簡単	5. 簡単
--------	----------	------------	---------	-------

問13 戸田市が独自で行っている助成制度（幼稚園関係補助金など）の額に満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. 利用していない
-------	---------	---------	-------	------------

問14 あなたは幼稚園・保育園のサービスに満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満	5. 利用していない
-------	---------	---------	-------	------------

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。

1. とだファミリーサポートセンター	2. とだ子育てサロン	3. 親子ふれあい広場
4. 産前産後支援ヘルプサービス	5. 病児・病後児保育	6. 一時保育
7. パパ・ママ応援ショップ事業	8. 利用していない	9. その他 ( )

問16 あなたは保育園・幼稚園・家庭保育室など以外で、お子さんをどこに預けていますか。一番預けている環境1つに○をつけてください。

1. 親・兄弟・親戚    2. 近所の人    3. 友人    4. その他 (                    )

問17 お子さんの「しつけ」で悩むことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. ある    2. 時々ある    3. まったくない    4. 子どもはいない

問18 **問17で「1. ある」または、「2. 時々ある」と答えた方に質問です。**どのようなときに悩むことが多いですか。最大2つまで○をつけてください。

1. ついイライラしてしまったとき	2. 人に迷惑をかけたとき
3. 他の子どもに乱暴したとき	4. 食事の好き嫌いや食べ散らかしがあったとき
5. 親に口答えをしたとき	6. 危ないことをしたとき
7. 片付けや着替えを自分でやらなかったとき	8. その他 (                    )

問19 はじめてお子さんの「しつけ」で悩んだときは、お子さんの年齢は何歳でしたか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 0歳    2. 1歳    3. 2歳    4. 3歳    5. 4歳    6. 5歳    7. 6歳～

問20 あなたは「しつけ」に対してどう考えていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 主に母親が行うべき	2. 主に父親が行うべき
3. 母親と父親がともに行うべき	4. その他 (                    )

#### IV. 戸田市の市民活動についておたずねします。

問21 あなたは戸田市で行われている生涯学習を知っていますか。

1. 知っている    2. 知らない

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。

1. 市民大学の講座	2. CSP 講座 (子育て支援プログラム)	3. まちづくり出前講座
4. 外国語講座	5. その他 (                    )	

6. 参加していない

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけてください。

	よく利用 する	ときどき 利用する	ほとんど 利用しない	まったく 利用しない
a. 図書館	1	2	3	4
b. 郷土博物館	1	2	3	4
c. 公民館	1	2	3	4
d. 児童センター（プリムローズ）	1	2	3	4
e. ボランティア・市民活動センター	1	2	3	4
f. 笹目コミュニティセンター（コンパル）	1	2	3	4
g. 男女共同参画センター（ビリーブ）	1	2	3	4

問24 あなたは戸田市のバリアフリー対策に満足していますか。当てはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- |       |         |         |       |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 |
|-------|---------|---------|-------|

問25 問24で「3. やや不満」「4. 不満」と答えた方のみお答えください。次にあげる事柄のなかで特に満足していないもの**1つ**に○をつけてください。

- |              |               |               |
|--------------|---------------|---------------|
| 1. 段差が多い     | 2. スロープが少ない   | 3. 手すりが少ない    |
| 4. 階段が多い     | 5. 歩道が狭い      | 6. 点字ブロックが少ない |
| 7. 休める場所が少ない | 8. けがをしたことがある | 9. その他（ ）     |

問26 あなたは緑化・美化活動に興味がありますか。当てはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- |          |                      |                      |          |
|----------|----------------------|----------------------|----------|
| 1. 興味がある | 2. どちらかといえば<br>興味がある | 3. どちらかといえば<br>興味がない | 4. 興味がない |
|----------|----------------------|----------------------|----------|

問27 あなたはリサイクルフラワーセンターで行っている生ゴミと花苗交換サービスを利用したことがありますか。当てはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- |              |                    |                   |
|--------------|--------------------|-------------------|
| 1. 利用したことがある | 2. 知っているが利用したことはない | 3. 知らない・利用したことはない |
|--------------|--------------------|-------------------|

問28 あなたは530（ゴミゼロ）運動に参加したことがありますか。当てはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- |              |                    |                   |
|--------------|--------------------|-------------------|
| 1. 参加したことがある | 2. 知っているが参加したことはない | 3. 知らない・参加したことはない |
|--------------|--------------------|-------------------|

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。当てはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- |   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 老人介護・子育てサークルなど福祉活動                   | 2. 町会・自治会などの自治組織の活動 |
| 3. フリーマーケット・運動会など戸田市内の<br>レクリエーションやイベント | 4. ふるさと祭りなど地域の恒例行事  |
| 5. その他（ ）                               |                     |

V. あなた自身のことについておたずねします。

問30 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

問31 あなたの年齢を教えてください。

歳

問32 あなたが最後に通った学校について最も近いものを以下から選び、当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 大学・大学院	2. 短大・高専	3. 専門・各種学校
4. 高校	5. 中学	6. その他 ( )

問32-1 あなたが問32で回答した学校について、当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 卒業した 2. 中退した 3. 在学中 4. その他 ( )

問33 現在、あなたに配偶者（夫または妻）はいらっしゃいますか。

1. いる 2. いない

問34 あなたとあなた以外の方も含めた世帯全体の最近1年間のおおよその税込み年収はどれにあたりますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 100万円未満	2. 100～300万円未満	3. 300～500万円未満
4. 500～700万円未満	5. 700～900万円未満	6. 900万円以上
7. 答えたくない		

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。お子さんがいらっしゃらない場合は「0」と記入し、問36へ進んでください。お子さんがいらっしゃる場合は、一番上と一番下のお子さんの年齢をおしえてください。

人	①一番上のお子さんの年齢 (1人の場合には、こちらにご記入ください)	歳
	②一番下のお子さんの年齢	歳

問36 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 一戸建て持ち家	2. 一戸建て賃貸	3. 分譲マンション	4. 民間の賃貸マンション
5. 民間のアパート	6. 公営住宅	7. 社宅・官舎・寮	

問37 あなたは、2013年7月時点で、現在のお住まいに合計して何年住んでおられますか。6ヶ月以上は切り上げてお答えください。なお、6ヶ月未満の場合は、「0」と記入してください。

約 年

問38 学校卒業後、現在までのあなたの就労状況について、当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 子どもを持たずに就業継続している	2. 結婚や出産に関係なく、ずっと働き続けている (産休・育休取得者も含む)
3. 結婚や出産で退職し、子どもの手が離れた後で 再び働いている	4. 結婚や出産で退職し、その後ずっと働いて いない
5. 学校卒業後、ずっと働いていない	6. その他 ( )

問39 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. フルタイム（常勤）の被雇用者	2. 派遣・契約・嘱託社員	3. パートまたはアルバイト
4. 自営業主	5. 家族従業者	6. 会社経営・役員
7. 現在仕事はしていない（専業主婦など）	8. その他 ( )	

問40 あなたは、今の就労状況に満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。  
(非就業者は、仕事に就いていないことについてお答えください)

1. 満足	2. やや満足	3. やや不満	4. 不満
-------	---------	---------	-------

問41 あなたの就労希望は以下のどれですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. できればフルタイムで働きたい	2. できればパートタイムで働きたい	3. できれば自営業で働きたい
4. できれば仕事を持ちたくない	5. その他 ( )	

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。選択肢から、近いものを3つまで選択して、当てはまるものに○をつけてください

1. 勤め先の規模や知名度	2. 雇用や身分が安定していること	3. 労働時間が短いこと
4. 勤務時間や出勤日の都合がよいこと	5. 休暇が取りやすいこと	6. 残業が少ないこと
7. 休日出勤がないこと	8. 人の役にたつ、社会貢献度の ある仕事内容であること	9. 将来のキャリアに繋がる 仕事内容であること
10. 知識や経験を生かせる仕事内容 であること	11. 給与が高いこと	12. 通勤時間が短いこと
13. 福利厚生がしっかりしていること	14. その他 ( )	

問43 最後に、子育て支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

これでアンケートは終わりです。最後に、記入もれがないかどうかご確認いただき、返信用封筒に同封の上、ご返送ください。お忙しいなか、ご協力くださり、誠にありがとうございました。



## 単純集計表

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。次のうち、当てはまるものすべてに○をつけてください。【○をつけた数】

	度数	パーセント
1	398	69.2
2	134	23.3
3	37	6.4
4	5	0.9
6	1	0.2
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【子どもの入学・進学】

	度数	パーセント
当てはまらない	563	97.9
当てはまる	12	2.1
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【親との同居・近居】

	度数	パーセント
当てはまらない	476	82.8
当てはまる	99	17.2
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【職業上の理由（就転職・退職など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	454	79.0
当てはまる	121	21.0
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【結婚・離婚】

	度数	パーセント
当てはまらない	403	70.1
当てはまる	172	29.9
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【住宅の事情（部屋数・面積の不足）】

	度数	パーセント
当てはまらない	471	81.9
当てはまる	104	18.1
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【生活環境上の理由（子育て環境など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	517	89.9
当てはまる	58	10.1
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【通勤通学の便】

	度数	パーセント
当てはまらない	442	76.9
当てはまる	133	23.1
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【生まれてからずっと住んでいる】

	度数	パーセント
当てはまらない	485	84.3
当てはまる	90	15.7
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	562	97.7
当てはまる	13	2.3
合計	575	100.0

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。【自由記述】

3才から住んでいる
グループホーム若竹
マイホーム
マンションを購入したから
マンション購入
引っ越し
家を購入したため
家賃の妥当性
会社設立のため
関東への転勤
再婚
再婚を期に
子供のころ引っ越してきた
持ち家の購入
自分の入学
実家を出て独り暮らしするため
社宅
社宅があったため
社宅退去
主人の転勤
住宅物件
出産
職場と彼女の家の中間
親の仕事の都合
親の転勤
親の都合
震災
生まれてから高卒まで住んでいた
知人のすすめ
地震があったら、津波の可能性が少ない
転勤
都内より駐車場代が安いから
買うマンションがたまたま戸田だった
夫の転勤
友人のすすめ
練習場が近い

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。次のうち、当てはまるものすべてに○をつけてください。

	度数	パーセント
1	431	75.0
2	94	16.3
3	35	6.1
4	13	2.3
5	1	0.2
6	1	0.2
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【子どもの入学・進学】

	度数	パーセント
当てはまらない	554	96.3
当てはまる	21	3.7
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【親との同居・近居】

	度数	パーセント
当てはまらない	500	87.0
当てはまる	75	13.0
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【職業上の理由（就転職・退職など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	416	72.3
当てはまる	159	27.7
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【結婚・離婚】

	度数	パーセント
当てはまらない	511	88.9
当てはまる	64	11.1
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【住宅の事情（部屋数・面積の不足）】

	度数	パーセント
当てはまらない	446	77.6
当てはまる	129	22.4
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【生活環境上の理由（子育て環境など）】

	度数	パーセント
当てはまらない	515	89.6
当てはまる	60	10.4
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【通勤通学の便】

	度数	パーセント
当てはまらない	511	88.9
当てはまる	64	11.1
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【引っ越す予定はない】

	度数	パーセント
当てはまらない	362	63.0
当てはまる	213	37.0
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	573	99.7
当てはまる	2	0.3
合計	575	100.0

問2 あなたが次に引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。【自由記述】

マイホームが欲しい
マイホームの購入
栄えてる場所を求めて
家の購入
区画整理
戸田市内に家を買う
自宅に戻るため
主人の転勤
住宅の購入
住宅購入
新居
親との死別
地域の自然があつかどうか。
転勤
田舎生活
夫の転勤
文教地区希望、戸田市の駅前には駐車場ばかりで店や銀行などがなく大変不便で生活しづらい。電車通勤しているので駅前に何もないので困っています。都内に転居する予定です。
両親からの自立

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。【テレビ・ラジオ・新聞】

	度数	パーセント
よく利用する	124	21.6
ときどき利用する	179	31.1
ほとんど利用しない	135	23.5
まったく利用しない	66	11.5
無回答	71	12.3
合計	575	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。【行政の広報紙】

	度数	パーセント
よく利用する	63	11.0
ときどき利用する	225	39.1
ほとんど利用しない	125	21.7
まったく利用しない	91	15.8
無回答	71	12.3
合計	575	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。【フリーペーパーなどの地域情報誌】

	度数	パーセント
よく利用する	31	5.4
ときどき利用する	205	35.7
ほとんど利用しない	170	29.6
まったく利用しない	95	16.5
無回答	74	12.9
合計	575	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。【自治会などの掲示板や回覧板】

	度数	パーセント
よく利用する	18	3.1
ときどき利用する	141	24.5
ほとんど利用しない	180	31.3
まったく利用しない	161	28.0
無回答	75	13.0
合計	575	100.0

問3 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。【インターネット情報】

	度数	パーセント
よく利用する	246	42.8
ときどき利用する	186	32.3
ほとんど利用しない	62	10.8
まったく利用しない	42	7.3
無回答	39	6.8
合計	575	100.0

\*問3-1は、問3で「インターネット情報」を「よく利用する」「ときどき利用する」と回答した人のみが対象。

問3-1 あなたはインターネット情報を得るときに、以下にあげる手段をどの程度、利用していますか。【パソコン】

	度数	パーセント
よく利用する	237	41.2
ときどき利用する	128	22.3
ほとんど利用しない	18	3.1
まったく利用しない	19	3.3
非該当	103	17.9
無回答	70	12.2
合計	575	100.0

問3-1 あなたはインターネット情報を得るときに、以下にあげる手段をどの程度、利用していますか。

【携帯電話】

	度数	パーセント
よく利用する	42	7.3
ときどき利用する	49	8.5
ほとんど利用しない	46	8.0
まったく利用しない	212	36.9
非該当	103	17.9
無回答	123	21.4
合計	575	100.0

問3-1 あなたはインターネット情報を得るときに、以下にあげる手段をどの程度、利用していますか。

【スマートフォン】

	度数	パーセント
よく利用する	227	39.5
ときどき利用する	68	11.8
ほとんど利用しない	13	2.3
まったく利用しない	80	13.9
非該当	103	17.9
無回答	84	14.6
合計	575	100.0

問3-1 あなたはインターネット情報を得るときに、以下にあげる手段をどの程度、利用していますか。

【タブレットPC】

	度数	パーセント
よく利用する	43	7.5
ときどき利用する	27	4.7
ほとんど利用しない	15	2.6
まったく利用しない	261	45.4
非該当	103	17.9
無回答	126	21.9
合計	575	100.0

問4 あなたは戸田市に住んでいて治安に対して不安に思うことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
街灯が少ない	86	15.0
警察署がない	63	11.0
犯罪	212	36.9
近隣との関わりがない	36	6.3
不安はない	120	20.9
その他	14	2.4
無回答	44	7.7
合計	575	100.0

問4 あなたは戸田市に住んでいて治安に対して不安に思うことはありますか。【自由記述】

終電が早く始発が遅いため静かでもいいがその分狙われやすいと考えます
カラスが多くなるさい
タバコ吸ってる中学生がいる
ひったくり
まだよくわからない
引っ越してきたばかりでよく知らない
改造車、騒音
街町でときどき不審者を見かける
強引な営業活動（訪問して来て個人情報を出そうとするなど）
交通事故が多い、自転車の盗難
交番が減った
交番が少ない
交番の不在が多い
子ども（2～4才？）が夕方遅くまで外にいる。（遊んでいる）
事業所による（倉庫、運送業による）対応
若者が公園等でたむろしている。
商業施設が少ない
整備が不十分です煩雑な感じで豊かなイメージがなく豊かでない人を呼んでいると思います（泥棒など）
昼間のよっぱらいが多い
不審者 露出や放置物あらしをよく見る
不審者が多い
不審者情報多数、改善されない。安全パトロールカーの効果が感じられない。
防犯カメラない

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【○をつけた数】

	度数	パーセント
0	14	2.4
1	210	36.5
2	172	29.9
3	100	17.4
4	42	7.3
5	32	5.6
6	5	0.9
合計	575	100.0

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。

【保育園へ通わせている子どもへの助成】

	度数	パーセント
当てはまらない	256	44.5
当てはまる	319	55.5
合計	575	100.0

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。

【幼稚園へ通わせている子どもへの助成】

	度数	パーセント
当てはまらない	251	43.7
当てはまる	324	56.3
合計	575	100.0



問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。

【家庭保育室へ通わせている子どもへの助成】

	度数	パーセント
当てはまらない	424	73.7
当てはまる	151	26.3
合計	575	100.0

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。

【幼稚園・保育園へ通わせていない子どもへの助成】

	度数	パーセント
当てはまらない	445	77.4
当てはまる	130	22.6
合計	575	100.0

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。【小学生への進級の際に特別給付】

	度数	パーセント
当てはまらない	344	59.8
当てはまる	231	40.2
合計	575	100.0

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	537	93.4
当てはまる	38	6.6
合計	575	100.0

問5 あなたは子育てにあたってどのような手当や助成があるとよいですか。【自由記述】

1～5は必要ない。出産一時金の増額や、給食費無料などの為に使ったらよいと思う。
18歳までの助成金
いまのままでよい
さいたま市と同じくらいの助成＝戸田市が低い
すべての予防接種に対して
ベビーシッター補助金
医療 学費 中学校まで無料
育児はお金も手間もたくさんかかります。もっと助けてほしいです。
学童（小学生）の20時までの充実
学費助成
願望を言えば、全てにあてはまります。
義務教育終了後の学費への助成
金ではなく設備
金銭よりサービスそのもの・現物
高校・大学進学の際の助成。いちばんお金がかかる時期なのに少ないのが不思議。
高校・大学生の親が一番苦しいと思います。＊本当に幼児への手当は必要なのか・・・所得に制限をつけるべきだと思います。
高校生への援助
子どもがいる場合は多い〇〇
子供が多い場合は特別給付
私立中へ通わせている子供の助成
手当や助成は不要
就園前に子供が参加できる集まり
十八歳まで助成
出産の際&予防接種
助成がないと通わせられない家族限定・年収による
助成よりサービスの向上
助成等もあるとよいですが、それよりも幼稚園の数が足りないと思う。3年保育でいれたいのにもし落ちたら（入園できなかったら）最悪です。すぐに増やしてほしい。特に北戸田。
進級・進学時助成
大学
地域への助成
中・高校生への助成
中学、高校生の方がお金がかかるのに、手当が少ない
中学への進級の際の特別給付
中学校進学(入学)時の助成
中学生への手当や助成
中学生への進級の際に特別給付
中学生へ進級の際
中学入学の際の特別給付(いちばん費用がかかる)
中高生
任意でうけている注射の助成金
年収で区切りをつけて、そのすべての子への助成
標準的に小さい子どもへの助成はあるが、大学生にはないので、その位の年齢の方への助成
未就学児への助成
幼稚園・保育園へ勤務する方への助成があってもいいのでは？

問6 助成金を受給するのであればお子さんがいくつのときがよろしいですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
0～6歳	224	39.0
小学生	93	16.2
中学生	77	13.4
高校生	105	18.3
大学生	45	7.8
無回答	31	5.4
合計	575	100.0

問7 あなたのお子さんは幼稚園と保育園、どこに通っていますか。または通っていましたか（2人以上のお子さんがある場合、一番下のお子さんを基準にお答えください）。お子さんがいない場合は、どこに通わせたいかをお答えください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
公立保育園	148	25.7
私立保育園	54	9.4
家庭保育室	11	1.9
公立幼稚園	99	17.2
私立幼稚園	218	37.9
通わせていない	29	5.0
無回答	16	2.8
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。最大2つまで○をつけてください。当てはまるものが1つもない場合は、「10. 特になし」に○をつけてください。【○をつけたあ数】

	度数	パーセント
0	79	13.7
1	139	24.2
2	343	59.7
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【早期保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	492	85.6
当てはまる	69	12.0
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【病児保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	395	68.7
当てはまる	166	28.9
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。  
【地域の子ども・お年寄りとの交流事業】

	度数	パーセント
当てはまらない	471	81.9
当てはまる	90	15.7
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【一時保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	455	79.1
当てはまる	106	18.4
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【夜間保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	447	77.7
当てはまる	114	19.8
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【放課後児童の受け入れ】

	度数	パーセント
当てはまらない	382	66.4
当てはまる	179	31.1
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【育児相談】

	度数	パーセント
当てはまらない	507	88.2
当てはまる	54	9.4
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【育児講座】

	度数	パーセント
当てはまらない	523	91.0
当てはまる	38	6.6
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	552	96.0
当てはまる	9	1.6
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問8 幼稚園・保育園について、今後どんなサービスに力を入れてほしいですか。【特になし】

	度数	パーセント
当てはまらない	482	83.8
当てはまる	79	13.7
無回答	14	2.4
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【○をつけた数（知らないを除く）】

	度数	パーセント
0	177	30.8
1	118	20.5
2	80	13.9
3	63	11.0
4	50	8.7
5	42	7.3
6	26	4.5
7	19	3.3
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【とだファミリーサポートセンター】

	度数	パーセント
当てはまらない	384	66.8
当てはまる	191	33.2
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【とだ子育てサロン】

	度数	パーセント
当てはまらない	419	72.9
当てはまる	156	27.1
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【親子ふれあい広場】

	度数	パーセント
当てはまらない	408	71.0
当てはまる	167	29.0
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【産前産後支援ヘルプサービス】

	度数	パーセント
当てはまらない	502	87.3
当てはまる	73	12.7
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【病児・病後児保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	478	83.1
当てはまる	97	16.9
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【一時保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	403	70.1
当てはまる	172	29.9
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【パパ・ママ応援ショップ事業】

	度数	パーセント
当てはまらない	266	46.3
当てはまる	309	53.7
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【知らない】

	度数	パーセント
当てはまらない	404	70.3
当てはまる	171	29.7
合計	575	100.0

問9 子育て支援サービスで知っているものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	573	99.7
当てはまる	2	0.3
合計	575	100.0

問10 あなたは、保育園・幼稚園・家庭保育室など以外にお子さんを預けることに対する不安はありますか。

	度数	パーセント
ある	399	69.4
ない	168	29.2
無回答	8	1.4
合計	575	100.0

問10-1 問10で「ある」に○をつけた方のみお答えください。何が一番不安を感じますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
子どもがさびしがらないか	30	5.2
子どもと離れたくない	4	0.7
子どもを預けることで自己嫌悪に陥る	7	1.2
子どもがいじめられないか	27	4.7
子どもが怪我をしないか	24	4.2
子どもが泣いた時にすぐに対処してくれるか	12	2.1
子どもが体罰をふるわれぬか	30	5.2
子どもが体調を崩さないか	31	5.4
預け先に不安を感じる	200	34.8
その他	6	1.0
非該当	168	29.2
無回答	36	6.3
合計	575	100.0

問11 あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。【○をつけた数】

	度数	パーセント
0	10	1.7
1	451	78.4
2	94	16.3
3	19	3.3
4	1	0.2
合計	575	100.0

問11 あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。【親・兄弟・親戚】

	度数	パーセント
当てはまらない	224	39.0
当てはまる	351	61.0
合計	575	100.0

問11 あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。【知人・友人】

	度数	パーセント
当てはまらない	306	53.2
当てはまる	269	46.8
合計	575	100.0

問11 あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。【こども家庭相談センター】

	度数	パーセント
当てはまらない	507	88.2
当てはまる	68	11.8
合計	575	100.0

問11 あなたは子育てに関する悩みをどこに相談したいと感じていますか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	563	97.9
当てはまる	12	2.1
合計	575	100.0

問12 戸田市が独自で行っている助成制度（幼稚園関係補助金など）の手続きについてどう思われますか。

	度数	パーセント
難しい	9	1.6
やや難しい	39	6.8
どちらでもない	121	21.0
やや簡単	10	1.7
簡単	16	2.8
非該当	351	61.0
無回答	29	5.0
合計	575	100.0

問13 戸田市が独自で行っている助成制度（幼稚園関係補助金など）の額に満足していますか。

	度数	パーセント
満足	11	1.9
やや満足	41	7.1
やや不満	44	7.7
不満	39	6.8
利用していない	66	11.5
非該当	351	61.0
無回答	23	4.0
合計	575	100.0

問14 あなたは幼稚園・保育園のサービスに満足していますか。

	度数	パーセント
満足	34	5.9
やや満足	74	12.9
やや不満	33	5.7
不満	20	3.5
利用していない	41	7.1
非該当	351	61.0
無回答	22	3.8
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。

【○をつけた数（利用してないを除く）】

	度数	パーセント
0	58	10.1
1	88	15.3
2	40	7.0
3	17	3.0
4	2	0.3
5	2	0.3
非該当	350	60.9
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。

【とだファミリーサポートセンター】

	度数	パーセント
当てはまらない	196	34.1
当てはまる	11	1.9
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。【とだ子育てサロン】

	度数	パーセント
当てはまらない	185	32.2
当てはまる	22	3.8
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。【親子ふれあい広場】

	度数	パーセント
当てはまらない	173	30.1
当てはまる	34	5.9
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。

【産前産後支援ヘルプサービス】

	度数	パーセント
当てはまらない	201	35.0
当てはまる	6	1.0
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。【病児・病後児保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	200	34.8
当てはまる	7	1.2
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。【一時保育】

	度数	パーセント
当てはまらない	184	32.0
当てはまる	23	4.0
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0



問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。

【パパ・ママ応援ショップ事業】

	度数	パーセント
当てはまらない	75	13.0
当てはまる	132	23.0
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。【利用していない】

	度数	パーセント
当てはまらない	150	26.1
当てはまる	57	9.9
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問15 子育て支援サービスで実際に利用しているものすべてに○をつけてください。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	205	35.7
当てはまる	2	0.3
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問16 あなたは保育園・幼稚園・家庭保育室など以外で、お子さんをどこに預けていますか。一番預けている環境1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
親・兄弟・親戚	138	24.0
近所の人	9	1.6
友人	16	2.8
その他	30	5.2
非該当	351	61.0
無回答	31	5.4
合計	575	100.0

問17 お子さんの「しつけ」で悩むことはありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
ある	73	12.7
時々ある	119	20.7
まったくない	16	2.8
非該当	351	61.0
無回答	16	2.8
合計	575	100.0

問18 問17で「ある」または、「時々ある」と答えた方に質問です。どのようなときに悩むことが多いですか。最大2つまで○をつけてください。【○つけた数】

	度数	パーセント
1	79	13.7
2	107	18.6
非該当	367	63.8
無回答	22	3.8
合計	575	100.0

問18 どのようなときに悩むことが多いですか。【1つ目】

	度数	パーセント
ついイライラしてしまったとき	93	16.2
人に迷惑をかけたとき	32	5.6
他の子どもに乱暴したとき	4	0.7
食事の好き嫌いや食べ散らかしがあったとき	19	3.3
親に口答えしたとき	13	2.3
危ないことをしたとき	4	0.7
片付けや着替えを自分でやらなかったとき	8	1.4
その他	12	2.1
非該当	364	63.3
無回答	26	4.5
合計	575	100.0

問18 どのようなときに悩むことが多いですか。【2つ目】

	度数	パーセント
人に迷惑をかけたとき	12	2.1
他の子どもに乱暴したとき	9	1.6
食事の好き嫌いや食べ散らかしがあったとき	12	2.1
親に口答えしたとき	14	2.4
危ないことをしたとき	32	5.6
片付けや着替えを自分でやらなかったとき	23	4.0
その他	5	0.9
非該当	446	77.6
無回答	22	3.8
合計	575	100.0

問18 どのようなときに悩むことが多いですか。【自由記述】

イヤイヤ期やしかり方全般で
おむつがとれない
しつけ
その子にとって最善の方法
わがまま→厳しくしつける、甘え→やさしく受け入れるようにしたいが「わがまま」と「甘え」の区別・判断など
兄弟げんか
言われた事をきちんとしてくれない時
好き嫌いする。保育園の先生になつかない
子供同士の人間関係
常にこれでいいのかと悩んでいる
成績が悪かったりいうことをきかないとき
年中になっても幼稚園バスに乗る際、泣いてしまうこと。
良い事と悪い事の教え方に悩んだ時

問19 はじめてお子さんの「しつけ」で悩んだときは、お子さんの年齢は何歳でしたか。

	度数	パーセント
0歳	26	4.5
1歳	37	6.4
2歳	62	10.8
3歳	26	4.5
4歳	11	1.9
5歳	16	2.8
6歳～	17	3.0
非該当	351	61.0
無回答	29	5.0
合計	575	100.0

問20 あなたは「しつけ」に対してどう考えていますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
主に母親が行うべき	11	1.9
主に父親が行うべき	4	0.7
母親と父親がともに行うべき	186	32.3
その他	6	1.0
非該当	351	61.0
無回答	17	3.0
合計	575	100.0

問21 あなたは戸田市で行われている生涯学習を知っていますか。

	度数	パーセント
知っている	190	33.0
知らない	383	66.6
無回答	2	0.3
合計	575	100.0

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【○をつけた数】

	度数	パーセント
0	531	92.3
1	34	5.9
2	2	0.3
3	3	0.5
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。  
【市民大学】

	度数	パーセント
当てはまらない	558	97.0
当てはまる	12	2.1
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。  
【CSP講座】

	度数	パーセント
当てはまらない	564	98.1
当てはまる	6	1.0
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。  
【まちづくり出前講座】

	度数	パーセント
当てはまらない	556	96.7
当てはまる	14	2.4
合計	570	99.1
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。

【外国語講座】

	度数	パーセント
当てはまらない	559	97.2
当てはまる	11	1.9
合計	570	99.1
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問22 あなたは次にあげる戸田市が主催する生涯学習に参加していますか。または参加したことがありますか。

【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	566	98.4
当てはまる	4	0.7
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【図書館】

	度数	パーセント
よく利用する	75	13.0
ときどき利用する	171	29.7
ほとんど利用しない	136	23.7
まったく利用しない	184	32.0
無回答	9	1.6
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【郷土博物館】

	度数	パーセント
よく利用する	1	0.2
ときどき利用する	39	6.8
ほとんど利用しない	136	23.7
まったく利用しない	377	65.6
無回答	22	3.8
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【公民館】

	度数	パーセント
よく利用する	10	1.7
ときどき利用する	67	11.7
ほとんど利用しない	128	22.3
まったく利用しない	346	60.2
合計	551	95.8
無回答	24	4.2
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【児童センター】

	度数	パーセント
よく利用する	17	3.0
ときどき利用する	73	12.7
ほとんど利用しない	103	17.9
まったく利用しない	362	63.0
無回答	20	3.5
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【市民活動センター】

	度数	パーセント
よく利用する	1	0.2
ときどき利用する	12	2.1
ほとんど利用しない	63	11.0
まったく利用しない	475	82.6
無回答	24	4.2
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【笹目コミュニティーセンター】

	度数	パーセント
よく利用する	7	1.2
ときどき利用する	36	6.3
ほとんど利用しない	74	12.9
まったく利用しない	438	76.2
無回答	20	3.5
合計	575	100.0

問23 あなたは次にあげる施設をどのくらい利用していますか。【男女共同参画センター】

	度数	パーセント
よく利用する	4	0.7
ときどき利用する	13	2.3
ほとんど利用しない	56	9.7
まったく利用しない	479	83.3
無回答	23	4.0
合計	575	100.0

問24 あなたは戸田市のバリアフリー対策に満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
満足	52	9.0
やや満足	266	46.3
やや不満	186	32.3
不満	49	8.5
無回答	22	3.8
合計	575	100.0

問25 問24で「やや不満」「不満」と答えた方のみお答えください。次にあげる事柄のなかで特に満足していないもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
段差が多い	57	9.9
スロープが少ない	11	1.9
手すりが少ない	1	0.2
階段が多い	6	1.0
歩道が狭い	100	17.4
点字ブロックが少ない	3	0.5
休める場所が少ない	19	3.3
その他	6	1.0
非該当	318	55.3
無回答	54	9.4
合計	575	100.0

問26 あなたは緑化・美化活動に興味がありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
興味がある	115	20.0
どちらかといえば興味がある	316	55.0
どちらかといえば興味がない	107	18.6
興味がない	32	5.6
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問27 あなたはリサイクルフラワーセンターで行っている生ゴミと花苗交換サービスを利用したことがありますか。

	度数	パーセント
利用したことがある	18	3.1
知っているが利用したことはない	164	28.5
知らない・利用したことはない	392	68.2
無回答	1	0.2
合計	575	100.0

問28 あなたは530（ゴミゼロ）運動に参加したことがありますか。

	度数	パーセント
参加したことがある	169	29.4
知っているが参加したことはない	172	29.9
知らない・参加したことはない	233	40.5
無回答	1	0.2
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。【○をつけた数】

	度数	パーセント
0	190	33.0
1	185	32.2
2	107	18.6
3	79	13.7
4	14	2.4
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。  
【老人介護・子育てサークルなど福祉活動】

	度数	パーセント
当てはまらない	542	94.3
当てはまる	33	5.7
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。  
【町会・自治会などの自治組織の活動】

	度数	パーセント
当てはまらない	383	66.6
当てはまる	192	33.4
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。  
【フリーマーケット・運動会など戸田市内のレクリエーションやイベント】

	度数	パーセント
当てはまらない	414	72.0
当てはまる	161	28.0
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。  
【ふるさと祭りなど地域の恒例行事】

	度数	パーセント
当てはまらない	286	49.7
当てはまる	289	50.3
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。【その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	570	99.1
当てはまる	5	0.9
合計	575	100.0

問29 あなたは戸田市における普段の生活の中で、次にあげる項目に参加したことはありますか。  
【参加したことはない、知らない】

	度数	パーセント
当てはまらない	563	97.9
当てはまる	12	2.1
合計	575	100.0

問30 あなたの性別を教えてください

	度数	パーセント
男性	217	37.7
女性	358	62.3
合計	575	100.0

問31 あなたの年齢を教えてください。【年代】

	度数	パーセント
20代	108	18.8
30代	193	33.6
40代	180	31.3
50代	91	15.8
無回答	3	0.5
合計	575	100.0

問31 あなたの年齢を教えてください。

	度数	パーセント
20	12	2.1
21	6	1.0
22	6	1.0
23	8	1.4
24	10	1.7
25	10	1.7
26	13	2.3
27	12	2.1
28	14	2.4
29	17	3.0
30	14	2.4
31	16	2.8
32	17	3.0
33	20	3.5
34	19	3.3
35	20	3.5
36	17	3.0
37	20	3.5
38	23	4.0
39	27	4.7
40	33	5.7
41	14	2.4
42	24	4.2
43	12	2.1
44	20	3.5
45	15	2.6
46	16	2.8
47	16	2.8
48	15	2.6
49	15	2.6
50	20	3.5
51	8	1.4
52	11	1.9
53	11	1.9
54	10	1.7
55	12	2.1
56	3	0.5
57	6	1.0
58	9	1.6
59	1	0.2
無回答	3	0.5
合計	575	100.0

問32 あなたが最後に通った学校についてもっとも近いものを以下から選び、当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
大学・大学院	248	43.1
短大・高専	66	11.5
専門・各種学校	122	21.2
高校	132	23.0
中学	4	0.7
その他	1	0.2
無回答	2	0.3
合計	575	100.0

問32-1 あなたが問32で回答した学校について、当てはまるもの1つについて1つ○をつけてください。

	度数	パーセント
卒業した	523	91.0
中退した	33	5.7
在学中	16	2.8
無回答	3	0.5
合計	575	100.0



問33 現在、あなたに配偶者（夫または妻）はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
いる	413	71.8
いない	158	27.5
無回答	4	0.7
合計	575	100.0

問34 あなたとあなた以外の方も含めた世帯全体の最近1年間のおおよその税込年収はどれに当たりますか。

	度数	パーセント
100万円未満	8	1.4
100～300万円未満	50	8.7
300～500万円未満	130	22.6
500～700万円未満	121	21.0
700～900万円未満	104	18.1
900万円以上	96	16.7
答えたくない	59	10.3
無回答	7	1.2
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。お子さんがいらっしゃらない場合は「0」と記入し、問36へ進んでください。お子さんがいらっしゃる場合は、一番上と一番下のお子さんの年齢を教えてください。

	度数	パーセント
いない	221	38.4
いる	349	60.7
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。【子どもの数】

	度数	パーセント
0人	221	38.4
1人	121	21.0
2人以上	228	39.7
無回答	5	0.9
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。【子どもの人数】

	度数	パーセント
0	221	38.4
1	121	21.0
2	169	29.4
3	48	8.3
4	3	0.5
5	1	0.2
無回答	12	2.1
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。【12歳以下の子ども】

	度数	パーセント
なし	125	21.7
あり	219	38.1
非該当	221	38.4
無回答	10	1.7
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。

【12歳以下の子どもカテゴリー】

	度数	パーセント
なし	125	21.7
5歳以下	146	25.4
6歳以上12歳以下	73	12.7
非該当	221	38.4
無回答	10	1.7
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。【上の子の年齢】

	度数	パーセント
0	25	4.3
1	18	3.1
2	23	4.0
3	10	1.7
4	17	3.0
5	15	2.6
6	10	1.7
7	12	2.1
8	9	1.6
9	10	1.7
10	11	1.9
11	14	2.4
12	10	1.7
13	12	2.1
14	13	2.3
15	7	1.2
16	10	1.7
17	11	1.9
18	9	1.6
19	9	1.6
20	9	1.6
21	10	1.7
22	10	1.7
23	8	1.4
24	5	0.9
25	6	1.0
26	4	0.7
27	4	0.7
28	5	0.9
29	5	0.9
30	10	1.7
31	2	0.3
32	3	0.5
33	2	0.3
34	2	0.3
36	1	0.2
39	1	0.2
非該当	221	38.4
無回答	12	2.1
合計	575	100.0

問35 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。【下の子の年齢】

	度数	パーセント
0	17	3.0
1	13	2.3
2	12	2.1
3	10	1.7
4	10	1.7
5	11	1.9
6	8	1.4
7	4	0.7
8	12	2.1
9	6	1.0
10	12	2.1
11	5	0.9
12	7	1.2
13	9	1.6
14	9	1.6
15	8	1.4
16	6	1.0
17	9	1.6
18	7	1.2
19	7	1.2
20	6	1.0
21	4	0.7
22	4	0.7
23	5	0.9
24	4	0.7
25	4	0.7
26	4	0.7
27	8	1.4
28	1	0.2
30	1	0.2
32	2	0.3
非該当	342	59.5
無回答	8	1.4
合計	575	100.0

問36 現在のお住まいは次のどれにあたりますか。当てはまるものに1つ○をつけてください。

	度数	パーセント
一戸建て持ち家	157	27.3
一戸建て賃貸	7	1.2
分譲マンション	217	37.7
民間の賃貸マンション	109	19.0
民間のアパート	56	9.7
公営住宅	5	0.9
社宅・官舎・寮	22	3.8
無回答	2	0.3
合計	575	100.0

問37 あなたは、2013年7月時点で、現在のお住まいに合計して何年住んでおられますか。6ヵ月以上は切り上げてお答えください。なお、6ヵ月未満の場合は「0」と記入してください。

	度数	パーセント
1年未満	29	5.0
1年以上3年未満	119	20.7
3年以上5年未満	85	14.8
5年以上7年未満	57	9.9
7年以上9年未満	42	7.3
9年以上15年未満	98	17.0
15年以上20年未満	73	12.7
20年以上	70	12.2
無回答	2	0.3
合計	575	100.0

問37 あなたは、2013年7月時点で、現在のお住まいに合計して何年住んでおられますか。【居住年数】

	度数	パーセント
0	29	5.0
1	57	9.9
2	62	10.8
3	52	9.0
4	33	5.7
5	30	5.2
6	27	4.7
7	22	3.8
8	20	3.5
9	19	3.3
10	31	5.4
11	6	1.0
12	14	2.4
13	18	3.1
14	10	1.7
15	20	3.5
16	16	2.8
17	16	2.8
18	12	2.1
19	9	1.6
20	11	1.9
21	5	0.9
22	1	0.2
23	3	0.5
24	2	0.3
25	7	1.2
26	4	0.7
27	1	0.2
28	1	0.2
29	4	0.7
30	7	1.2
31	2	0.3
32	3	0.5
33	3	0.5
34	1	0.2
35	3	0.5
37	1	0.2
39	2	0.3
40	1	0.2
41	1	0.2
42	1	0.2
44	1	0.2
46	1	0.2
50	1	0.2
51	1	0.2
52	1	0.2
58	1	0.2
無回答	2	0.3
合計	575	100.0

問38 学校卒業後、現在までのあなたの就労状況について、当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
子どもを持たずに就業継続している	160	27.8
結婚や出産に関係なく、ずっと働いている	195	33.9
結婚や出産で退職し、子どもの手が離れた後で再び働いている	93	16.2
結婚や出産で退職し、その後ずっと働いていない	81	14.1
学校卒業後、ずっと働いていない	6	1.0
その他	31	5.4
無回答	9	1.6
合計	575	100.0

問39 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
フルタイム（常勤）の被雇用者	286	49.7
派遣・契約・嘱託社員	34	5.9
パートまたはアルバイト	94	16.3
自営業主	21	3.7
家族従業者	13	2.3
会社経営・役員	21	3.7
現在仕事はしていない（専業主婦など）	86	15.0
その他	14	2.4
無回答	6	1.0
合計	575	100.0

問40 あなたは、今の就労状況に満足していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。（非就業者は、仕事に就いていないことについてお答えください）

	度数	パーセント
満足	144	25.0
やや満足	243	42.3
やや不満	115	20.0
不満	64	11.1
無回答	9	1.6
合計	575	100.0

問41 あなたの就労希望は以下のどれですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

	度数	パーセント
できればフルタイムで働きたい	243	42.3
できればパートタイムで働きたい	123	21.4
できれば自営業で働きたい	56	9.7
できれば仕事を持ちたくない	61	10.6
その他	51	8.9
無回答	41	7.1
合計	575	100.0

問41 あなたの就労希望は以下のどれですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。【自由記述】

1日時間を長くして欲しい
このままで良いが、結婚を機会に出来れば仕事を辞めたい。
できれば自由業で働きたい
フレックスタイム
もっと残業が少ないのがいい。
もっと仕事量を増やしたいが、子育てに時間をかけなければならないから
株式会社を起こしたい
休日が少ない。隔週2日のため
勤務時間長く、公務員になりたい
現状で満足です
現状維持
今のままでよい
今のままで良い
仕事時間をへらしたい
仕事内容と給料のバランスがとれていること
自宅で開業したい
趣味を職業にしたい。できれば
就労形態についての希望は特にないが結婚、出産までは現在の職のまま働きたい
就労時間が長すぎる
職場のスタッフへの待遇が悪い
正規雇用で働きたい
正社員で働けているので希望なし
正社員として働きたい
正社員になりたい
単身赴任を終わらせ、家族と暮らしたい
通勤時間や埼京線の増数
闘病中
年収アップ
農家
不要範囲内で働いているが103万未満は少ないと思う。
問39のとおり
有休がほしい。

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。選択肢から、近いものを3つまで選択して、当てはまるものに○をつけてください【○をつけた数】

	度数	パーセント
1	36	6.3
2	90	15.7
3	428	74.4
無回答	21	3.7
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、知名度】

	度数	パーセント
当てはまらない	534	92.9
当てはまる	41	7.1
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、雇用身分の安定】

	度数	パーセント
当てはまらない	346	60.2
当てはまる	229	39.8
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、労働時間の短さ】

	度数	パーセント
当てはまらない	540	93.9
当てはまる	35	6.1
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、勤務時間】

	度数	パーセント
当てはまらない	367	63.8
当てはまる	208	36.2
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、休暇取れる】

	度数	パーセント
当てはまらない	417	72.5
当てはまる	158	27.5
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、残業少ない】

	度数	パーセント
当てはまらない	502	87.3
当てはまる	73	12.7
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、休日出勤少ない】

	度数	パーセント
当てはまらない	503	87.5
当てはまる	72	12.5
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、社会貢献】

	度数	パーセント
当てはまらない	476	82.8
当てはまる	99	17.2
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、キャリアにつながる】

	度数	パーセント
当てはまらない	494	85.9
当てはまる	81	14.1
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、経験生かせる】

	度数	パーセント
当てはまらない	389	67.7
当てはまる	186	32.3
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、給与】

	度数	パーセント
当てはまらない	438	76.2
当てはまる	137	23.8
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、通勤時間】

	度数	パーセント
当てはまらない	394	68.5
当てはまる	181	31.5
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、福利厚生】

	度数	パーセント
当てはまらない	463	80.5
当てはまる	112	19.5
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、その他】

	度数	パーセント
当てはまらない	564	98.1
当てはまる	11	1.9
合計	575	100.0

問42 あなたが仕事を選ぶ際にどのような点を重要視されますか。【仕事を選ぶ重視点、自由記述】

24時間保育の施設が備わっているか
育児が可能なこと
家からちかいところ
給与に関係なく、やりたいことや自分の能力を活かせること
参観など子供の行事に参加しやすい環境
子供の病気や行事で休むことを理解してくれる職場
私でないといけない「個」を活かしたことでそれにみあった大家が支払われる事
自宅から近い
自分が心から好きだと思える仕事
自分の好奇心を満たせること
自分の働きたい仕事かどうか
人間関係が良好なところ
生活を安定させられるだけの収入
選ぶ余地がない
組織に属さないこと
働きたいと思える何かが見つかること



問43 最後に、子育て支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

・待機児童解消や経済的負担を目的とし、公立の保育所・幼稚園の設置と運営・専業主婦(夫)に対する助成金や手当、仕事で家庭の両立は難しく専業主婦(夫)にたいする助成制度を作ることによって専業主婦(夫)になる人が増え、このことは、少子化解消にも結びつくと推測される。

・日曜日や祝日も預けられる公立保育園があると望ましい。・どの保育園にどのような保育士さんがいるのか情報を公開して欲しい

#園庭のある認可された保育園を増やしてほしい。#高齢者との交流機会や元気な高齢者の育児サポートetc。#祝日の子供の預け先、学童以外の放課後の受け入れ先(保育園etc)

0～6歳くらいまでの子供が遊べる所、プリムローズみたいな所を増やしてもらいたい。蕨市は児童館が多いが戸田市は少ないです。戸田市はとても住みやすい所なので、満足はしていますが子供の遊び場がありません。

0才児の健診が4カ月の後1才なのは間が空きすぎていると思います。待機児童が多いです。

1歳児の保育園の受け入れをしてください。

24時間体制の「子育てや育児システム」を住民主導もしくは住民との協働で構築してほしい

アンケート内の支援活動や行事など知らないことがいろいろあったので、もっと告知に力を入れて欲しい。行政のパンフだけでは情報が多くて見落とすことが多いのでピンポイントで案内を配布して欲しい。北戸田、イオンと野球場(セブン前)の間の大きな道路の歩道(特にイオン側)がデコボコであぶないです。きれいにしてください。

いろんな取りくみ、制度など関連の情報がほしい

うちは夫婦2人で親せきも近くにおらず、妻は初めての子育ても一人であぐらをかいていましたが、ノイローゼというかうつのような状態でした。あずける場所も書類だとか事前予約だとか気軽にすぐ対応しているとは思えません。子育てでイライラした時やいきり立った時は、とにかく早い対応で今!すぐ!!子供を預けられる所が必要なのにそんなところはひとつもありません。子育てがうまくできない事は人には自分からはいえないようですので、センターへ自分から電話することもないので。子供をきがるにおいてあそばせておけるところがもっとたくさんほしい

ここに記載して良いことなのか、わかりませんが、埼京線と外環自動車道が交差する地点で武蔵浦和方面から線路西側の歩道ですすんで行きますと、必ず車道を通らなくては、北戸田駅方面には行けません。子供づれでは大変危険に思います。右回せず直進で線路西側の歩道を延長することはできないのでしょうか?!朝も北戸田駅から衛生センター方面への通行人が多くみられ、皆様徒歩で1度車道にでていて危険に思います。

このアンケートは夫ではなく妻に回答させるべき。問38から質問の趣旨が理解できない

これから子供を産む立場としては、待機児童の有無が心配です。どこに行けばそういった情報がもらえるのかわかりやすく掲示してほしいです。また、緑の多さなど、環境の面もよくなればと思います。

スポーツセンター等の子供の教室について、土日も開催してほしい。共働きの世帯は市の施設を使用することが難しいように感じます。

プリムローズ以外の児童館や水遊びのできる公園を美女木地区に作って頂きたいです。ベビーカーでもすれ違えるように歩道を整備して欲しい。

ホームスタートが始まると耳にしました。楽しみにしております。また、このように積極的でない母親でも満足できる支援が増えればと思います。

もっと保育園や幼稚園に入りやすくしてほしいです。(待機児童がなく、幼稚園ももう少し安く入園できるように。)

安心して遊ばせることのできる公園を整備・設置してほしい。各駅に歩いて行ける範囲内で、老人から子どもまでが出向く事の出来る(公園)緑地・施設等を作ってほしい。

一時保育の定員人数が』少ないため、子ども2人分空いていない事が多く、利用できない。月1回ではなく、回数も増やしてほしい。

一人目の子の時は、いろいろなアドバイスを受ける、遊ばせる場に行くことができたが、二人目は、時間が合わせられない事が多くなった。市でも、力の入れ方が違うのだろうと感じる事が多かった。子だくさん!!ってやっぱり無理。

駅など、誰でも目に付きやすい場所に子育て支援の取り組みを掲示して、若者も知りやすい環境を作ってください!!

各家族の収入に関係なく、出産、育児ができるようまた、全ての子供が平等に教育を受けられるよう、中学教育までにかかる全費用を無料にしてほしい。

格差社旗の中働かなくてはならない親が多くいます。職場の子育て支援の充実が重要だと思います。育休や時短などの取り組みも多くありますが取得が難しい母親たちには病児保育

学童は就労する親の子供が対象との認識を保っている。親が不就労の場合は一時的(急用など)に預かってくれるところがないか非常に少ないと思っている。小学校低学年では、まだ一人で家に留守番させるにも不安なので一時的に預かってくれるところがあれば助かります。

学童保育(小学生)の20時までの実施

学童保育室の入室可能な学年を拡大してほしい(現在、3年まで入室可能。6年までとは思わないが、4年生～5年生まで可能になるとよい)

休日(土、日、祝)以外に子育て支援に関する(その他市の取組も含む)事を知る機会がない

給付金よりも、安心して子供を預けられる施設を作ることが少子化対策になると思います。
共働きの為、子供が病気に、簡単に預けられるところがほしいのと、学童保育が3年生で終わってしまい、その後の預け先がなく、子供が1人で留守番が心配。
共働きの場合、子供を保育所に預けたいと思うけれど、すぐ入れる訳ではないと聞きました。どうしたら良いのですか？その保育所の良し悪しをわかる情報が少ないですとても不安です。安心して預けられて安いところをつくってほしいと思います。
教育費用の負担減のための制度、対策の確立！
近々に子供が生まれるかもしれません。保育所等の拡充をお願いします。
近所に公園が多く子供を遊ばせるので子育てはしやすい市なのかなと思います。ベビーカーでの移動が多いのですが、歩道などまだ段差が多いと感じます。これから自転車での移動も増えてくるので、改善されればいいなと思います。
結婚していますが、子供がいません。今は正社員で働いています。子供が出来たら2度と正社員がむずかしいのでは・・・と思うと不安です。
結婚しない、子供を持たない、結婚はしないが子供は持つなど、多様な家族のあり方が今後広がっていくのだと思います。子育て支援が特定の家族のあり方に片寄ることで、それ以外の家族のあり方を選択した人たちの不平等感につながらないようにして欲しいし、色々な立場の人が子育てに対する思いやりを持ってやるような環境整備をしていけると良いと思います。
結婚もしていないのに、子育てといわれてもピンときません。
現在、子どもはおらず、サービスを受けておりませんが、情報紙など見る限り、働いていない人が参加しやすいものになっているように感じる。働いてしっかり市民税をおさめているが、良い行政サービスを受けられていないように感じる。もう少し働く人、働き子育てする人たちに優しい環境、サービスの提協を期待しています。
現在、幼稚園に勤務しており子供はいませんが子育て支援については興味があります。子育て支援＝保育施設を増やすことは、少し違うと思います。ただ増やしても意味がありません。もっと現場がどう動いているのか、そして本当の支援は何かを市を動かせる方々が知ることが、より良い支援につながっていくと私は感じます。期待しています。
現在保育園に預けているが、第二子を里帰り出産できるように休園ができる期間を3～4ヶ月まで延ばしてほしい。
戸田に来て4年。とても住みやすいと感じております。子どもをこれから持ちたいと考えておりますが、戸田は少子化ではなく待機児童が多く、働けなかったという人達の声をきいてとてもこれからが心配です。財政も他に比べれば豊かな市です。市民のためになる政策にお金を使ってほしいと切に願います。
戸田は子育てしやすい所だと言われます。十分、満足しています。
戸田駅前のつけ麺屋さん（ウェルシアの前）の悪臭が気になります。子どもが居たら、歩かせたくない程、汚れています。どうにかありませんか。直接子育てに関係がなく申し訳ございません。他、子どもが広々遊べる公園が少ない様に思います。
戸田市の子育て支援は他市にくらべて1歩遅れている。（医療等）蕨市とくらべても3～5年遅れる。もう少しスピーディに対応してほしい
戸田市は公立の幼稚園がないのですか。つくるべきだと思います。
戸田市は他市に比べ充実している方だとも思います。
戸田市は他市の友人にうらやましがられるくらい子育て施策が充実しています。今後は地震、水害時に衛生環境の悪化で子どもの命が失われることのないような施策をお願いします。ライフラインの耐震化・防水化（特に浄水場の更新、上下水道の給水管・排水管の耐震工事 非常用電源の耐震防水工事、震度7に耐えられる貯水タンクや水のいらぬエコトイレの配備）を進めてくださいお願いします。個人ではできないライフラインの整備こそ、戸田市に求められる「子育て支援」だと思います。どうぞよろしく願いいたします。
戸田市は大型トラックがひんぱんに通る環境。狭い歩道に歩行者と自転車が行きかき非常に危ないと思います。
公園をまんべんなく作ってほしい。ある所には数ヶ所あるのにない所は歩いて15分以上かかる所もある。道も、ほどうをもう少しがんばって整備して欲しい。
公立保育園に病児、病後児保育のスペースが作れるくらい広い土地に保育園を造ってほしい、働く母親は集団生活でしょっちゅう病気になる子供のために休むのは大変、現状の保育園は狭すぎる。
公立幼稚園がないのが困る。
広汎性発達障害・ADHD・LDといった生きづらさを抱えた子ども達の支援をさらに充実させていって頂ければと思います。
広報が少ない。利用施設が汚い。公園がない。
行政も援助や補助について子育てしている親の身になって税金をしっかり使ってもらいたい。
高校、大学進学などの奨学金などの増額とゆるやかな返済計画を求めます。
今現在子育てをしている世代は支援もあるしうらやましいです。私の世代は支援も少なく3人を大学まで入学させるのは大変でした。我が家の場合は父と母の手を借りて（お金以外）働いておりました。
今後保育園に預ける予定だが、保育時間が延長できると良いパートタイムでも保育園に預けられるようにしてほしい。

埼玉の保育は都内の公立保育園と比べて質が問われているとききます。給食は大切な食育の一環でもあるので完全給食をしてほしい。(戸田の実情はしりませんが)。それから、なんでも民間にいたくするのではなく、公的保育を市として守ってほしい。
産前、産後のサポートが都内に比べ悪い。中央区はタクシーチケットをくれたり、一時預かりも6ヶ月からOK
子ども2人歯科矯正をしています、かなりお金がかかります。子どもの矯正は、健康のために必要だと思いますので、保険適用ではないので助成金があればうれしいです。よろしく願いいたします。
子どもがいないので支援についての知識や興味はありませんが会社の子育て中の方を見ていると、子どもの病気で仕事を休まなければならない、給与にも仕事にも影響が出ています。かぜ程度であれば預かってもらえるサービスがあったらいいのではないかと思います。
子どもの医療に関する支援は今後も継続できれば拡大充実して欲しい。親が病気になったときについても支援する仕組みを整えてほしい。
子どもを安心して遊ばせられる広い公園がほしい(小さめの公園ばかりなので)/PMも開放されている広場を増やしてほしい(お昼寝の後、遊ばせやすい)/新曽北小など、階段があるので、ベビーカー、自転車でものすごく不便。改善下さい。/ピリーの様な広い室内をもっと子育て広場として開放してほしい。
子どもを持つつもりがない。支援を打ち切ってほしい。
子育てがしやすいと聞き、マンション購入と同時に住み始めましたが、幼稚園が私立しかなく、23区は補助が出て月1万位に対して、戸田市は平均月3万くらいで、幼稚園に行かせるために働きに出なければいけません。また、こんなにマンションばかり建つのに保育園のことを後回しにしている状態で保育園にも入れず本当に困っています。この先学童にも入れるのか不安を覚えます。働きに出にくい、0~8歳くらいまでへの補助を検討していただきたく、お願い申し上げます。
子育てがやりやすい環境の中で過ごすことができ戸田市在住でよかったと思っています。
子育てした経験がないので、子育て等に関する情報は市の広報等を見えています。
子育てには関係ありませんが、駅前がもっとお店が増えて、人が集まる街にして頂ければと思います。
子育てに何か関わる機会がないので市報などでどんな支援が受けられるのかを継続的に情報を提供して欲しいです。
子育ての前に若い人たち(息子も含む)、結婚してください。これ以上人口が減っていかないように...私達の時代にはこんな支援はなかった...なんて言いませんから(笑)どんどん支援してください。
子育てをするお母さんたちが参加し、仲間が作れる場所や相談できる場所が多く、一人で悩むようなことがないようにして欲しいです。
子育てを終えた今、子供は親だけではなく地域で育てるものと強く思います。いろいろな経験を通して育つものなので、色々な刺激を受けてほしいです。子育て支援は親を楽にする為だけのものではないと思います。
子育て環境日本一の市になれますように
子育て支援に対するアンケートなら、無造作ではなく、実際に子育てをしている方、これから子育てをしようとしている方、など対照にしたほうが良いかと思います。私の回答はあまり役に立つとは思えません。切手代のムダです。
子育て支援のサービスばかりにお金を使わないで夏に小中学校のプールを開放したり(もちろん監視員必要)、子供たちの遊び場、教育の場を増やしてほしい。マンションばかり増え、公園が少ない。荒川河川敷の整備。特に川口市よりの荒川の整備。もう少ししっかりやってくれば子供たちの自然とふれあえる憩いの場になると思います。私たちは川口市よりの戸田市に居住していますが、あまり戸田市民としての恩恵を受けていません。戸田市喜沢南、荒川近くの住民です。街灯も少なく、小児科も幼稚園も近くにない。小さい公園が点々とあるだけ。戸二小は
子育て支援の団体への助成を増やして欲しい
子育て支援の良いトコロを残しつつ継続していただきたい。
子育て支援は、お金をバラまいても、しかたない。小・中学校の教育にもっと力を入れて欲しい。戸田市の学力は県内でも低く、大変不安である。先生の熱意がまったく感じられない。授業をビデオだけで終わらせたりすることへの不満がある。教師なら自分で教えるべき、子供たちの学力を県内トップにしよう。塾に通わないでも学力を保証します。などの熱意が欲しいです。
子育て支援ばかりではなく、子供のいない家庭(ほしくてもできない)にも住みやすい、住んでよかったと思える街作りをお願いします。
子育て支援も大事だが、子育てに入る前の世代(就業初めすぐ~数年目くらい)の支援についても考えてほしい。
子育てで真っ只中です。戸田市の子育て支援は充実していて助かっています・自分も
子育て中のママが生活しやすい環境になればいいと切に願っています。一般人が何かお役に立つことがあれば知らせて下さい。
子供が高校生、大学生になると経済的負担が大きくなる。奨学金制度などを充実させてほしい。
子供が小さい間は子育てに専念出来る状況が望ましいと思うので、「子供が小さくても働きたい」という人は別として、出来るだけ子育てに専念出来る社会になるように支援していただければと考えます。
子供が多い割に、子供が安心して遊べるような場所が少ない印象があります。
子供が遊ぶ場所が少ない。公園はたくさんあっても、遊具がちゃんと整備されてなかったり、市内は広いのに、児童館が一ヶ所しかない。広いのだから、何ヶ所か増やしてほしい。 157

子供が幼稚園に通っていた頃、夏休みの預け先が保育園しかなく不便。戸田市の幼稚園ではそのようなサービスがないのを疑問に感じる。他の自治体では聞いたことがない。

子供が幼稚園の夏休みに新曽保育園の一時保育を利用したことがあります。一時保育の手続きが大変だったのと、場所に慣れていない子供2人が嫌がり、結局、高額な保育施設に預けました。一時保育は親子共々ストレスがたまり良い思い出がありません。幼稚園の長期休暇の時に幼稚園で一時保育をしていただけたとよかったですと思います。

子供が幼稚園の頃、延長保育を自分の遊びの為に悪用する方が結構いたり、子育てのサークルでも私物化(?)されているような方がいたり、収入が低いんだから支援は私達の為!という方をたくさん見ました。納税額が多いが為に、あまり支援の恩恵を受けず、嫌な思いをすることが多かったので、むしろ子育て支援は必要ありません!その分、介護の支援や親を引き取った時に、支援が必要だと思っています。

子供に関する相談機関がほしい

子供の為のイベントを増やして欲しい。以前後谷公園でやったキャンドルナイトは内容、進行ともに最悪だった。それから、子供が多い市なのに、子連れでママたちが気軽に行ける美味しいレストランが少ない。オープンカフェとかやってほしい。道端でやってくれるとありがたい。

子供の成長に伴って、子供に対する親の心配事も、ケガや病気→友達関係、いじめ→勉強、受験、学業資金→就職、結婚と変化してくる。どこかに偏ることなく、支援して頂けるとありがたい。成長するにつれ画一的でなくなるので研究が必要だと思う。

子供は2人までが限度という人が多い、お金がかかる、学校のPTAが大変すぎる、もっと安く気軽にあづかってもらえる所があればいい

子供を産みたいが経済的理由により諦めている方が、本当に多いです。これは日本が抱える大きな問題であり、早急に対応する必要があります。出産育児する母親に特別な手当てを与える、父親が育児休暇をとれる環境、保育園・幼稚園の料金低格化、赴任治療費用金額負担、出産育児後の就職あっせん、子供を育てやすい条件を整えてください。育児保育はあまりポピュラーじゃないし、手間が掛かるイメージです。子供が病気になれば、仕事を休んで看病することが当たり前として社会で受け入れられるようになればいいと思います。

子供を持つことで生活は苦しくなるかもしれないが、それは各家庭でやりくりをすることなので、安易に助成金を出すのはやめたほうが良いと思う。同じ金額使えるのなら必ず役に立つ、給食費(小学校、中学校)にまわすべきだと思う。出産に関わる費用が高すぎる気がする。

子連れで遊べる室内施設やスペースが増えてほしい。

市の外れ(喜沢)でも利用できるように増やしてほしい。図書館も親子ふれあい広場も徒歩30分は遠すぎる。

市内にきちんとした(専門的な)療育機関がない為、外部に高額な費用を払って通わなければなりません。地域で育てていく為に、幼児期～学齢期まで必要な支援を受けられる体制作りをお願いしたいです。小学生が十分に遊べる場が少なく、困っています。公園でボールが使えない...etc 幼児～学齢児まで、それぞれが自分の責任でしっかり遊びこめる場(プレイパーク)をぜひ早急に戸田に設置していただきたいです。

支援は現金ではなく、未納が問題になってる給食費に回すべき。親は税金から支援を受けている事をあたりまえに思わないで欲しい

私事、若い年令で子育てを経験しました。時代の流れに親としての子育ての違い、また、人それぞれ思考が明確になっていると思います。親としては、子供を孤立させないようにコミュニケーションの環境場所を増やし、支援して頂けたらいいなあと思っています。

児童館までの距離が遠い。小さい子供をつれて外出するには大変。又、赤ちゃん用品を取り扱ってる店舗が少ない。

自分に子供がいらない為、状況は詳しく分かりませんが、待機児童の問題は知人・友人からよく聞きます。共稼ぎで働かなければいけない昨今の状況なので、保育所の充実に力を注いで頂ければ、よりよい市政になるのでは、と考えます。

助成や手当の支給も大切と思いますが、保育所を増やすとか空いている施設を使って子育てサポートするとかの方法も必要かと思っています。若い世代の方々やファミリーが長く住んでもらえるような環境をととのえる行政政策が大切だと思います。

女性が働きながら子育てがしやすい市になるように、宜しく願います。

将来できるだけ働き続けながら子育てをしたいと考えています。働く親が安心して預けられる幼稚園や保育園のより一層の充実を希望します。

小さい子供が遊べる公園を増やしてほしい。

小学生までの間、車の運転をしなかった為、雨の日など天候の悪い日の送迎が自転車で出来ない時が不便でした。タクシー会社などと提携して、チケット制などで割安で利用できる(市内のみ)など提案したいです。トコバスの路線拡張など。交通マナーが悪いので歩行者、自転車が乗りやすい環境の整備など。

障がいのある子どもに対しても、もう少し理解と配慮が望ましい。

障害児に対する支援が薄い。Ex 金銭補助。幼稚園、保育園の障害児受入れに対する加配補助。各小学校に支援級がない事。

上戸田4丁目付近の歩道、街灯の整備をしっかりとしてほしい。

職場の小さいお子さんを持つ社員さんたちは、お子様の病気や夏休みなどの子育てに苦労されています。お金を支給するのではなく女性が安心して働き続けられるサポートを考えていただきたいです。
親の援助、手助けがあったので仕事をやめずに続けることができました。市の支援だけだったら仕事ができず今の豊かな暮らしは無かったと思います。保育園で早朝、夜間など、24時間連続した保育に対応できるようになると良かったです。
親の働く時間を短くできるように、補助金を充実させてあげて欲しい。老人ホームと子育て施設が一つになったシステムができますように。
親子で参加できるプログラムを増やしてほしい
進級・進学時の助成をお願いしたい。児童手当で、小さい時よりも幼稚園～小学校、中学校の方が何かと出費は多くなるため支給額等検討願いたい。
正直戸田市の事が未だに分かっていないのもっと知りたいと思った
税金が高すぎと思う。働いている人が働かない人を助けるのは、おかしいし、本当に助けてほしい人に支援されない今の政治は、大変おかしいと考えている。全ての人がそうではないとは思いますが本当に真剣に仕事をしてほしい。
相談窓口でTELしたが担当の者が「その質問は医者でなければわからない」といった。そのような言い方を気を付けてほしい。なので対応者の質の向上をしてほしい。
他の市区町村に比べ充実していると感じる。今後もなるべく現状を維持して行ってもらいたい。
待機児童が出ないようにしてほしい
待機児童が多いと聞いています赤ちゃんが預けられたら仕事に復帰しやすいですね
中学生はとてもお金がかかるので、助成金増やしてほしいです。
鶴ヶ島の小学校では、学童が6年生までであると伺いました。今は働いていないのですが、朝から働きたいと思っています。6年生までの学童をお願いしたいです。
低所得者を過剰に大切に過ぎです。
弟に子ども(甥)がいますが、病院など費用がかからないなどを知り、有難く思い、見守っているところです。
土・日・祝日に保育してもらえ環境を増やしてほしいです。(24時間保育が望ましい)ファミサポのシステムも面倒に感じる。病児保育の手続きが難しい。結局はその手続きで半日または1日休むことになる。
働いていても子どもを産んで育てられる環境が大事だと思う。戸田市は若い人も多く、都心にも近いので通勤や進学にも便が良く、支援を充実させてほしい。
働きながらの子育てではファミリーサポートセンターの皆様にはとてもお世話になりました。特に
乳幼児ばかり、支援が手厚いですが、実際にちばんお金がかかるのは中学です。修学旅行や部活、制服など…。中学生にももう少し支援があると助かります。
妊娠から出産まで、一連の流れと戸田市が助成してくれる一連のサービスのわかる資料がほしい
悩んだ時相談できる電話番号がありますか？あれば知りたいです。幼稚園の数が足りないのは問題だと思います。特に北戸田周辺はマンションがたくさん建っているので市街からやってくる方も多いはず。競争率が高くなり入園できない事のないよう、ぜひお願いしたいです！
納税者を大切にしてください。金銭給付より減税免除
必要な人に必要な助けが行き届くような実のある支援を目指して尽力願います
病児、病後保育の充実。預ける時の手続き必要書類の簡略化と受け入れ人数を増やしてほしい。学童保育の預かり時間の延長と家庭の事情(一人っ子、近くに頼れる人がいない、親の通勤先が遠い等)によっては6年まで預り可能にしてほしい。民間学童の誘致。
夫が毎日遅くまで働いてるのに生活保護より少ないのが納得いかない。生活保護なくしてほしい!!私達の血税を悪用する人が多すぎる!!
保育園に支援センターがあるようだが、非常に入りにくい、行きにくい。月齢の小さな子でも、気軽に遊びに行ける施設が何か所かあると助かる。
保育園の平日行事はやめてほしい。(夏祭り)仕事を休めない人は子供がさみしい思いをし、かつ職場では同日に何人もの人が休むので、困るやるのであれば、必ず親と一緒に行動ではなく、園主催を保護者が見守る形にしてほしい
保育園の保育料を、もう少しだけ安くして頂きたいです。
保育園は私・公立共に沢山あるが(不足していると思うが)何故幼稚園は私立しかないのか？幼稚園選びの際、私立しかないので選択肢が少なく費用がかかる。
保育園をもっと増やしてほしい。保育園の保育内容も、もっと「教育」に力を入れたものにしてほしい。
保育園を増やして欲しい
保育所や子どもの助成があってほしい。
保育料が高い(保育園)・同じ保育料でも公立、私立でサービスがちがう(オムツを持ち帰るや昼食毎の歯みがき等
保守的な子育てが多いので、もっと子供達をのびのびと育てたい59

防犯カメラを増やしてほしい。犯罪の抑止力になると思う。
北戸田駅近くに出来たバスケットコート、以前から戸田公園近くにも同じ様な安全な広場がありますが、戸田駅付近にも作ってほしいです。
北戸田駅周辺に保育園が少ない
本当に困っている家庭に支援が行き渡る事を希望します。そこまで困っていない所に同じ様に支援、援助されていると思うと不公平な気が・・・。
無記名と言いながら封筒下部に表示がついているのはなぜ？市役所名でも誤解を招きます。
問38～42までの質問の意味がわからない。
幼小期の助成金ではなく、実在、一番費用かかる時期(高校、大学)に助成金を受給されたら良いと思います。
幼稚園に上がるまでの乳児期のサポートが充実しているとよかった。新米な母親なのに、熱が頻回に出たりして（赤ちゃんの）一人で対処できない。孤独だった。つらかった。実家が地方の人も多いので、行政でフォローして欲しかった。育児サークルのようなものがあれば、一人でかかえまらずに済んだと思う。
幼稚園の数が少なく、市外に通っています。月に1～2回は園に行く用事があるので、市内にあったらよかったなと思います。小学校も児童があふれていると聞きます。大きなマンションの建設を許可するならば、インフラの整備にも力を入れてほしいと思います。小学校～通える学校を選択できるようにしてほしいです。遠いうえにプレハブ校舎では…。スピードを上げてくれないと、育児おわってしまう!!
幼稚園へ通わせている子供の助成を増やしてほしい。働きたいが、時間帯が難しい。
幼稚園入園前の公立の保育園で行われていた子育て支援の保育に参加したことがあります。同世代の子供がたくさんいて楽しかったです。
来年は働きたいと思っているが、今、働いてない以上、2月の時点での学童申込みはできるのか不安。できたとしても、これから20年働く職場を1ヵ月で決めるのもどうかと思う。専業主婦（子育て中）が安心して社会復帰できる仕組みを考えて欲しい。







「戸田市における子育て支援活動」調査  
共同研究報告書

---

2013年3月

発行 目白大学社会学部地域社会学科／戸田市政策研究所

連絡先 戸田市政策研究所（戸田市政策秘書室）

〒335-8588 戸田市上戸田1丁目18番1号

TEL 048-441-1800（内線）470

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)

---